

研究紀要第56号
令和元年度

「集団や自己の生活上の課題を解決し、 『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」



東京都小学校特別活動研究会

東京都小学校特別活動研究会

令和元年度

研究紀要第56号

目次

○ 目次	1
○ これまでの研究集録・研究紀要一覧	2
○ あいさつ	3
○ 研究の基調	4
○ 研究構想	5
○ 令和元年度研究発表大会要項	6
○ 宿泊研修会	8
○ 各活動部の研究活動	
I 学級活動	9
II 児童会活動	29
III クラブ活動	49
IV 学校行事	69
○ 本年度の研究の成果と今後の課題	89
○ 東京都小学校特別活動研究会会則	90
○ 顧問・役員・本部幹事・理事・副理事名簿	92
○ あとがき	95

これまでの研究集録・研究紀要一覧

第 1 号	(昭和 39 年度)	特別教育活動における指導計画作成上の諸問題
第 2 号	(昭和 40 年度)	特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方
第 3 号	(昭和 41 年度)	特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画
第4～5号	(昭和42～43年度)	望ましい指導計画による実践事例とその考察
第6～7号	(昭和44～45年度)	改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点
第 8 号	(昭和 46 年度)	新教育課程実践上の諸問題
第 9 号	(昭和 47 年度)	教育課程実践上の諸問題
第 10 号	(昭和 48 年度)	特別活動と他領域との関連
第11～13号	(昭和49～51年度)	ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
第14～16号	(昭和52～54年度)	楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
第17～19号	(昭和55～57年度)	豊かな人間を育てる特別活動
第20～21号	(昭和58～59年度)	特別活動の特質をふまえ豊かな人間性の育成
第22～23号	(昭和60～61年度)	実践力を育てる集団活動のあり方
第24～26号	(昭和62～平成元年度)	個が生きる集団活動の育成
第27～28号	(平成2～3年度)	望ましい人間関係を育てる特別活動の計画と実践
第29～31号	(平成4～6年度)	特別活動における新しい学力観と評価
第32～34号	(平成7～9年度)	学校週5日制と新しい特別活動の創造
第35～37号	(平成10～12年度)	生きる力をはぐくむこれからの特別活動の創造
第38～40号	(平成13～15年度)	豊かな学校生活を創造する特別活動
第41～43号	(平成16～18年度)	子どもたちの社会性をはぐくむ特別活動
第44～46号	(平成19～21年度)	自立を促す望ましい集団活動の創造
第47～49号	(平成22～24年度)	特別活動で育つ子供たちの力
第50～52号	(平成25～27年度)	よりよい人間関係を形成する特別活動の在り方
第53～55号	(平成28～30年度)	自己有用感を高める望ましい集団活動
第56号	(令和元年度)	集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動

あ い さ つ

東京都小学校特別活動研究会会長
北区立西浮間小学校長 小島 みつる

「自分で考え、しっかりと行動できる人」「向上心をもって、常に挑戦しようという気持ちがある人」「コミュニケーション能力のある人」「課題形成・課題解決能力と対人関係能力」・・・これは、大手企業の採用ホームページ「当社が求める人材・能力」に掲載されていた内容の一部です。企業が求める人材、すなわち社会が求めている人材は、まさに特別活動で育てようとしている児童の姿ではないでしょうか。

学校はそこで学ぶ児童にとって「社会」そのものです。この小さな社会の中で、児童は大きな社会でよりよく生きていくための力、社会が求めている力を身に付けていきます。「自分には社会（学校・学級）を変える力がある。」「みんなの力を合わせれば、より楽しい社会（学級・学校）が創れる。」これを体感できるのが特別活動であると考えます。

令和元年度、特別活動は新学習指導要領先行実施2年目となりました。新学習指導要領では、特別活動で育てる資質・能力の3つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を踏まえ、社会や集団の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育成することが示されています。

本研究会では、昨年度までの3年間、「自己有用感を高める望ましい集団活動」を研究主題として、「自己有用感を高める」ための具体的手だてとその有効性の検証方法を探り、研究の成果をまとめました。今年度からは新たな研究として、「学びに向かう力 人間性等」の資質・能力の重要な視点である「自己実現」を取り上げ、研究主題「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」を設定し、「学級活動部」「児童会活動部」「クラブ活動部」「学校行事部」の4研究部会を中心に、実践研究を進めてまいりました。

本日は、それぞれの研究部が、1年目の研究実践の成果と課題を発表いたします。東京都小学校特別活動研究会部員一人一人が「なすことによって学ぶ」の基本原則通り、日々の授業改善を目指して実践研究を進めてまいりました。この学び深めてきた内容を、ご参会の皆様、分かりやすくお伝えできれば、と願っております。また、会場校であります北区立西浮間小学校では、本研究会のこれまでの研究成果を参考に北区研究協力校として学級活動のよりよい指導について校内研究を進めてまいりました。本研究会の実践研究の具現化にはまだまだ遠く及びませんが、研究1年次の実践紹介として学級活動の授業を公開いたします。ご参会いただきました皆様には、ご意見、ご感想などを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、研究発表大会にご指導・講評をいただきました文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 安部恭子先生、日頃よりご支援いただいております東京都教育委員会、各地区教育委員会及び理事の皆様、ご指導賜りました講師の先生方、本研究会諸先輩の皆様、各研究会場の校長先生方はじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。

本年度の研究の基調

1 研究主題

「集団や自己の生活上の課題を解決し、
『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」

2 主題設定の背景及び理由

本年度から新たな研究主題での研究1年目となる。

新学習指導要領 第1の目標の(1)(2)(3)の資質・能力の一つに「学びに向かう力 人間性等」における「自己実現」が示されている。

また、特別活動において育成を目指す資質・能力における重要な要素として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理されている。

これまで本研究部において、様々な研究主題を掲げ、特に「人間関係形」「社会参画」については重点的に取り組んできた。今年度から3年間の研究においては、「学びに向かう力 人間性等」の資質・能力の重要な視点である「自己実現」を取り上げ、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事において研究を深める。

3 本研究における「自己実現」について

以下のように「自己実現」を捉えている。

特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。
(学習指導要領解説第2章 第1節)

4 研究を進めるにあたって

各活動・学校行事において、以下について研究を深めていく。

本研究における「自己実現」は、学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」いうところの「自己実現」のみの捉え方ではないが、各活動、

研究部長

氣田 眞由美 (板橋区立上板橋第四小学校長)

学校行事において、「キャリア形成」の視点をおさえることや「キャリア形成」を意識した手立てに留意することで、今回の改訂において示された「特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を適切に行う」という視点を踏まえることとする。

その上で、

- ・「自己実現」の捉え方を明確にする
- ・「自己実現」の具体的な子供の姿を明らかにする
- ・目標に示されている「課題を解決することを通して」資質・能力の育成を目指す
- ・各活動・学校行事において、話し合い・実践・振り返り・次の課題解決という学習過程を大事にする

5 研究計画

① 令和元年度

仮説を立て、具体的手立てと学習過程を明確にした授業実践

- ・各活動、学校行事における「自己実現」を明確にし、共通理解を図る。
- ・各活動、学校行事における学習過程(課題解決)を構築する。
- ・どうすると「自己実現」を目指す力が育つか仮説を立て、授業実践を行う。

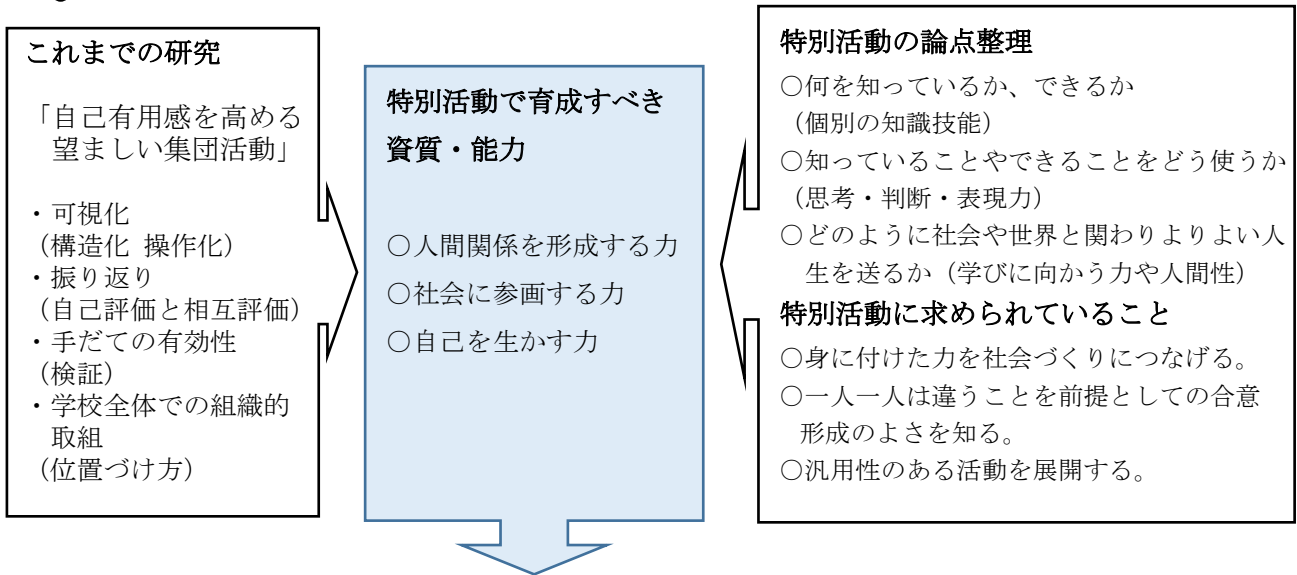
② 令和2年度

実践を裏付ける理論・仮説の検証

③ 令和3年度

汎用性・再現性のある提案

東京都小学校特別活動研究会研究の構想



研究主題

「**集団や自己の生活上の課題を解決し『自己実現』を目指す力を育てる特別活動**」

<p>特別活動における自己実現とは・・・</p>	
<p>特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。(学習指導要領解説第2章 第1節)</p>	
<p>研究の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各活動、学校行事における「自己実現」を明確にした共通理解 2 各活動、学校行事における学習過程(課題解決)の構築 3 どうすると「自己実現」を目指す力が育つか仮説を立てた授業実践 	<p>共通の研究の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自己実現」の捉え方の明確化 2 「自己実現」の具体的な子供の姿の明確化 3 目標に示されている「課題を解決することを通して」資質・能力の育成 4 各活動・学校行事において、話し合い・実践・振り返り・次の課題解決という学習過程の尊重

各部の研究主題

学級活動部	児童会活動部	クラブ活動部	学校行事部
互いに認め合い、高め合い、自己の良さを生かす学級活動	共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動	仲間とともに自己の良さや可能性を広げ生かす学校行事	関わりの中で「自己実現」を図る児童会活動

令和元年度 東京都小学校特別活動研究会 研究発表大会要項

- 1 研究主題 集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動
- 2 日 時 令和2年2月14日(金) 13時 受付開始
- 3 会 場 北区立西浮間小学校 (〒115-0051 北区浮間2-7-1)
- 4 時 程

13:00 13:20 14:05 14:20 14:40 15:50 17:00

受付	授業公開	移動	<ul style="list-style-type: none"> ・開会のことば ・あいさつ ・基調報告 	研究発表				講演	閉会のことば
				学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事		

5 次 第

進 行 庶 務 部 長 今 田 喜 紀
(板橋区立志村第三小学校長)

① 開会のことば 副 会 長 岡 野 範 嗣
(大田区立東六郷小学校長)

② あいさつ 会 長 小 島 みつる
(北区立西浮間小学校長)

③ 来賓あいさつ・紹介 副 会 長 木 田 明 男
(小平区立小平第三小学校長)

東京都教育委員会
 北区・北区教育委員会
 全国特別活動研究会
 全国道徳特別活動研究会
 全国小学校学校行事研究会
 関東地区特別活動研究会
 東京都小学校学校行事研究会
 多摩地区特別活動連絡協議会
 本研究会顧問・参与

④ 基調報告

研究部長 氣田 眞由美
(板橋区立上板橋第四小学校長)

⑤ 研究発表

司会 研究部副部長 篠 遠 信 行
(文京区立根津小学校長)

	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
テーマ	互いに認め合い、自己のよさを生かす学級活動	関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動	共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動	仲間と共に自己のよさや可能性を広げ生かす学校行事
部長	藤田 寛樹 (文京・湯島小・主幹教諭)	大藏 久美 (小平・小平第六小・指導教諭)	高橋 信行 (足立・千寿第八小・主任教諭)	原田 恵子 (中央・有馬小・主任教諭)
発表者	大野 和代 (足立・千寿第八小・指導教諭) 高橋 佳広 (港・港南小・教諭)	渋井 洋子 (東久留米・南町小・指導教諭) 関田 裕子 (世田谷・松原小・主任教諭) 塚田 雅子 (国分寺・第五小・教諭)	加藤 葉子 (江戸川・上小岩小・教諭) 島田 泰子 (墨田・曳舟小・教諭) 中本健太郎 (江戸川・第四葛西小・主任教諭) 矢部 聡 (世田谷・尾山台小・主任教諭)	榎本 誠太 (多摩・多摩第二小・教諭) 山内 佳奈 (江東・有明西学園・主任教諭) 久原 千恵 (板橋・北前野小・教諭)
記録	金澤 勇輝 (稲城・稲城第三・教諭)	畑 理恵 (葛飾・南奥戸小・主任教諭)	山口 哲郎 (葛飾・本田小・教諭)	檜山真理子 (足立・舎人第一小・主任教諭)
全体記録	石田 孝士 (世田谷・塚戸小・校長) 藤井美貴子 (世田谷・中町小・主任教諭)	大野 正人 (練馬・大泉北小・副校長) 梶原 真唯 (東久留米・第二小・教諭)	仕道 祐紀 (世田谷・塚戸小・教諭)	

⑥ 記念講演

演題「よりよい生活をつくり自己実現を図る力を育む特別活動」

文部科学省初等中等教育局教科調査官

安部 恭子 先生

⑦ 閉会のことば

副会長 新井 正一
(新宿区立落合第三小学校長)

令和元年度 宿泊研修会

令和元年12月21日（土）・22日（日）

令和元年度の宿泊研修会は、フォレストイン昭和館（東京都昭島市）で開催された。

1日目の懇親会には、顧問の若林 彰 先生、長田 信彦 先生、前研究部長 佐野 匡 先生も参加くださり、親交を深め楽しく有意義なひとときを過ごした。

2日目の研修会では、和やかな雰囲気の中、「特別活動の評価の在り方と自己実現」をテーマに本会顧問で有明教育芸術短期大学学長の若林彰先生にご講演いただいた。

- ・評価については、平成28年12月の中央教育審議会答申、平成30年10月1日及び平成31年1月21日の教育課程部会で触れられている。
- ・学習指導要領の特別活動の目標に3つの資質・能力が示された。目標に準拠した評価が重要であるので、3つも評価観点はこの目標から作成されるべきである。知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度である。これら3つには優先順位はない。
- ・指導要録における特別活動の欄の観点は、自治体や学校が決めてよいことになっている。学校で作成は無理である。結局、国の評価観点を採用する自治体が多くなるであろう。
- ・これまでの学習指導要領では、「自己の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養う。」とあった。この部分が自己実現にあたる。特別活動にける自己実現は、「集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする」視点ととらえることができる。集団という視点が特別活動では不可欠である。ここにある「課題」とは、現在生じている問題を解消することだけでなく、広く集団や自己の現在や将来の生活をよりよくするために取り組むことである。
- ・研究として「自分のよさが分かる」「自分の夢と希望をもつ」などのキャリア形成の視点を入れて取り入れていくことも考えられる。
- ・特別活動での自己実現は、自分の成長だけではなく、それが『社会貢献』に向かっている必要がある。集団への寄与が重要である。
- ・令和2年4月からすべての小学校・中学校・高等学校において実施するが、その準備ができていだろうか。

参加者は、若林先生からのご講演を聞き、本年度から始まった研究テーマについて各研究部会で更に実践を重ね研究を深めようと決意し、政界のうちに一泊二日の宿泊研修会の幕を閉じた。



出席者

若林 彰	長田 信彦	佐野 匡	小島 みつる	木田 明男	新井 正一
伊藤 幸一	岡野 範嗣	氣田 眞由美	田村 亜紀子	篠遠 信行	石田 孝士
浅野 正臣	小山 晴美	神谷 なおみ	藤田 寛樹	大藏 久美	高橋 信行
原田 恵子	渋井 洋子	星野 良明	島田 泰子	畑 理恵	川崎 真琴

I 学級活動

学級活動部 研究主題

「互いに認め合い高め合い、自己のよさを生かす学級活動」

I 本年度の研究について	
1 研究主題設定の理由	10
2 研究の視点	10
3 研究構想図	11
II 実践事例	
1 問題の発見・確認	12
2 話し合い～合意形成	15
3 実践・振り返り	18
4 授業構想のための質問紙調査	21
5 学級活動(3)の指導案(一部抜粋)	22
III 研究資料 発達段階による「とらえておきたい『学級会』」の観点	26
IV 研究の成果と今後の課題	28

研究の経過

令和元年	5月16日(木)	令和元年度の研究組織・年間計画
	6月13日(木)	今年度の研究内容の確認
	7月24日(水)	研究主題の確認
	9月26日(木)	研究授業3年 大野 和代指導教諭(足立区立千寿第八小学校) 「『学級の目ひょう』たっせい大作せん」学級活動(3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成 講師 元本会会長 東京都教職員研修センター 教師育成塾教授 上野 研二先生
	10月8日(火)	事前授業 高橋 佳大教諭(港区立港南小学校)
	12月6日(金)	研究授業4年 高橋 佳大教諭(港区立港南小学校) 「第2回 スポーツ大会をしよう」学級活動(1) 講師 元本会会長 玉川大学教師教育リサーチセンター 教職サポートルーム 客員教授 山口 祐一先生
	12月	研究のまとめ・紀要原稿の検討
令和2年	1～2月	紀要原稿の検討・研究発表大会の準備
	2月14日(金)	令和元年度研究発表大会

※事前研究会は、随時行った。

I 本年度の研究について

学級活動部 研究主題 「互いに認め合い、自己のよさを生かす学級活動」

学級活動部における「自己実現」の捉え

本研究会の研究主題「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」を受け、学級活動部では、「自己実現」を、児童が思いや願いを実現するために他者とよりよく関わりながら目標を設定し、自発的、主体的に実行する力と考えた。また、「自己実現」は、「人間関係形成」と「社会参画」と相互に関連していることから、「自己実現」を「自己のもつ可能性を最大限に伸ばし、よさを生かしながら、なりたい自分に向けて努力すること」と捉えた。

1 研究主題設定の理由

新学習指導要領には、「学級生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら、自主的・実践的に取り組むことにより、活動することの楽しさや成就感、達成感を得たり、自己有用感を高めることにつながる。」とある。これまでの3年間の研究で、一人一人のモチベーションを生かすことや認め合い高め合う学級集団を目指して、手だてを実践、検証してきた。児童の実態を数値化して把握するための質問紙調査を行うことで、これまでの担任による感覚的な児童の実態ではなく、児童の自己評価から実態を分析することで、児童に寄り添う授業改善に繋がった。一連の活動における様々な可視化を試み、これまで学級活動部で蓄積してきた手だてを学級の実態によって使い分けるなどの仕組みが整理されてきた。上記の「自己実現」の捉えと昨年までの研究を踏まえ、研究主題を「互いに認め合い、自己のよさを生かす学級活動」と設定した。

2 研究の視点

自分の思いを実現したいという願いを誰もがもっている。そこで、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して一人一人の思いや願いを実現させるためには、互いに認め合うとともに、集団の中で自分のよさを生かすことが大切であると考え、以下のように捉えた。

学級活動部の目指す児童像

- ◇自分たちが決めた「学級の目標」の実現に向け、学級の一員として、自分のよさや役割を自覚し行動する子（よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能）
- ◇理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら合意形成を図り実践する子（集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現）
- ◇協力し合いながら、活動を進めようとする子（主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度）

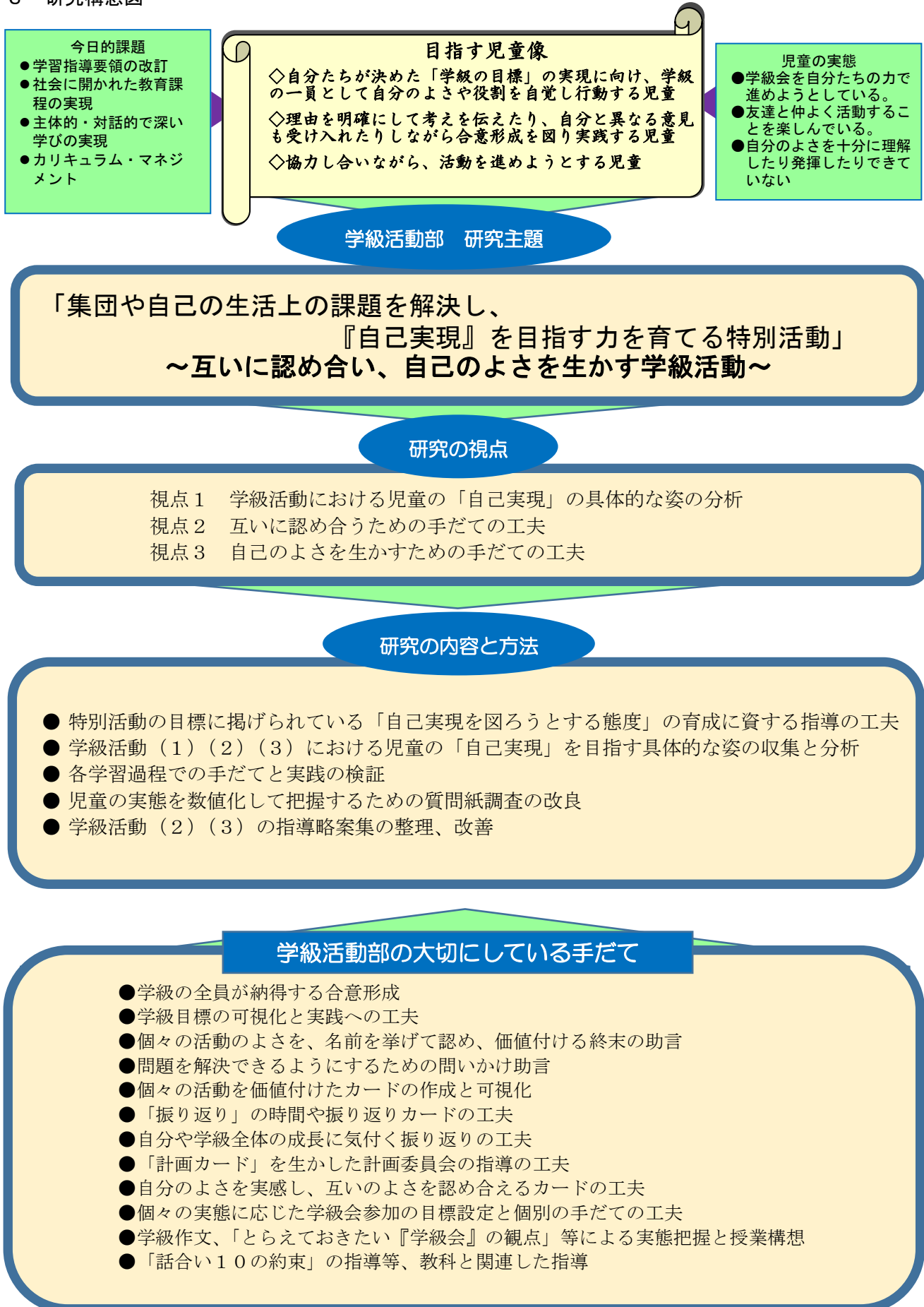
「互いに認め合う」とは

- ・自分と友達の違いが分かる。
- ・よいところも課題も全て受け入れる。
- ・互いのよさ、可能性を発揮する。
- ・仲良く助け合い、活動を進める。
- ・友達の喜びを知り、自分の喜びにできる。
- ・互いの思いや願いを受け止められる。
- ・学級の中に自分の居場所がある。

「自己のよさを生かす」とは

- ・自分の興味のあることや自身のあることが分かる。
- ・自分の興味があることや自信のあることを行い、友達や学級に貢献する。
- ・自分の思いや願いを叶えられる。
- ・学級の中に自分の役割がある。

3 研究構想図



II 実践事例

1-1 問題の発見と確認（視点1 学級活動における児童の「自己実現」の具体的な姿）

本学級の課題として、「自己実現」につながっていく自分の姿が実感できない傾向がみられた。そこで以下のような手だてを考え自分たちの成長を実感しながら次の活動へとつなげていった。

(1) 前回の振り返りからの議題発見

- ①実践後に学級全員で学級会カードに一連の活動を振り返る。
- ②提出された学級会カードをもとに司会グループで成果と課題を「振り返り新聞」にまとめる。
- ③朝の会を利用し、「振り返り新聞」の内容を学級全体に発表する。
- ④次の司会グループが「振り返り新聞」をもとに学級の

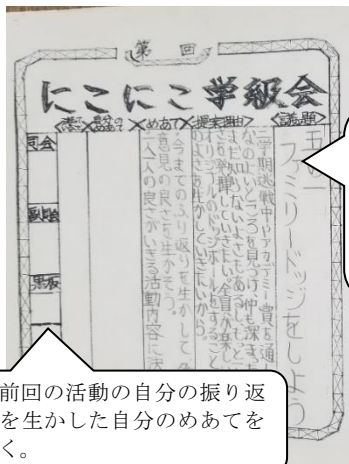
「今～という課題があるから、～したい」、「～をみんなで取り組みたい」「クラスを～にしていきたい」という願いや思いをまとめ、議題を選定し、帰りの会を利用し学級全体で議題を決める。

(2) 計画委員会

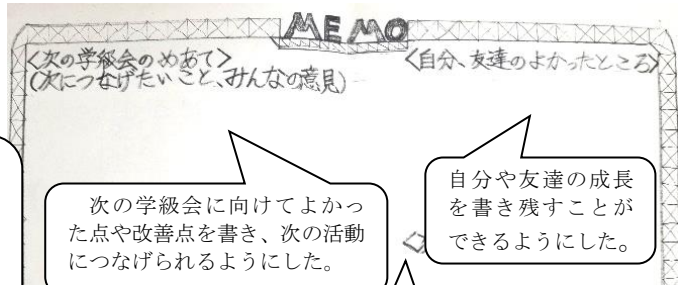
- ①司会グループが計画委員会を開く。
- ②議題選定で出た学級全体の願いを提案者とともに、提案理由を深める。

例：「今『前回の課題』がある。『本議題』をすることで、『解決後のイメージ』になれるから。」

- ③前回の活動の経験を踏まえ、司会グループで相談しながら、議題・提案理由・振り返りの欄がある「学級会カード」を作る。



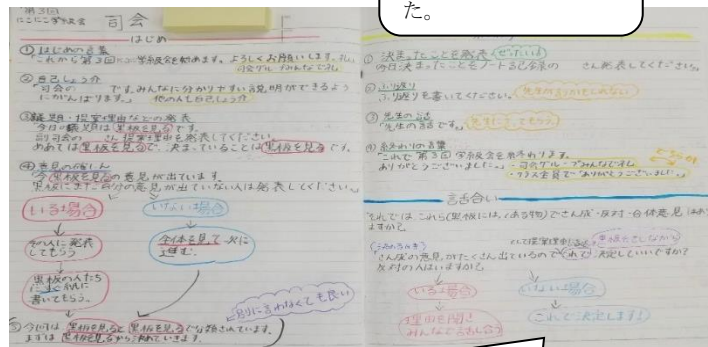
司会グループへの提案を書く欄を設け、学級会の進め方についても一人一人の思いを生かせるようにした。



次回の実践活動に向けての思いやめあてを考えられるようにした。

- ④当日の進め方について話し合う。
(何の順番で話し合うかを決める。
どのように進めていくか決める。)

- ⑤司会は計画委員会で話し合ったことをもとにして、話し合いの進め方を司会ノートに書く。



学級会カードに書いてもらった友達からの提案や前回の司会グループからの引継ぎ、自己の振り返りを活かし、自分なりの進め方をノートにまとめた。

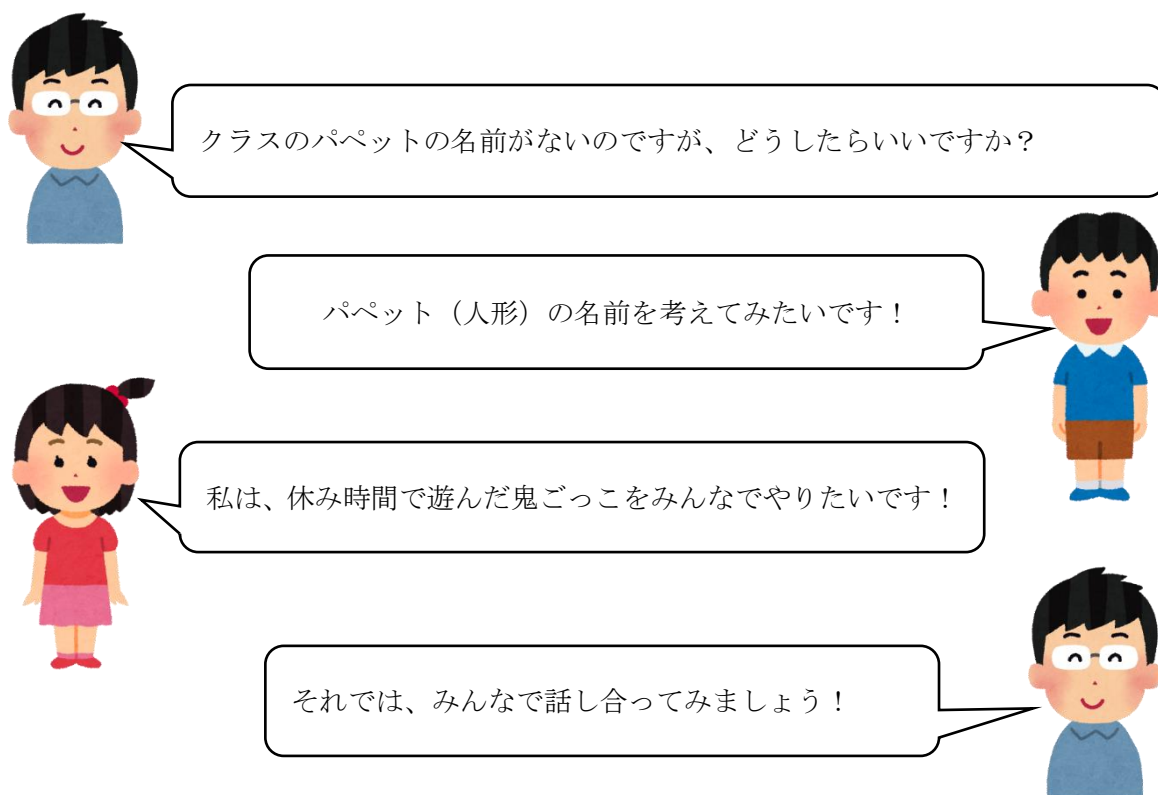
1-2 問題の発見と確認（視点2 互いに認め合い高め合うための手だて工夫）

学級会入門期の児童にとって自らの力で学校生活における問題の発見や確認をすることは難しいと考えられる。そのため、教師が学級の実態に応じて、意図的に働きかける必要がある。そこで、日常の学校生活の中からみんなでやりたいことを教師と一緒に考えられるようにする。

〈問題を見付けるための視点〉

- ・ みんなでやりたいこと
- ・ みんなで作ってみたいこと
- ・ 学級生活がもっとよくなること
- ・ みんなにお願いしたいことや困っていること

学級会の経験が少ない児童へ「みんなでやる」ことを意識させるために、教室環境や日常生活から問題の発見ができるようにする。



以上のように、児童の身近にあるものから議題の要素となるものを教師が取り上げ、児童と一緒に確認する。このような実践を積み重ねていくことで、児童が「みんなでやる」ことへの意識が高まっていき、自ら問題を発見し、様々な内容を話し合っていきたいと、主体的な活動ができるようになってきた。

1-3 問題の発見と確認（視点3 自己のよさを生かすための手だての工夫）

（1）学級活動オリエンテーション

1学期のはじめに「学級活動オリエンテーション」を行う際に、自己のよさを生かせる学級に

するための指導を工夫する。

- ① みんなのやりたいことができる時間
学級会は、「もっといいクラスになるために、みんなでやりたいことをみんなで話し合って、みんなで決めて、みんなで実践する時間」であることをおさえる。
- ② 学級活動(2)(3)
教師が司会を行い、「みんなで話し合って、もっといいクラスにするために、みんなと先生と一緒に話し合って、一人一人が自分の目標を決める時間」であることをおさえる。
- ③ 学級会は学級の目標の達成に近づくための時間
学級全員の願いが入っている学級の目標に近づくための時間であることをおさえる。

学級会の時間とは…

**みんなで やりたいことを
みんなで 話し合っ
みんなで 決めて
みんなで 実践する**

時間です。

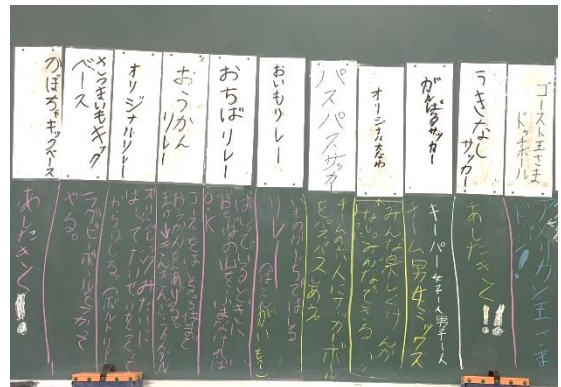
みんなに任せられないこと 6つ

- 誰かが傷つくこと
- お金がかかること(お家に あるものでも!)
- 学校の決まりが守れなくなる
- 時間割りを変えること
- 個人情報
- 健康や安全でないこと

(2) 議題集め

議題集めの指導を工夫する。出されたものは全部実践する=自分のやりたいことができる安心感につながる。

- ① 短冊にやりたいことを書いて黒板に貼る。
- ② KJ法でまとめていく。
- ③ 学級全体で順番を確認する。
- ④ 順番が決められなかったものは計画委員会で話し合っ、全体に確認する。



(3) 計画委員会の指導を工夫する。

- ① 提案理由の原案を考えさせる。
- ② 学級会の事前に司会グループと教師が共に、話合いの流れを確認する。
- ③ 児童がイメージしやすいように「〇〇の時はどうするの？」など、問いかけながらシミュレーションすると、司会グループの児童の「こうやってみたいな」という思いや願いを大切にすることができる。

前の学級会で、「楽しいクラス」を目指したんだけど、楽しめなかった人がいたよね。

みんなが楽しめるルール
の工夫を考えなきゃいけないね。



じゃあ、みんなに、
どのように伝えておけ
ばいいのかな？



2-1 話し合い～合意形成（視点1 学級活動における児童の「自己実現」の具体的な姿）

（1）本時の活動・話し合い活動（解決方法等の話し合い・解決方法の決定）

学級活動部では、「自己実現」を「児童のもつ可能性を最大限に伸ばし、自己のよさを生かしながら、なりたい自分に向けて努力すること」と捉え、小学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説・特別活動編の特別活動で育成を目指す資質・能力に沿って、以下のように整理した。

	身に付けさせる力	「自己実現」の具体的な姿
知識及び技能	<p>○集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには「何が必要になるのか」という理解</p> <p>○集団と個の関係についての理解 →集団でなくては成し遂げられないこと。 →集団で行うからこそ得られる達成感があること。</p> <p>○集団活動の価値の理解 →集団活動のよさや社会の中で果たしている役割、自己の在り方や生き方との関連。</p>	<p>○「～するのであるなら、私は～する必要があると思う。」</p> <p>○「私の課題は～だから、次回は～のように改善できるようにしたいです。」（発言・ワークシート・行動）</p> <p>○「私は○○さんの考えに～です。理由は、～だからで、提案理由に沿っているからです。」</p> <p>○「友達と意見を練り合ったから、決めることができた。」</p> <p>○「○○さんの考えに納得して、自分の考えを変えることができてよかった。」（発言・ワークシート）</p> <p>○「私は、～したいです。理由は～だからです。」</p> <p>○「私は、次の学級会では、○○さんの考えを～というように生かしていきたい。」（発言・ワークシート）</p>
思考力、判断力、表現力等	<p>○人間関係をよりよく形成していく力 →互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、すすんでコミュニケーションを図ったり、協働したりする。</p> <p>○集団をよりよいものにしたり、社会に主体的に参画したりしていく力 →自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組む。</p> <p>○現在及び将来に向けて自己実現していく力 →自己のよさや可能性を発揮し、置かれている状況を理解し、それを生かしつつ意思決定することや、情報を収集・整理し、興味・関心、個性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成する。</p>	<p>○「○○さんの意見について、私は～というところがいいと思います。理由は～だからです。」</p> <p>○「司会グループさん、このように進めるといいと思います。」</p> <p>○「○○さんは～と言いたいのだと思います。」（発言）</p> <p>○「意見が分かれていますのですが、解決策はありますか。」</p> <p>○「私は、～にすれば、○○さんの心配がなくなるのではないですか。○○さん、どうですか。」</p> <p>○「○○さんの考えも取り入れて、私は～というようにしていくのがいいと思います。理由は～だからです。」</p> <p>○「○○さん、また後で考えを伝えてください。」（発言）</p> <p>○「私は、Aとと思っていましたが、○○さんの意見と理由を聞いてBという意見に賛成します。」</p> <p>○「私は、意見は○○さんと同じなのですが、理由が少しちがいます。」</p> <p>○「○○さんと似ていて、私もCの意見に賛成です。なぜなら～だからです。」</p> <p>○「○○さんの意見に加えて、私は～にするとより提案理由に近付くと思います。」（発言）</p>
学びに向かう力、人間性等	<p>○よりよい人間関係を築こうとする態度 →多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりする。</p> <p>○よりよい生活をつくろうとする態度 →集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決する。</p> <p>○日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとする態度</p>	<p>○「役割は、いつも○○さんと一緒だから、今回は◎◎さんとやってみよう。」（ワークシート）</p> <p>○「学級の一員として、今回の～を成功させるために、私は～というめあてをもって～にしていきたい。」</p> <p>○「前回の課題は○○だった。だから、私は今回、～というような集会にしていきたい。」（ワークシート）</p> <p>○「私は、～というめあてをもって学級会に参加します。」 「私は発表が苦手だけど、今度は皆に伝えていきます。」（発言・ワークシート）</p>

児童に身に付けさせる力や「自己実現」の具体的な姿を明確にすることで、本時の活動（解決方法等の話し合い・解決方法の決定）における児童の言動を積極的に価値付けていくとともに、指導と評価の一体化を図っていく。

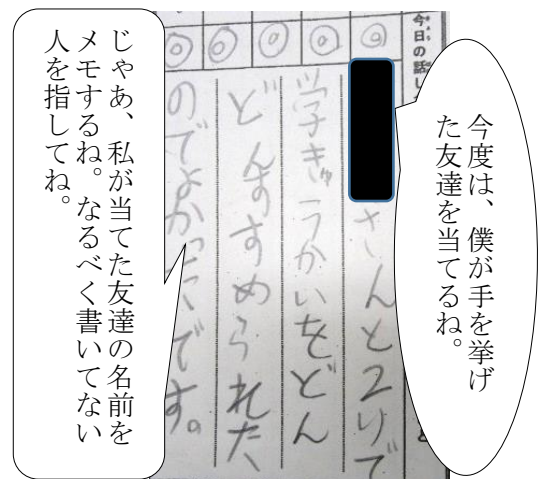
2-2 話し合い～合意形成（視点2 互いに認め合い高め合うための手だてと工夫）

（1）学級会ノートの振り返り

振り返りでは、「今日の話合いでよかったこと」や「これからがんばりたいこと」「友達のよかったところ」を学級会ノートに書くように意図的に指導している。

学級会の司会を一緒に担当した2人が、互いの仕事を認め合い、フォローする姿が見られた。

「〇〇さんと2人で進められたのでよかったです」と振り返りで書いていた。それぞれの考えを尊重し、互いに認め合う姿が見られた。



（2）効果的な終末の助言の工夫

終末の助言では、児童のよさを的確に褒めることができるように「とらえておきたい『学級会』の観点」を活用して価値付けている。

意見が分からないと言う友達に対して、何人かの友達と実演しながら説明して、理解を促す姿が見られた。これは、「とらえておきたい『学級会』の観点」の中の「学級会はみんなの時間だから自分たちで解決しようとする態度が見られる」を、価値付けた結果現れた姿である。このように、児童同士の関わり合いを認めていくことで、児童の自己有用感を高め、自己のよさを生かせるようになる。

（3）合意形成に向けた「くらべ合う」時間

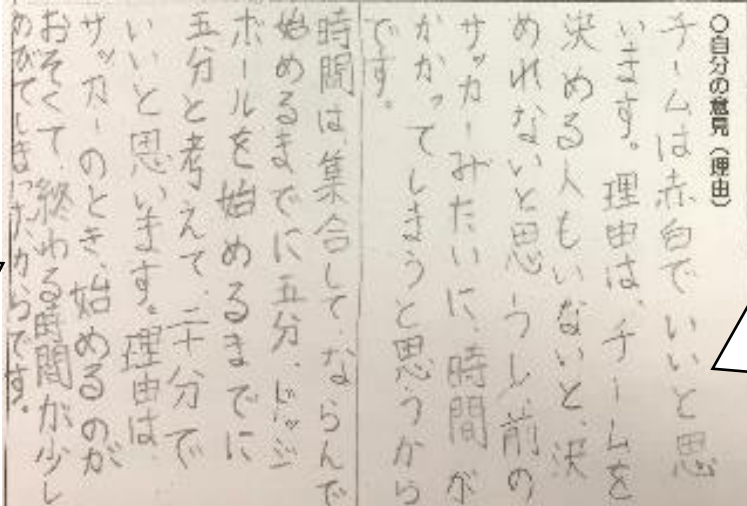
合意形成の場面では、自分の意見を発表したり他者の意見を受け入れたりすることが大切である。「これでまとめて大丈夫かな」など問かけ助言をすることで、司会が全体に納得できない人がいないか確認し、「互いに認め合いながら合意形成していく」ことにつなげることができた。そこで、合意形成の前の「くらべ合う」時間で、賛成意見を集めたり、反対意見が出たらみんなで改善したりすることで、互いに折り合いを付けながらまとめていくことができるようになる。



2-3 話し合い～合意形成（視点3 自己のよさを生かすための手だての工夫）

（1）事前に考えをまとめておく（学級会ノートの工夫）

- ① 計画委員会の指導で、「みんなの意見を生かすためには、どうすればいいのだろう。」などの問いかけ助言を行い、事前に考えをまとめておくことの必要性を気付かせる。
- ② 事前に意見を書いておくことで、話し合う場面で自分の思いや願いをみんなに理解してもらえることにつながる。



○自分の意見（理由）

チームは赤白でいいと思います。理由は、チームを決める人もいないと決める人もないと決める人と思ってしまう前のサッカーみたいで、時間がかかってしまうと思うからです。

時間は集合してならんで始めるまでに五分、ホールを始めるまでに五分と考えると二十分くらいだと思います。理由は、サッカーのとき始めるのがおそくて終わる時間が少しかかっています。

具体的な改善案を考えている。

前回の失敗から、時間をかけないでサッカーをしたいという思いを伝えることができた。

（2）ICT機器の活用

学級会だけでなく、日常的に実物投影機やタブレット端末を活用することで、口頭で自分の考えていることや、思っていることを伝えるだけでなく、図示したり、画像を示したりすると、より正確に伝えることができるようになる。



①前回のサッカーでは、強いボールを蹴られると女子が怖かったということなので、こういう形の「ボールを浮かしちゃいけないゾーン」を作ったら、男子も女子も、みんなが楽しめると思います。

②それ、いいねえ。

3-1 実践・振り返り（視点1 学級活動における「自己実現」を目指す児童の姿）

（1）終末の助言

集会活動などの実践の場面では、教師は児童の活動の記録を取り、必ず終末の助言を行う。終末の助言は、活動が終わった後に5分程度行い、称賛を2～3つ、課題を1つ、次回への意欲付けを行う。児童の活動を教師が価値付けることで、児童は自分のがんばったことや次の目標に気付くことができる。

終末の助言で取り上げること

①称賛

- ・提案理由を意識した言動
- ・学級の目標を意識した言動
- ・友達、学級全体のことを考えた言動
- ・前回から成長が見られた言動
- ・司会グループの準備、進行、協力等への労い

②課題

- ・次の成長のために気付かせたいこと

③次回の話し合いへの意欲付け

前回の集会の振り返りを生かして、今回は遊ぶ時間をたっぷり取るための工夫がされていました。どんな工夫か分かりますか？



そうですね。帰りの会で事前にルールを知らせておいたことで、みんながルールを理解して納得してから始めることができましたね。

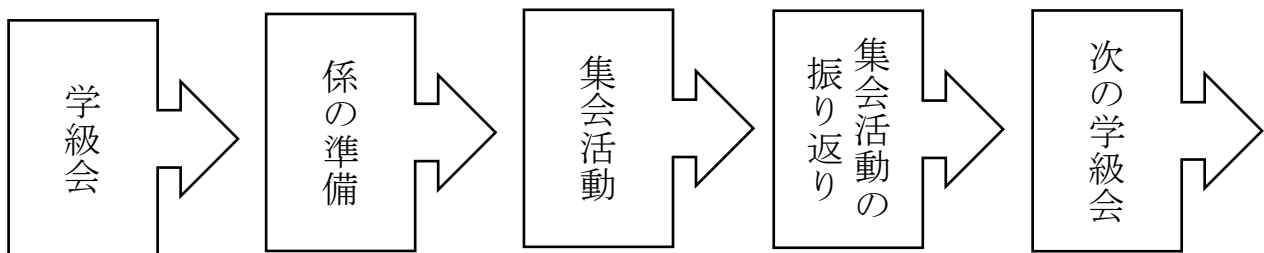
（2）学級集会カード

- ①「学級集会カード」には、集会活動後に自分の振り返りや友達のがんばったところを書く。
- ②その都度振り返ることで、自分や友達のがんばりに気付けるようにする。
- ③教師もその児童へがんばったところや励ましのコメントを書く。

「学級集会カード」を積み重ねることによって、自分の成長に気付くことができる。集会活動で振り返ったことを、次回の学級会で生かせるようにする。

（3）活動の見直しをもたせる

みんなで作り上げる集会活動にするために、計画・準備から振り返りまでの手順を明確にしておく。手順を明確にしておくことにより、児童の自発的・自治的な活動を促し、実践する力を身に付けさせていく。



(4) 終末の助言を可視化する

集会活動の振り返りを短冊に書き、掲示する。よかったところや次回への改善点を掲示することで、次回への意欲付けとなり、次の一連の活動も提案理由に沿った活動にしようという意欲を高めることができる。

第11回学級会(㊦) 「バスケットボール集会」



直前のめあて、ルールの確認は大切ですね。



おじいさんは「補助けつう」のスリルが楽しいです。工夫する点。



みんなカボ球を持ってからシュートするルール、うまいきました。



勝ち負けではなく、バスケットのおもしろさを全員が感じられるルールを考えるのが、学級会。



全体と個人のどちらを優先させるべきなの？



全員が楽しめればね。おめでとう！

終末の助言を写真とコメントで模造紙一枚にまとめる。

掲示することで、子供たちがいつでも振り返ることができる。

計画委員会で過去の模造紙を見返しながら、生かしたい工夫や同じ失敗を繰り返さないように準備することにつながる。

よかったところと改善点の「短冊」や「文字」の色を変えることで、見返したときに、課題がすぐに分かり、「次の学級会で、この点を解決しよう」など、次回への意欲を高めることにつながる。

3-2 実践・振り返り（視点2 互いに認め合い高め合うための手だての工夫）

(1) キラキラさんの発表（相互評価）

振り返りの時間に、友達のよかったところを発表する時間を設定する。友達の発表から自分のよさに気付いたり、友達のよかったところを次時に生かしたり、自分も友達と同じようにできるようになりたいという気持ちを引き出したりすることができる。

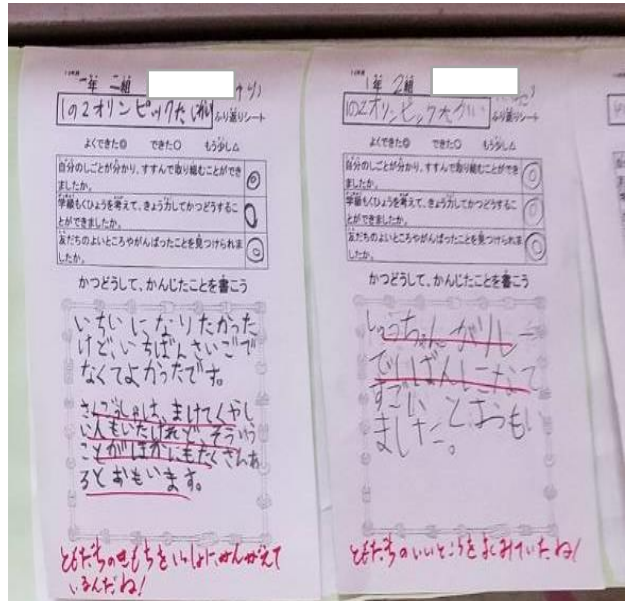
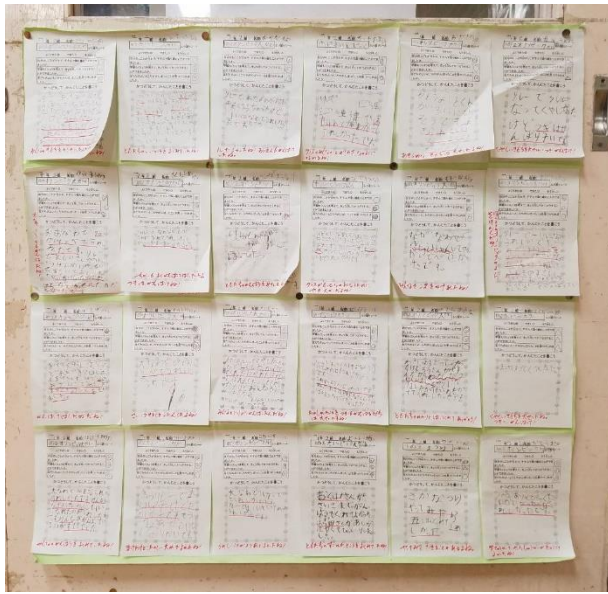


ルール説明係が上手に説明できなくて困っていた時に、Bさんが「お手本を見せたら？」とアドバイスしていたのがよかったです。

Cさんがはじめての言葉を大きな声ではっきり言っていたのがよかったです。みんなが提案理由を確認してから、集会を始めることができました。



(2) 振り返りカードの掲示



振り返りを掲示することで、発表では伝わらなかった「友達が認めてくれたこと」を知ることができる。

(3) 全員での係分担

集会等の実践の係分担は全員で行う。役割を受けもつことで、責任感や満足感が得られることにつながる。学級の全員で分担することで、より楽しく、より充実した活動に発展させることができるようにする。役割分担する際は、自分のよいところを踏まえて係を決めることで、さらに自分のよさを伸ばすことができる。

わたしは、説明するのが得意だから、ゲーム係をやりたいな。



ぼくは、絵を描くのが好きだから、かざり係をやろう。

【係】

- ・司会
- ・はじめの言葉
- ・おわりの言葉
- ・ゲーム係 (ルール説明)
- ・かざり
- ・プログラム
- ・歌

4 授業構想のための質問紙調査 (A校4年生の実践例)

昨年度より取り組んでいる学級活動(1)における児童理解を深めるための手だてとして、質問紙調査を実施し、数値化した。学級の実態から「話し合いの進め方・人間関係形成・自己実現」の3つの観点に基づき、児童が十分に身に付けていないと教師が評価した項目を中心に質問を設定した。

学級全体に対して「話し合い活動」における事前・本時・振り返り・「司会グループの活動」で項目を設定する。また、質問紙調査項目は、本活動部で整理した「とらえておきたい『学級会』の観点」の中学年を中心に選定した。

学級会アンケート

4年3組()番 名前

9	提案理由を考えて議題を出すことができる。
11	みんながなっとくして議題を決めることができる。
60	提案理由を考えて意見を言うことができる。
69	友達の考えを認めることができる。

〈質問紙の改良点〉
 児童の回答負担、調査時間と教師の分析時間を軽減するために、項目数を10項目に絞った。

児童は、質問に対して、「できる」ものに○を記入する。

集計結果
(一部抜粋)

「できる」を1として入力し、学級全体の割合を求める。

数値化した実態と教師の感覚的な実態のずれを手掛かりに、授業を構想する。
「意外と低いなあ。」

※右の数字は出席番号。1はできる、0はできていない。		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
9	提案理由を考えて議題を出すことができる。	0	0	0	0	0	1	1	1	1	19
11	みんながなっとくして議題を決めることができる。	0	0	1	0	0	1	0	1	1	22
60	提案理由を考えて意見を言うことができる。	1	0	0	1	0	1	1	1	1	20
69	友達の考えを認めることができる。	1	1	0	1	1	1	1	1	1	33
74	友達の意見も自分の意見も大切にしながら話し合える。	1	1	0	1	1	1	1	1	1	33
76	多数決で決めるのではなく、話し合って決めることができる。	0	0	1	1	0	1	1	1	1	20
79	自分の意見が伝わるまでわかりやすく言い直すことができる。	1	0	0	0	1	1	1	1	1	20
119	教師に頼らず、自分たちで学級会を進めることができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	29
156	自分のよさをワークシートに記入したり、発表したりすることができる。	1	0	1	0	0	1	1	1	1	18
157	友達のよさをワークシートに記入したり、発表したりすることができる。	1	1	1	0	0	1	1	1	1	24
		7	4	5	5	4	10	9	10		

個人の合計を基に、児童一人一人の学級会の実態を把握し、手だてを講じていく。

〈質問紙調査で分かったA校4年生の実態〉

- 提案理由に関する項目で教師の認識と児童の評価にずれが生じていることが分かり、提案理由を学級全員で考えるようにしたところ、提案理由を基に意見を言う児童が増えた。
- 友達のよさを見付けることよりも、自分自身のよさを見付けることが苦手な児童が多かったので、自分のよさを発表できた児童を学級会の終末の助言で称賛し価値付けた。振り返りカードに自分の頑張りを記入する児童が増えた。

5 学級活動（3）の指導案（B校3年生の事例）

第3学年1組 学級活動（3）指導案

1 題材 「『学級の目ひょう』たっせい大作せん」

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成

2 題材について

年度当初、全員が「どんなクラスにしたいか」を発表し合い、それをもとに『学級の目標』を決めた。『学級の目標』の掲示物はみんなで作り、教室前方に掲示し、朝の会で唱和している。全員の思いや願いを入れるためにグルーピングし、内容を精選しながら決めた『学級の目標』は6つある。そこで、日直がその日に頑張ることを1つ選び、朝の会で伝え、意識して過ごせるようにホワイトボードに記入して掲示し、帰りの会で振り返りを行っている。達成したと言える人数は全員で決めた結果、「35人ができたら達成」としている。振り返りの様子を見てみると、今までに一度だけ全員が達成できたと言えたのは「仲よく楽しい3の1」である。前の日に達成できなかったことを翌日に繰り返してめあてにする様子は見られない。しかし、自分たちが苦手とする内容は分かっている、それをめあてにすることが多いという現状は見られる。そこで、前期終了が間近となった今、『学級の目標』の達成状況を知り、一人一人の思い描く学級にするためのめあてを一人一人が決めて後期へつなげたいと考え、本題材を設定した。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

	よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
第3学年及び第4学年	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。
具体的な児童の姿	<input type="checkbox"/> みんなで決めた『学級の目標』を達成することの大切さを理解している。 <input type="checkbox"/> めあてに向かって努力することの大切さが分かる。	<input type="checkbox"/> 『学級の目標』達成に向け、工夫できることを考えている。 <input type="checkbox"/> 『学級の目標』の達成に向けて具体的に「自分のめあて」を決める。 <input type="checkbox"/> 『学級の目標』の達成に向け、自分のめあてを決めて取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 日直が決めた『学級の目標』を心に留め、達成に向け努力しようとしている。 <input type="checkbox"/> 『学級の目標』を達成するために、自分のめあてを決める意欲を高めている。

4 事前の指導

○児童の活動	◇指導上の留意点	□目指す児童の姿（評価方法）
○『学級の目標』を振り返り、達成に向けて自分のめあてを決めることを知る。 ○『学級の目標』の各項目について振り返る。 ○達成したと言える基準を作る。	◇『学級の目標』達成に向けて関心をもち、意欲をもって取り組めるように、『学級の目標』を振り返り、達成するために自分のめあてを決めることを事前に予告しておく。 ◇1項目10点満点で何点かを評価させ、その点数をつけた理由も書かせる。 ◇学級全体で400点満点であることを伝え、何点だったら達成したと言えるのかを考えさせ、達成の基準を決めておく。	【知識・理解】 <input type="checkbox"/> みんなで決めた『学級の目標』を達成することの大切さを理解している。 （行動観察） 【態度】 <input type="checkbox"/> 『学級の目標』を達成するために、自分のめあてを決める意欲を高めている。 （アンケート、発言）

5 指導のねらい

- ・前期の『学級の目標』の達成状況を確認し、『学級の目標』を達成させるための自分のめあてを決める。

6 本時の展開

	児童の活動	◇指導上の留意点	・資料	□目指す児童の姿 (評価方法)
導 入 (つ か む) 7 分	<p>1 今まで取り組んできた『学級の目標』の振り返りを発表する。 T:4月に『学級の目標』を決めてから6か月が経ちました。『学級の目標』はできていると言えるでしょうか。 C1:できているものとできていないものがある。 C2:できているとは言えない。</p> <p>2 アンケート結果を知る。 T:先日、一人10点で自分のめあての達成状況を考えてもらいましたね。全員で400点満点で、達成したと言えるのは350点でしたね。さあ、どうだったでしょうか。</p> <p>3 本時の学習内容を知る。 T:今日は、『学級の目標』を達成するための、自分のめあてを決めます。</p>	<p>◇自分の考えを自由に発表させる。</p> <p>◇各項目が達成しているかどうか予想させ、『学級の目標』達成への関心をもたせる。 ◇何人かに、アンケートを見て感じたことを発表させる。</p>	<p>・タイトル</p> <p>・アンケート結果</p> <p>・タイトル</p>	<p>□目指す児童の姿 (評価方法)</p> <p>【態度】 □『学級の目標』を達成するために、自分のめあてを決める意欲を高めている。 (発言)</p>
<p>「学級の目ひょう」のたっせいに向け、自分のめあてをきめよう!</p>				
展 開 (さ ぐ る) (見 つ け る)	<p>4 アンケート結果を見て、達成に向けての工夫を発表し合う。 T:後期に向けて、『学級の目標』を達成していくために、どんな工夫をしたらよいかを考えてみましょう。 (個人思考7分) T:達成に向けての工夫を発表しましょう。(集団思考10分) C1:気付いたら声を掛け合えば、時間を守れる。 C2:困っている友達には、自分ができることをすれば、思いやりがある学級になる。 C4:1日1回は発言すれば、勇気をもって挑戦する学級になると思う。</p> <p>5 『学級の目標』を達成するための自分のめあてを決める。 T:今、みんなで話し合ったことをもとに、『学級の目標』の達成に向けて自分のめあて</p>	<p>◇「足りないところ」に目を向かせず、「どうしたらさらによくなるか」を考えさせる。</p> <p>◇多くの児童が発言できるように相互指名させる。 ◇児童の発言を分類整理した上で板書する。</p> <p>◇工夫を生かし、『学級の目標』を達成させるための具体的な内容を考えさせる。</p> <p>◇『学級の目標』のどの項目でもよいので1つ選ぶことを伝える。</p>	<p>○学習シート (1)</p> <p>・短冊 ・学習シート (2)</p>	<p>【思考・判断・実践】 □『学級の目標』達成に向け、工夫できることを考えている。 (学習シート、発言)</p> <p>【思考・判断・実践】 □『学級の目標』の達成に向けて具体的に「自分のめあて」を決める。 (短冊、発言)</p>

(決める) 35分	を決めましょう。 (意思決定 10分) T:自分のめあてをみんなに発表しましょう。(発表 8分)	◇自分ができている、いないにかかわらず、選んでよいことを伝える。 ◇毎日、実践の振り返りをしていくことを伝える。 ◇みんなの前で「意思宣言」をさせる。		
終末 3分	8 先生の話聞く。 T:今日は、『学級の目標』達成に向けての工夫を話し合い、それをもとに自分のめあてを決めました。一人一人が自分のめあてを達成することで、『学級の目標』を達成することができます。お互い、励まし合って頑張っていきましょう。	◇「自分のめあて」に向けて、意欲をもって取り組むことができるように励ます。		

7 事後の活動

○児童の活動	◇指導上の留意点	□目指す児童の姿 (評価方法)
○「自分のめあて」を、毎日振り返る。 ○1週間後、達成できているかどうかを確認し、できていた場合は、次の「自分のめあて」を決める。	◇帰りの会で振り返る場を設ける。 ◇達成に向けて意欲的に取り組めるように、一人一人の活動を見取り、励ます。	【思考・判断・実践】 □『学級の目標』の達成に向け、自分のめあてを決めて取り組んでいる。 (行動観察、振り返りシート) 【知識・理解】 □めあてに向かって努力することの大切さが分かる。 (行動観察)

【使用したカード類】

『学級の目標』振り返りアンケート
『学級の目ひょう』をふりかえってみよう

月 日 () 番 名前

1 自分は今、『学級の目ひょう』がどのくらいできているか、10点まん点で何点か、点数をつけてみましょう。そして、その点数をつけた理由も書きましょう。

(1) ゆう気をもってちょうせんする3の1 点

理由

.....

(2) 仲よく楽しい3の1

理由

.....

学習シート (1)

『学級の目ひょう』たっせいに向けて、より点数を上げるためのくふうを考えよう！

番 名前

※ くふうは、書けるものから書いてみよう。全部書けなくても大丈夫です。

◇ゆう気をもってちょうせんする3の1◇

何をすればいいかな？

何ができそうかな？

◇仲よく楽しい3の1◇

さらに仲が深まり楽しくなるためには・・・？

『学級の目ひょう』 たっせいに向けての「自分のめあて」はこれだ！

番 名前 _____

◇『学級の目ひょう』のどれ？えらんだ目ひょうを○でかこみましょう。◇

○ゆう気をもってちょうせんする3の1
・思いやりがあり親切な3の1
・え顔で元気にあいさつをする3の1

・仲よく楽しい3の1
・時間を守りてきばき行動する3の1
・きょう力するすてきな3の1

◇その『学級の目ひょう』をたっせいするための自分のめあて◇

は、びらがにかがな子やしほいがかこわいいっている子に声をかけてあげたり、はげましてあげる。

◇ふりかえてみよう！◇ ◎=よくできた ○=できた △=がんばろう

月日	ふりかえり	理由
9/27	△	りゅうはわたしがかこま、っている子を見つけてあげられなかつたからです。 <i>発言をすこぶおぼたが</i>
9/30	○	いうことはできたけれど、もうすこしおあさい声でいいたいです。
10/2	◎	りゅうはのえてないけれど、じで思てたからです。
10/3	△	りゅうは1回目とおなじで、こま、っている子を見つけられなかつたからです。 <i>かえはれ！</i>
10/7	△	りゅうはじま、っている子を見つけられなかつたから <i>あー!! めあてをきかあはれ!!</i>

◇自分がきめた『学級の目ひょう』はたっせいできましたか？ふりかえてみよう！

1回だけ◎ができました。でも、次は五マスしかり◎になるといいなと思いました。

どの「学級の目標」を意識するかを
選べるように全目標を載せ、○を
付けさせた。

帰りの会の前に振り返りを行った。
どうしてそのように振り返ったのか理由は具体的に書くよう指導した。

選んだ目標について具体的な実践目標を決めるための欄を設けた。

初めての振り返りだったので、達成できたかどうかの記述がない。今後、どのようになればできたと言えるのか、考えさせる必要がある。

◇その『学級の目ひょう』をたっせいするための自分のめあて◇

こけいの見やすい場所へ通る。
5分前には教室にもどる

◇ふりかえてみよう！◇ ◎=よくできた ○=できた △=がんばろう

月日	ふりかえり	理由
9/27	○	休み時間に、5分前に帰れた。
9/30	◎	5分前には教室にもどれたから。
10/2	○	ギリギリ5分前た、たから。
10/3	△	見やすい場所ではあそべたけど見れなかつたからです。 <i>かえはれ！</i>
10/7	△	3時間目の音かくに、おしくれてしまったから。 <i>さねん</i>

◇自分がきめた『学級の目ひょう』はたっせいできましたか？ふりかえてみよう！

◎が二だったのので、あしたからは、5日間 ぜんぶできるよ
うにしたいです。 *かえはれ!!*

自分が決めためあてをやり遂げようと頑張る様子が見られる。しかし、後半、△の評価になってしまったことから、めあてを意識して取り組むことの難しさを感じられる。
振り返りを見ながら、これからどうしたいかを考えることができている。自己実現を図るためには、継続した振り返りを行い、自己を見つめ直すことが大切である。

IV 研究資料

発達段階による「とらえておきたい『学級会』の観点」 平成29年度版

○本表は、学級内の実態をとらえたり、議題を設定したりするときに活用する。（評価規準とは異なる。）

○すべての項目が一つの学級に必要な言動ではなく、学級の実態に応じて「身に付ける力」を設定する。

指導のめやす	この時期にとらえておきたい「学級会」の観点	
	事前	本時 学級全体
低学年 ○教師が司会の役割を受けもつことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにしていく。 ○話し合いの約束に沿って友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、合意形成できるようにする。	1 学級全体で取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決することなどを見付ける。 2 次の学級会の議題が分かる。 3 座席を話し合いの形に並べる。 4 司会グループの構成メンバーを決める。 5 自分の意見を考えておく。 6 役割を分担する。	44 自分の意見を進んで言う。 45 話し合いに反応する。 46 友達の意見を最後まで聞く。 47 <u>自分の意見を大切にする。</u> 48 <u>自らの判断で決める。</u> 49 「学級の話し合いの約束」を守って参加する。 50 話し合いに進んで参加する
各学年段階での配慮事項 【第1学年及び第2学年】 話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解すること。	7 話し合いの適した座席の形を決める。	57 話し合いの過程に沿って意見を言う。 58 賛成反対の意思表示をはっきりさせる。 59 自分たちで決めた役割を進んで引き受ける。
中学年 ○教師の適切な指導の下に児童が活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受けもち、より多くの児童が司会等の役割を果たすことができるようにする。 ○理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる意見も受け入れたりして、楽しい学級生活をつくるために合意形成できるようにする。	8 議題を集める、出す。 9 提案理由を考えて議題を出す。 10 自分たちの力で、話し合う議題を決める。 11 みんなが納得して議題を決める。 12 輪番で司会をする。 13 次の学級会の提案理由が分かる。 14 意見の理由を考えておく。 15 議題を確認する。 16 提案理由を確認する。（決める。） 17 話し合いの柱を立てる。 18 前もって議題を知らせる。 19 活動計画を作成する。 20 自分たちで工夫して活動コーナーを作る。 21 学級会カードなどを作成、配布する。 22 みんなで話し合うためのめあてを立てる。 23 学級の問題点を考えながら提案理由を決める。 24 自主的に計画委員会を開き、運営する。	60 提案理由に沿った意見を言う。 61 理由を明らかにして意見を言う。 62 友達や流れに左右されず、自分の意見を言う。 63 出た意見について不明な点は質問する。 64 出された質問に対して答える。 65 <u>友達の考えのよさに気付き、自分の考えを修正して議る。</u> 66 <u>もっとよい方法があれば、自分の考えに固執せず議る。</u> 67 <u>納得してから議る。</u> 68 <u>協力して話し合いを進める。</u> 69 <u>友達の考えを認める。</u> 70 <u>友達の考えを肯定的に受け止める。</u> 71 友達の意見と自分の考えを比べながら聞く。 72 時間を意識して決める。 73 <u>互いの意見を生かしながら話し合う。</u>
各学年段階での配慮事項 【第3学年及び第4学年】 理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践すること。	25 自分の意見を書いておく。 26 話し合いに必要なものを準備する。 27 前の司会グループとの引き継ぎ会をする。 28 自主的に計画委員会を開き、運営する。 29 計画員会で話し合ったことを記録する。	85 司会を助ける意見を言う。 86 黒板記録を助ける意見を言う。 87 友達の意見を生かして付け足しの意見を言う。 88 友達の意見を受け止めて、自分の意見を言う。 89 メモを取りながら聞く。 90 友達の意見と自分の考えを比べながら聞く。 91 友達の言いたかったことを言ってあげる。 92 小集団での話し合いに参加する。 93 出された意見を整理する。
高学年 ○教師の助言を受けながら、児童自身が活動計画を作成し、話し合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営することができるようにする。 ○学級のみならず学校生活にまで目を向け、自分の言葉で建設的な意見を述べ合えるようにし、多様な意見のよさを生かして楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい合意形成を図るようにする。	30 学級のめあてを意識して、議題を出す。 31 議題の優先性を考えて選ぶ。 32 みんなで話し合う内容かどうかを考えて、話し合いの柱を立てる。 33 話し合いの進め方を話し合う。 34 自分たちの活動を考えながら、活動計画を作成する。 35 話し合いの柱に提案理由と関係する項目を立てる。	94 議題がそれたら元に戻す意見を言う。 95 意見がまとまらないときには「考える時間をください」と言う。 96 学級全体の意見が出ないときには「考える時間をください」と言う。 97 話し合っている内容が分かりにくくなったときには「回りと話し合う時間をください」と言う。 98 小集団で話し合ったことを生かす。 99 過去の経験を生かして、意見を言う。
各学年段階での配慮事項 【第5学年及び第6学年】 相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。	36 自分たちで工夫して学級会カードなどを作成、配布する。 37 振り返りカードを作成する。 38 自分のめあてを覚えておく。 39 自分のめあてを書いておく。 40 自分たちで司会の台本を作る。 41 事前のアンケートなどでみんなの意見を知っておく。 42 係や司会グループが原案を用意する。 43 話し合いの進め方についてみんなに知らせる。	107 話し合いの流れについて不明な点は質問する。 108 意見の原案を出す。 109 必要性を考えて話し合いの柱を追加する。

各学年 上段：この時期終了までに必ず身に付けおきたい言動

下段：学級によって異なるがこの時期に期待する言動

	本時 司会グループ	本時 振り返り
51 みんなの話し合いだと意識して指名されてから意見を言う。 52 決まったことを共に喜び合う。 53 友達の意見が分かる。 54 「学級会はみんなの時間だから自分たちで解決しよう」とする態度が見られる。 55 反対意見や少数意見を大切にすること。 56 「出し合う、比べ合う、まとめる（決める）」の流れを理解する。	110 自分の役割が分かる。 111 終了時刻を言う。 112 いろいろな意見を出し合って決めようとする。 113 納得できない人がいないか確認をする。 114 名前磁石を活用する。 115 自分の仕事内容が分かる。 116 取り上げられない意見でも黒板から消さない。 117 自分の役割は責任をもって果たす。 118 手を挙げてもらい意見の傾向を調べる。	153 話し合いで決まったことが分かる。
		154 話し合いでよかったことを発表する。 155 自分のがんばり、友達のよさが分かる。
74 友達の立場や思いを受け止めて（思いやつて）意見を言う。 75 友達のもち味を受け止めて生かす。 76 安易な多数決をせず納得するまで話し合い、決定する。 77 提案理由に沿って話し合い、決定する。 78 一つの意見に決めずに、生かす方法を考えて決定する。 79 自分の意見が伝わるまで分かりやすく言い直す。 80 反対意見に対して、解決策を出す。 81 意見の問題点に気付いて解決策を出す。 82 出てきた問題点に対して解決策を出す。 83 自治的な活動の範囲を理解して決定する。 84 安易に話し合いを長引かせず、合意形成する。	119 教師に頼らないで自分たちで学級会を進める。 120 司会グループで助け合って進める。 121 周りとは相談する時間をとる。 122 安易な多数決をせず、みんなの意見を聞きながら決定していく。 123 決まったことを確認しながら進める。 124 記録を見ながら決まったことを発表する。 125 全体に確認しながら話し合いを進める。 126 黒板に議題・提案理由・話し合いの柱が書いてある。 127 決まっていることが提示してある。 128 進行が難しくなったとき「進め方を教えてください」とみんなに聞く。 129 考えが生かされないとき、提案者や発言者に確認してから決定する。 130 話し合いの計画に沿って司会を進行する。 131 黒板記録の様子を見ながら進行する。	156 自分のよさを見付け、カードなどに記入する、発表する。 157 友達のよさを見付け、カードなどに記入する、発表する。 158 本時で決まった計画に沿って準備などの活動をする。
	132 紹介の際に自分のめあてを言う。 133 多くの人が意見を出せるように指名する。 134 前回の振り返りを生かしている。 135 終了時刻を書いておく。 136 話し合ったことを順序よく記録する。 137 みんなが見やすくなるように黒板を工夫する。 138 黒板の使い方を工夫する。 139 次に生かせるようにノート等に記録する。 140 マークなどを生かしながら記録する。 141 ノートの使い方を工夫しながら書く。	159 友達の振り返りをもとに自分の考えをもつ。 160 司会グループの反省会を行う。
100 実践への見通しをもった意見を言う。 101 少数の意見でも発表する。 102 みんなの意見が生きるようによりよい工夫をする意見を言う。 103 考えのよさを強調して説得する。 104 本音で話し合う。 105 意見を吟味し、よりよいものに決定する。 106 みんなの話し合いになっていないことに気づき、修正する。	142 黒板に必要なことを書いておく。 143 時間を考えながら話し合いを進める。 144 話題から離れたとき、元に戻そうとする。 145 多くの意見の中からまとめようとする。 146 話し合いの流れに応じて計画を修正しながら進める。 147 板書を利用して話し合いを進める。 148 意見を整理したり、まとめたりしながら進める。 149 話し合いの流れが分かるように、黒板を可視化する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（活用における留意点）</p> <p>○学級の発達段階によって、低学年でも中高学年の内容が見られたり、高学年でも低・中学年の内容を課題とすることも考えられる。</p> <p>○太字下線部分は、特別活動のねらいを達成するために不可欠である「自己決定に関して」「望ましい集団活動に関して」「集団決定に関して」の内容であり、重点的に指導する。</p> </div> <p>161 めあてを振り返る。 162 話し合いの問題点を見付け、カードなどに記入する、発表する。 163 振り返りを生かして次のめあてをもつ。</p>
	150 友達の意見によって計画を修正しながら進める。 151 計画の修正を全体に確認しながら進める。 152 活動の経過が分かるように記録する。	164 話し合いの問題点の解決策を見付け、カードなどに記入する、発表する。 165 話し合いを通して、学級がよくなったことを見付け、カードなどに記入する、発表する。 166 みんなで話し合うためのめあてを振り返る。 167 振り返りカードを作成し、配布する。 168 司会の進行を振り返り、次の活動に生かそうとする。

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 昨年に引き続き、児童の実態を数値化し把握するために、質問調査を行った。その結果、教師は感覚的に児童の実態を把握のではなく、児童の自己評価から実態を分析することができた。より児童に寄り添う終末の助言を行うなどの授業改善につながった。
- 新学習指導要領で新たに加わった、学級活動（3）の授業を行ったことで、学級活動（3）の授業の意義や進め方について、提案ができた。

2 研究の課題

- 学級活動（1）の研究授業では、「よりよい人間関係を築く」ための手だてを優先した実践となった。そのため、相手を思う気持ちが強くなり、自分の気持ちを表現しにくくなってしまい、合意形成につなげることが難しくなった。教師は、学級会において児童が提案理由を大切にして話し合い、合意形成していけるよう指導していきたい。
- 新学習指導要領から新たに加えられた学級活動（3）において、さらに実践を重ね、研究を深め、広げていきたい。また、キャリアパスポートについても、動向を見ながら提案していきたい。
- 東京都小学校特別活動研究会の研究主題にある「自己実現」について、学級活動部としての捉え方を十分に整理することができなかった。「自己実現」についての理解を深め、授業改善につなげていく必要がある。

研究にたずさわった人

部長	藤田 寛樹	文 京	湯島小	小野田 有希	練 馬	大泉北小
副部長	大野 和代	足 立	千寿第八小	佐々木 美佳	〃	石神井台小
〃	吉田 司	杉 並	高井戸四小	五十嵐 拓斗	足 立	鹿浜五色桜小
〃	兼近 真慈	葛 飾	西小菅小	佐藤 亮治	〃	千寿常東小
〃	二本木 基	日 野	第五小	越川 祐太郎	〃	千寿第八小
庶務	金澤 勇輝	稲 城	第三小	木崎 清子	江戸川	本一色小
会計	神山 卓也	練 馬	北町小	関原 良平	〃	第七葛西小
〃	奥山 優子	江戸川	第六葛西小	積 貴代美	〃	上小岩第二小
	高橋 美衣	中 央	月島第二小	澤栗 朋子	〃	松江小
	土屋 菜々子	〃	〃	田中 映輝	〃	船堀第二小
	矢部 織生	港	白金小	前田 亜弥	〃	〃
	高橋 佳大	〃	港南小	菅原 俊	〃	篠崎第二小
	永作 友理恵	〃	芝浦小	秋嶺 創大	青 梅	河辺小
	加藤 千尋	新 宿	早稲田小	細見 俊稀	昭 島	田中小
	篠遠 信行	文 京	根津小	川村 容平	調 布	若葉小
	池田 明日香	台 東	富士小	内田 豊	小金井	南小
	二瓶 ちひろ	墨 田	八広小	研究協力者		
	濱淵 雅子	目 黒	鷹番小	吉田 惇一	相模原市立小山小	
	多胡 良美	世田谷	用賀小	清水 世利奈	〃	〃
	石田 孝士	〃	塚戸小	高野 真実	〃	光が丘小
	棚橋 正太	中 野	桃園第二小	田中 恵奈	〃	富士見小
	佐藤 麻美	豊 島	高松小	鈴木 葉月	〃	大野北小
	市原 裕大	北	王子第五小	神山 裕子	元副部長	
	小針 央雅	板 橋	中台小			

Ⅱ 児童会活動部

児童会活動部 研究主題

「関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動」

I 本年度の研究について

- 1 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- 2 研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- 3 研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 4 今年度の研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

II 実践事例

〈実践事例1〉 世田谷区立松原小学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
代表委員会「他の学年と仲良くなれるもうじゅう狩りをしよう」

〈実践事例2〉 国分寺市立第五小学校・・・・・・・・・・・・・・ 41
給食委員会「給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう」

III 研究の成果と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

研究の経過

令和元年	5月16日(木)	組織作り・年間予定
	7月30日(火)	基本構想・研究主題・仮説などの検討
	8月2日(火)	研究の仮説・具体的な手だての検討
	9月13日(金)	事前研究：世田谷区立松原小学校
	10月17日(木)	事前研究：世田谷区立松原小学校
	10月25日(月)	実践授業：世田谷区立松原小学校 講師：帝京大学 教職センター 教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡 先生
	11月1日(金)	事前研究：国分寺市立第五小学校
	11月19日(火)	事前研究：国分寺市立第五小学校
	11月25日(月)	実践授業：国分寺市立第五小学校 講師：帝京大学 教職センター 教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡 先生
	12月21日(土)	研究紀要の内容検討・作成
令和2年	1月6日(月)	研究紀要の内容検討・作成
	2月14日(金)	研究発表大会

I 本年度の研究について

児童会活動部 研究主題

「関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動」

児童会活動部における「自己実現」の捉え

全体研究主題「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」を受け、児童会活動部では「児童会活動における『自己実現』とは何かを考えた。そこで、本部会では、全体研究主題の『自己実現』を以下のように定義した。

異年齢交流活動の中で、「自分のなりたい姿」を目指して、
全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと

1 主題設定の理由

児童会活動では、学年や学級を超えた異年齢集団での様々な活動が行われる。昨年度までの研究の中で児童の「自己有用感」を高めるためには、下級生から上級生への「あこがれ」の気持ちや上級生から下級生への「思いやり」の気持ちが必要であると考えた。「あこがれ」は、『自己実現』のベースとなる意欲の一つであり、全校のみんなのための活動を行う原動力である。児童会活動部では「あこがれ」の存在を「自分のなりたい姿」の一つと捉えた。自主的・実践的な活動を積み重ね「あこがれ」と「思いやり」のスパイラルを意識した異年齢の関わりの中で、よりよい人間関係が築けると考えた。また、「あこがれ」の気持ちだけでなく、『自己実現』のベースとなる様々な意欲に目を向けて研究を進めていきたい。

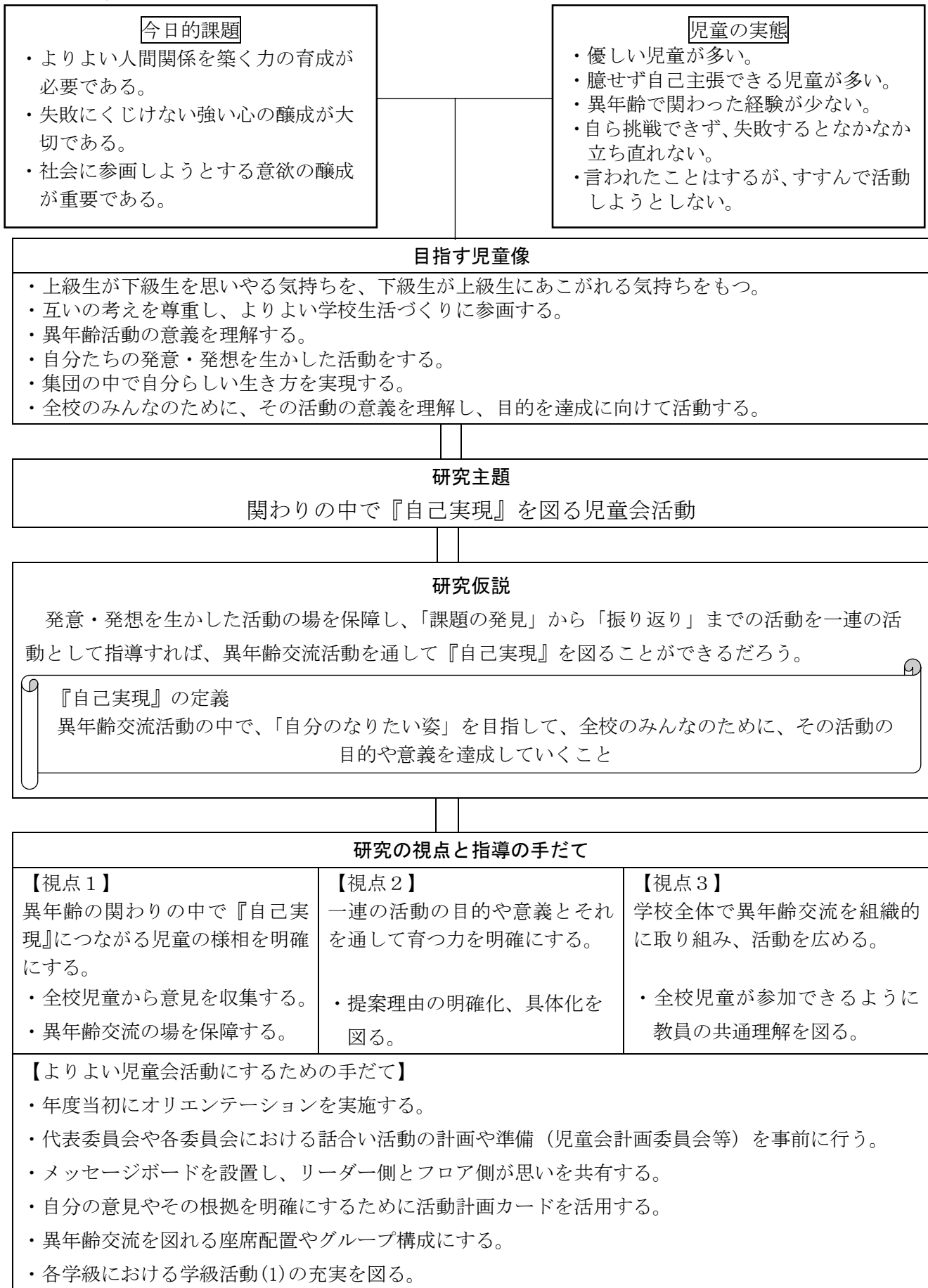
そこで、本部会の研究主題を「関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動」と設定し、年度当初のオリエンテーション等を通して、以下のことに留意することにした。

- 「児童の発意・発想を生かした活動」の場を保障する。
- 「課題の発見」から「振り返り」までの活動を一連の活動（学習過程）としてとらえる。
- 児童会活動の特質である「異年齢の人間関係」に焦点を当てる。

2 研究の視点

- (1) 異年齢の関わりの中で『自己実現』につながる児童の様相を明確にする。
- (2) 一連の活動の目的や意義とそれを通して育つ力を明確にする。
- (3) 学校全体で異年齢交流を組織的に取り組み、活動を広める。

3 研究構想図



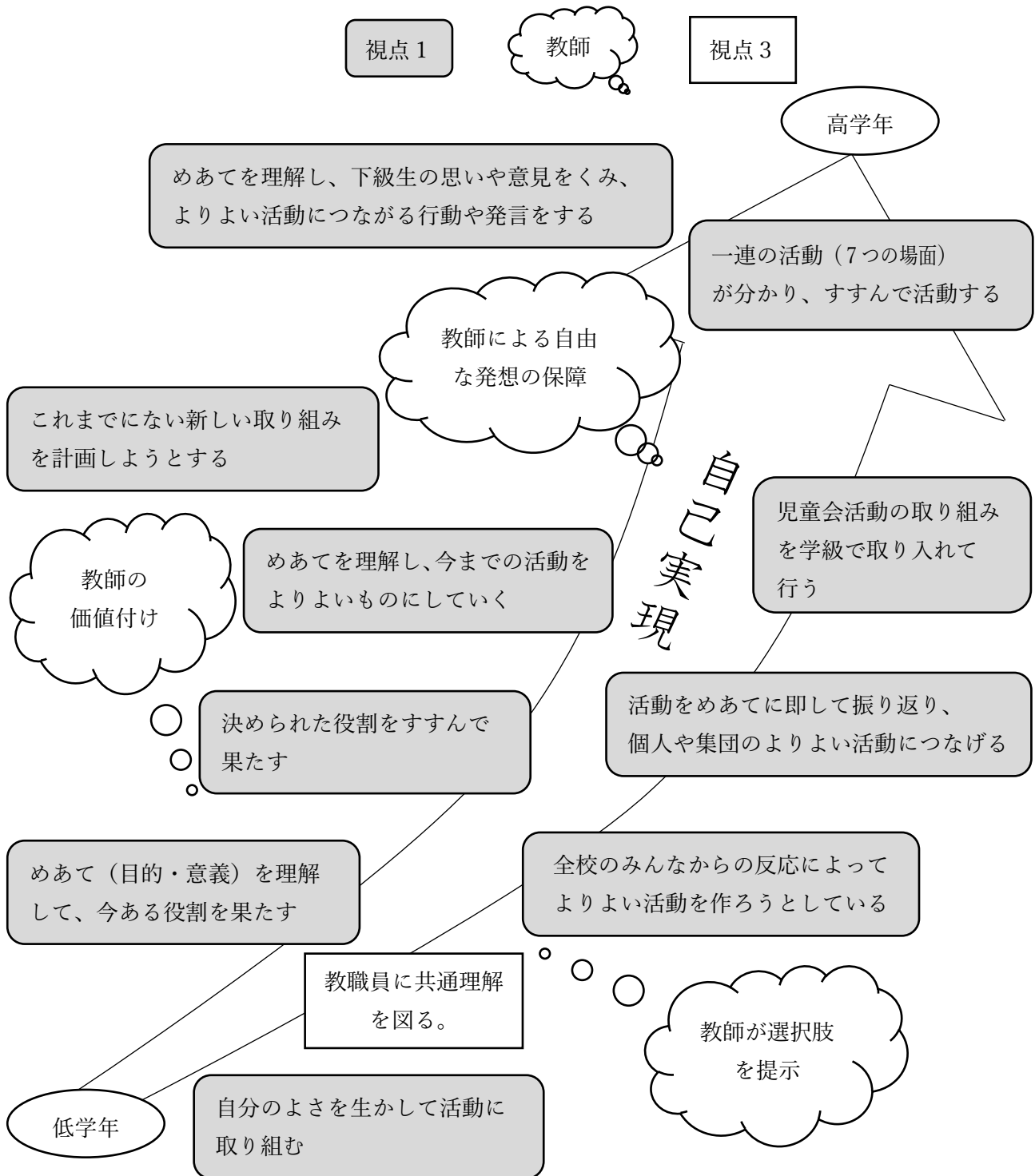
4 今年度の研究内容

(1) 【視点1】異年齢の関わりの中で『自己実現』につながる児童の様相を明確にする。

【視点3】学校全体で異年齢交流を組織的に取り組み、活動を広める。

今年度は、児童会活動における『自己実現』とは何かを考え、『自己実現』のベースとなる様々な児童の姿に目を向けて研究を進めた。また、学校全体で異年齢交流を組織的に取り組み、活動を広めるために教職員間で共通理解を図ってきた。

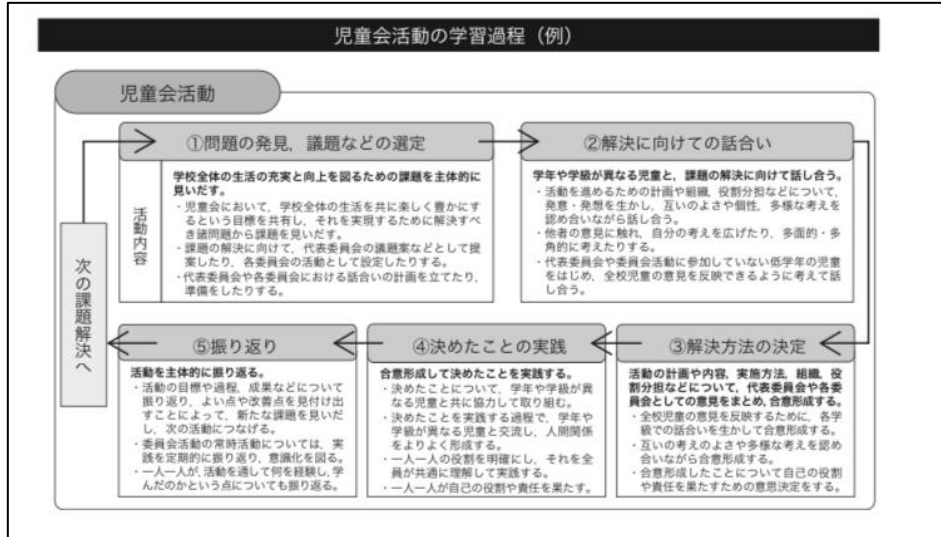
～自己実現につながる児童の姿～



(2) 【視点2】一連の活動を通して育つ力とその目的や意義を明確にする。

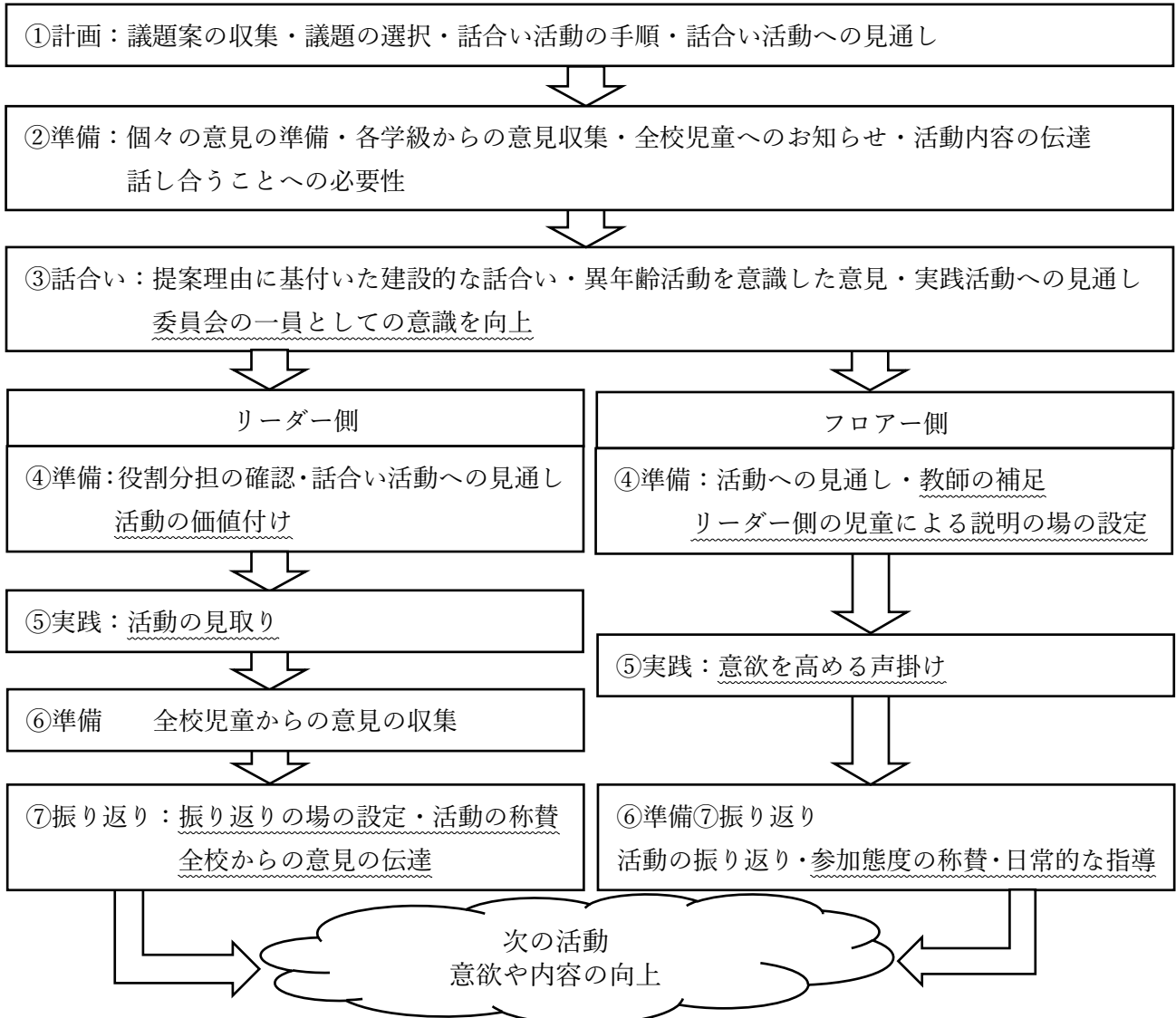
○児童会活動における学習過程（活動過程）と指導内容について

学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別活動編に学習過程が以下のように示された。本研究部では、これまでも学習過程（活動過程）を一連の流れとしてとらえ、以下のような児童の自主的・実践的能力を高められるように取り組んできた。



(本研究会 研究紀要第39号(平成14年度)及び、第40号(平成15年度)参照)

波線：教師の手立てや指導



Ⅱ 実践事例

<実践事例1> 代表委員会「他の学年と仲良くなれるもうじゅう狩りをしよう」

世田谷区立松原小学校
全校児童数 647名

1 活動名

「他の学年と仲良くなれるもうじゅう狩りをしよう」

2 本校の児童会活動

(1) 代表委員会活動

本校の代表委員会は、第4・5・6学年（各学級2名 計18名）で構成される。第5・6学年は通年制、第4学年は二期制で活動している。活動時間の確保が難しいため、各委員会と並列で活動している。そのため、各委員会の代表が代表委員会の話し合い活動に参加できないこと、計画委員会を代表委員会の中から構成して準備や進行を行っているの、実際に話し合いに参加している児童の数が少なくなってしまうことが課題である。

第4・5・6学年一人ずつが一組になって、低学年との連絡を行い、低学年からの意見の吸い上げを密にしている。このグループは、1年間固定（第4学年は半期）で同じ学年に関わっている。

(2) 委員会活動

委員会活動は、第5・6学年で構成される。昨年度までは前・後期の二期制で活動していたが、今年度から活動の連続性を考慮し、通年制で活動している。設置されている委員会は以下の9委員会である。

集会委員会	飼育委員会	放送委員会	図書委員会	体育委員会	美化・掲示委員会
保健委員会	給食委員会	環境委員会			

年度当初に、全校共通の資料を使って各委員会でオリエンテーションを行い、委員会の目的や意義を確認し、各委員会のめあてを決めている。また、個人の振り返りができるカードを作成し、個人のめあてをもち活動を振り返るようにしている。

(3) 児童会集会活動

ショートの子集活動（朝の10分間）は、集会委員会が企画・運営する「児童集会」や「委員会紹介集会」、行事に関係のある「松原子ども会お店紹介集会」や「展覧会作品紹介集会」がある。ロング集会は、「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」がある。

3 代表委員会の実態

話し合い活動では、第4・5学年活発に発言している。話し合い活動の座席配置も活動のグループも異年齢で並んだり組んだりしているため、異年齢で関わろうとする意識は少なからずあるが、まだ十分とは言えない。

昨年度まで児童の発意・発想を生かせる活動は少なかったが、今年度はこれまでに3回の活動の場を設定した。代表委員会のめあてを達成するために、すすんで活動できるよう指導していきたい。

〈年間活動計画 …児童の発意・発想を活かした活動〉

学期	活動日	活動内容
一学期	4/16	オリエンテーション「委員会のめあてを決めよう」 【委員会のめあて】明るく楽しい松原小学校にしよう
	5/7	「運動会の準備をしよう」
	5/28	「松原小をよりよくする工夫をしよう」
	6/25	「みんなに呼びかけるポスターを作ろう」
二学期	9/3	「松原子ども会を盛り上げる工夫をしよう」 (松原子ども会実施日 10/11)
	9/24	「他学年との交流会であることを決めよう」 (実施日 12/9、10、11)
	10/25	(本時)「他学年と仲良くなれるもうじゅう狩りを工夫しよう」
	11/26	「ユニセフの活動を紹介しよう」
三学期	1/14	「他学年と仲良くなれる氷おにを工夫しよう」 (実施日 1/30)
	1/28	「6年生を送る会の準備をしよう」
	2/25	「1年生を迎える会の準備をしよう」

※当番的な活動

○運動会の仕事

スローガンの発表/開閉会式の司会/選手宣誓/児童代表の言葉/光明学園にお知らせ/他

○松原子ども会の仕事

スローガンの発表/お店紹介集会の司会/スタンプラリーカード/ポスター/他

※発意・発想を活かした活動

9/3 「松原子ども会を盛り上げる工夫を決めよう」話し合い活動の様子



近くの人との相談タイム。
4・5・6年生が混ざって盛り上げる工夫について、話し合っている。

計画委員のメンバーでも、この後の話し合いの進め方について打ち合わせている。



9/24 「他学年との交流会であることを決めよう」話し合い活動の様子

全校からのアンケートをもとに話し合った。4年生は前期委員と後期委員が参加し、活動した。



4 研究主題に迫るための手だてや指導

全体研究主題

集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動

児童会活動部主題

関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動

↓ 児童会活動部では…

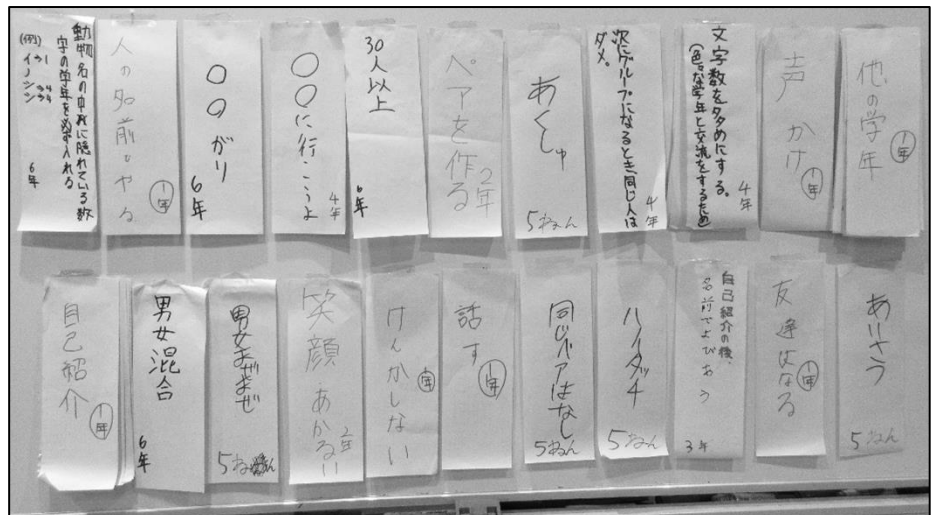
異年齢交流の中で、「自分のなりたい姿」を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと。

研究の視点

- ①『自己実現』につながる児童の様相を明確にする。(その活動の目的や意義を達成すること)
 - 全校児童からの意見の収集
 - ・下級生に自分たちの思いを伝え、上級生に自分たちの思いを共感してもらい、全校のみんなのためになるようにする。
 - 異年齢交流活動の場の保障。
 - ・「他の学年と交流したい」との児童の思いを大切に、活動計画を立てる。
 - ・話し合い活動時、他学年の児童同士が相談できるように座席配置を工夫する。
- ②活動の目的や意義を明確にする。
 - 提案理由の明確化・具体化
 - ・異年齢の人間関係に焦点を当てて、提案理由を深め、異年齢交流活動の目的や意義を周知する。
 - 教職員間の共通理解
 - ・教員に活動の意義を周知し、発意・発想を生かした活動を支えてもらえるようにする。
- ③学校全体で異年齢交流を組織的に取り組み、活動を広める。
 - 休み時間の活動であるが、全校児童の参加する活動として教員の協力を得る。

事前に全校児童に取った他学年と仲良くなるもうじゅう狩りのための工夫アンケート

他の学年と仲良くなるためのもうじゅう狩りの遊びの工夫はありますか？



5 事前の活動

活動日	活動内容	指導の留意点
10月16日 給食中	【代表委員】 他学年との交流会で遊ぶ「もうじゅう狩り」の仲良くなる工夫について、全校にアンケートをとる。	今回は給食中だが、できれば朝の時間などの方が望ましい。
10月18日 朝休み	【計画委員会】 代表委員会ノートを作成する。	アンケートの意見を整理する。
10月18日 昼休み	【代表委員】 本時の活動内容の確認をする。	事前に自分の考えをもって話合いに参加できるようにする。
10月21日 中休み	【計画委員会】 活動計画書を作成する。	自分たちで話合いを進められるように、活動計画を立てる。

6 本時

(1) 議題

「他学年との交流会でやる『もうじゅう狩りに行こうよ』の仲良くなる工夫をしよう」

(2) 提案理由

「他の学年と交流することで仲良くなれる（顔と名前が一致する・お互いにあいさつする・会話する）から」

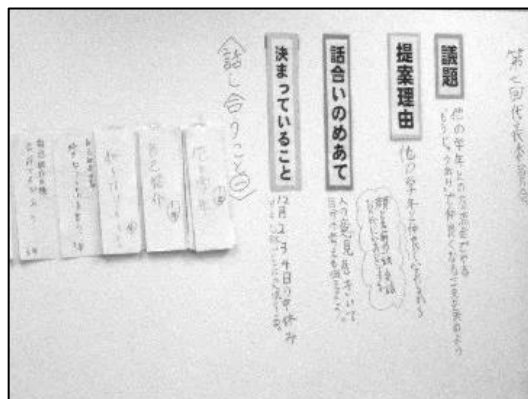
(3) 本議題について

1学期の児童の発意・発想を活かした話合い活動で、代表委員会のめあて「明るく楽しい松原小」にするために、学校のルールを守ることを呼びかけるポスター作りと他学年との交流会を行いたいという意見が出た。1学期には、学校のルールを守ることを呼びかけるポスター作りを行い、2学期に他学年との交流会を行うことになった。

児童の発意・発想を活かした話合いの時間が、2学期、3学期に1回ずつ取れるので、他学年との交流会を2学期と3学期に行うこととした。前回の委員会活動では、交流会でやる遊びを話し合った。そして、「もうじゅう狩りに行こうよ」と「氷おに」の2つに決まった。2学期に「もうじゅう狩りに行こうよ」、3学期に「氷おに」を行うことにした。

(4) ねらい

- ・他学年と仲良くなる工夫をする。
- ・提案理由に沿って、見通しをもちながら話し合う。



(5) 本時の展開

ア 児童の活動計画（37ページ参照）

イ 教師の指導計画

児童の活動	教師の指導（○）と評価（★）
1 始めの言葉	○活動計画に沿って話し合わせ、活動の見通しをもたせる。
2 計画委員会の紹介	
3 議題の確認	
4 提案理由の確認	
5 話合いのめあての確認	
6 話合い （1）仲良くなる工夫について （2）実践までの役割分担について	○児童の話合いをできる限り見守る。 ○児童の自治的範囲を超えた場合、人権上問題のある場合、また、活動が混乱した場合は、その場で指導する。 ★学校全体のことを考えて意見を伝えている。 （人間関係を形成する力） ★学校全体のことを考えて実践の見通しをもって話し合っている。（自主的・実践的に活動する力） ★提案理由を生かして発想を広げようとしている。 （社会に参画する力）
7 決まったことの確認	○評価の観点に沿って実名を挙げ、具体的な称賛をする。 ○実践に向けての意欲付けをする。
8 振り返り	
9 先生の話	
10 終わりの言葉	

佐野先生の講評

- ・4年生も整然と発言し、後半は6年生が会の進行を考えている様子が見られるとても気持ちのよい授業であった。
- ・特別活動は、各教科の総仕上げの位置付けである集団活動を通して学んだことは「実社会で生きる力」につながる。自主的（言われなくても自分の役割を自覚できる力）と主体的（決められた仕事をやるだけでなく他の人のために考えて動く力）の違いを理解し、どうすれば代表委員会や委員会の活動で育てられるかを考えたとき、通年制での取り組みは大切な要素である。
- ・本時の議題の提案理由の「仲良くなる」には具体的な姿（顔と名前の一致、挨拶など）が明記されていたので、話合いの方向性が明確になり、議論が成立しやすくなる。

7 話し合い活動の様子



司会、副司会、黒板記録、ノート記録からなる司会グループの進行で、「他の学年と交流することで仲良くなれるための遊びの工夫」ということについての話し合いが行われた。

第 回 代表委員会活動計画 10月25日(金)		
議題	他の学年との交流会や交流活動がはじまりで仲良くなる工夫を求めよう。	
提案理由	他の学年と交流することで仲良くなれるから松原小の交流会をしよう。	
役割分担	司会 副司会	黒板記録 ノート記録
決まっていること	12月の2,3,4日の中休み 校庭で仲良し班ごとで行う。	
話し合いのめあて	人の意見を聞いて、自分の考えも伝えよう。	
話し合いの流れ(時間)	気をつけること	準備
1. 始めの言葉	司会	たばくを吸ってはいけない。
2. 計画委員会の紹介	全員 → めあてをいふ。	
3. 議題の確認	副司会	
4. 提案理由の確認	全員	
5. 話し合いのめあての確認	司会	
6. 話し合い		
柱1 (25分) 仲良くなる工夫を 求める。	<p>はじめから話し合いをしよう。</p> <p>「自分の考えを発表して、みんなの決まったこと」</p> <p>他にどう工夫はありますか?</p> <p>全部やるより、1つか2つに絞るから多く意見が出るといいよ。→合併 他校も</p>	
柱2 (10分) 役割わり分かん	<p>司会</p> <p>1-1 役割わり</p> <p>宣伝</p> <p>並ばせ3人 など 「他にありません。」</p>	
7. 決まったことの確認	ノート記録	
8. 振り返り		
9. 先生の話	1 浅井先生 2 西澤先生 3 関田先生	
10. 終わりの言葉	司会	

代表委員会のめあてである「明るく楽しい松原小学校」にするには、みんなと仲良くなると学校が楽しくなるのではないかという考えから、他学年との交流会での工夫について話し合うことになった。話し合う前に、仲良くなるとはどういうことかを共通理解して、話し合いに臨んだ。

「必ず他の学年とグループを組むこと」「男女が同じグループにいること」など、同じクラスのいつも仲良くしている友達だけではなく、いろいろな人とグループを組み、顔を合わせることで、交流が深まると考えた。また、「自己紹介をすること」でお互いを知ることができ、仲良くなることにつながるという意見と、「もうじゅう狩り」という言葉を「松原小」に変えるという工夫も取り入れることにした。

全校のことを考えながら話し合うことができた。

8 事後の活動



<活動の様子>



<活動を終えて>

会の名前を『みんなでいっしょにあそぶかい』に決め、全校朝会で、全校児童に知らせた。後日、詳しいルールのお知らせを各クラスに行い、前日にはお昼の放送でもう一度宣伝した。

当日の活動は縦割り班で行われた。月グループ（1組）の時には慣れなかった会の進め方も、星グループ（2組）、太陽グループ（3組）と回数を重ね、その日のうちに振り返りでよかったところと改善した方がいいところを皆で出し合ううちに、少しずつだが、自分たちでスムーズに会を進められるようになった。

また、みんなに仲良くなってもらいたいという思いをもち、自分たちで決めたルールを守ってもらうためにどうしたらよいかを考え、どうすれば楽しみながら仲を深めてもらえるか試行錯誤していた。当日、楽しそうに参加している全校児童を見て、満足感を得られた様子だった。

代表委員会の児童の振り返りでは、次のような記述がみられた。

- ・3回の「みんなでいっしょにあそぶかい」を通して、めあてをはっきりさせ、それに向かって準備することの大切さ、振り返りをすることで改善しよりよくしていくことができることを学んだ。
- ・代表委員だけで完結するのではなく、全校児童を巻き込み、盛り上げていくことの難しさを知ったり、自分たちで決めたことを最後までやり抜く責任感と達成感を感じたりすることができた。
- ・代表委員会としての課題と高学年としての課題を見付けることもできた。

一方、会に参加した下級生からは、「楽しかった。また、やりたい」「みんなを盛り上げてくれて、ありがとう」「だいひょういいんさん、がんばってるね」「わたしもやりたい」などのメッセージが届き、全校児童と代表委員とが交流することができた。そのメッセージを読むことで、大変さの中にもやりがいを感じ、次の活動の原動力となっていた。

今回の活動を通して、松原小の一員として、代表委員会として、松原小を盛り上げていこうとする意識が強くなったと感じた。また、めあてをしっかりと持ち振り返りを共有していくことで、代表委員会という集団の高まりや成長が見えた。今後も、学校のためみんなのために活動することが、自己有用感につながり、児童の自己実現に役立てられるよう、指導していきたい。



<実践事例 2> 給食委員会「給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう」

国分寺市立第五小学校
全校児童数 436名

1 活動名

「給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう」

2 本校の児童会活動

(1) 代表委員会活動

本校の代表委員会活動は、第4・5・6学年で構成される。第4学年の代表委員のみ二期制で担当し、第5・6学年は通年制で活動している。本校の代表委員会は、各委員会と並列で行われている。

今年度は、代表委員会と各委員会の活動が同日の同時刻に計画され、並列に行われているが、小学校学習指導要領解説特別活動編においては「代表委員会の構成、組織などは学校の実態によって異なるが、主として高学年の学級代表、各委員会の代表、関連する内容等必要に応じてクラブ代表などが参加する。」とある。これを実現するためには、代表委員会と各委員会の活動日を別に設定していく必要があり、現在検討中である。

(2) 委員会活動

本校の委員会は第5・6学年の児童で構成され、設置されている委員会は以下の7委員会である。

環境委員会	放送・集会委員会	図書委員会	運動委員会	健康委員会	奏楽委員会	給食委員会
-------	----------	-------	-------	-------	-------	-------

年度当初に、各学級で全校共通の資料を使った委員会のオリエンテーションを行っている。委員会の目的や意義を確認し、各委員会でめあてを決めている。また、個人の振り返りができるカードを作成し、個人のめあてをもち、活動を振り返るようにしている。

(3) 児童会集会活動

朝の集会活動（朝の10分間）は、各委員会が企画・運営する「児童集会」や「委員会紹介集会」、行事に関係のある「五小プレイパークお店紹介」や「1年生を迎える会」がある。ロング集会は、「6年生を送る会」がある。また、各委員会が企画・運営している、給食中や中休みの時間を利用した活動がある。

3 給食委員会の実態

1学期まで当番的な活動や話合いの座席配置はクラスごとになっていた。そのため、異学年での交流といった面では、意識が低かった。話合い活動にも慣れておらず、話合いのルールが守られていなかった。また、2年連続給食委員会を経験している児童がいるものの、昨年度の経験をそのまま引き継ぐ案が多く今年度、新たに発意・発想を生かして活動をするというところまで至っていないのが課題であった。

2学期になり、当番的な活動や座席配置を異年齢で編成し、活動を始めた。それにより、

6年生も5年生と活動する中で、最高学年としての意識が芽生えてきた。全体での話し合いでは、なかなか発言が少なかった。異年齢の小グループで話し合わせてから、全体で話し合うことを繰り返す中で、少しずつ発言が多くなり、話し合いの進め方も理解してきている。本校では、残菜が多いことが毎年の課題であり、「残菜を減らしたい。」という意見が2学期は出された。それらの児童の思いを受け、2学期の活動計画を立てることにした。

〈年間活動計画 〇〇〇〇…児童の発意・発想を活かした活動〉

学期	活動日	活動内容
一学期	4/15	・オリエンテーション 「委員会のめあてを決めよう」 【委員会のめあて】自分たちの行動に責任をもち、みんなが給食を好きになるような活動をする。
	4/22	「7月の給食委員会集会の計画を立てよう」
	5/27	「集会で発表するクイズの内容を決めよう」
	6/17	一学期の振り返り・集会準備
二学期	8/26	二学期の活動内容確認
	9/30	「五小の給食アンケートをとろう」
	10/28	「おかわりスタンプの工夫をしよう」
	11/25	「給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう」(本時)
	12/23	二学期の振り返り・三学期の活動計画
三学期	1/27	「給食の大切さを伝える工夫をしよう」
	2/24	1年間の振り返り

※当番的な活動

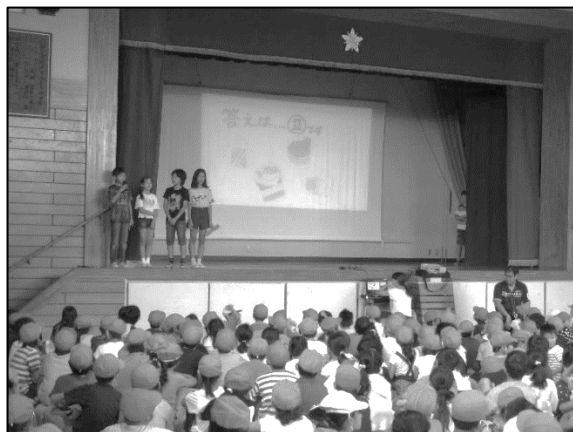
- 栄養黒板の記入

毎日の献立を三大栄養素に分け、黒板に記入する。

- お昼の放送

その日の献立や食材の紹介を行う。

【6月の給食集会の様子】
朝ごはんや、バランスの良い食事の大切さを伝えました。



4 研究主題に迫るための手だてや指導

全体研究主題

集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動

児童会活動部主題

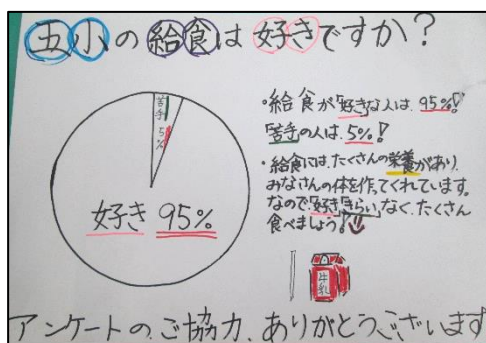
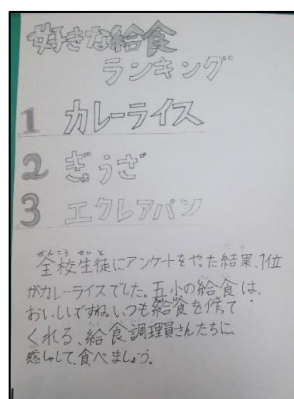
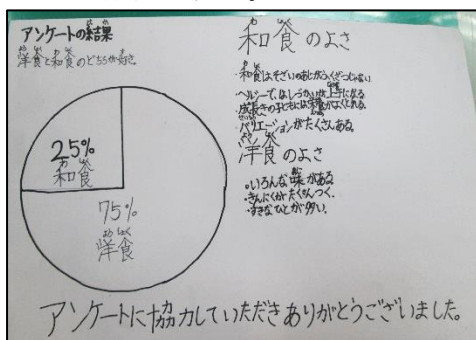
関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動

↓ 児童会活動部では…

異年齢交流の中で、「自分のなりたい姿」を目指して、全校のみんなのために、その活動の目的や意義を達成していくこと。

研究の視点

- ①『自己実現』につながる児童の様相を明確にする。(その活動の目的や意義を達成すること)
 - 全校児童からの意見の収集
 - ・下級生に自分たちの思いを伝え、上級生に自分たちの思いを共感してもらい、全校のみんなのためになるように。
- ②活動の目的や意義を明確にする。
 - 提案理由の明確化・具体化
 - ・楽しい給食時間を過ごすための活動であることに焦点を当てて、提案理由を深め、活動の目的や意義を周知する。
 - 教職員間の共通理解
 - ・教員に活動の意義を周知し、発意・発想を生かした活動を支えてもらえるようにする。
- ③委員会で決定した案を全校に周知し、活動する場を保障する。
 - 発意・発想を生かした活動の場の保障
 - ・「全校が楽しい給食時間を過ごす工夫」の活動計画をもとに、自分たちの発意・発想を生かした活動をする。



児童のアイデアにより全校に向けて給食の意識調査をしました。和食が苦手な児童が多く、和食の良さを伝えるポスターを作成しました。また、好きな給食ランキングで給食に関心をもってもらえるようにしました。

5 事前の活動

活動日	活動内容	指導の留意点
11月20日 中休み	【給食委員会】 「楽しい給食時間を過ごす工夫」として挙げられた案を確認する。	自治的範囲を超える案については、適切な指導を行う。
11月21日 昼休み	【計画委員会】 出された案をもとに、活動計画を立て、活動計画書を作成する。	話し合いを円滑に進めるための活動計画を立てられるようにする。
11月22日 中休み	【給食委員会】 本時の活動内容の確認をする。	事前に自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。

6 本時

(1) 議題

「給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう」

(2) 提案理由

「給食の時間を楽しく過ごせるような工夫をして、五小のみんなを元気にしたいから」

(3) 本議題について

2学期になり、全校からとったアンケートの結果をふまえ、学期内の活動計画を立てた。本校は残菜が多く、児童も課題としてとらえている。そこで、「おいしく食べてほしい」「もっと元気になってほしい」「給食の良さを知ってほしい」という給食委員の思いから、給食委員会の意義について考え直した。そして、給食の時間を楽しく過ごせるような工夫をすることで、五小のみんなを元気にできるのではないかと考え、本議題に決定した。

(4) ねらい

- ・全学年が楽しく過ごせるような工夫について話し合う。
- ・提案理由に沿って、見通しをもちながら話し合う。

「給食の時間を楽しく過ごせるようにどのような工夫ができるか。」事前に自分の考えをまとめ、全校がどうしたら楽しい給食の時間を過ごせるか活発に意見を出し合いました。



(5) 本時の展開

ア 児童の活動計画 (44ページ参照)

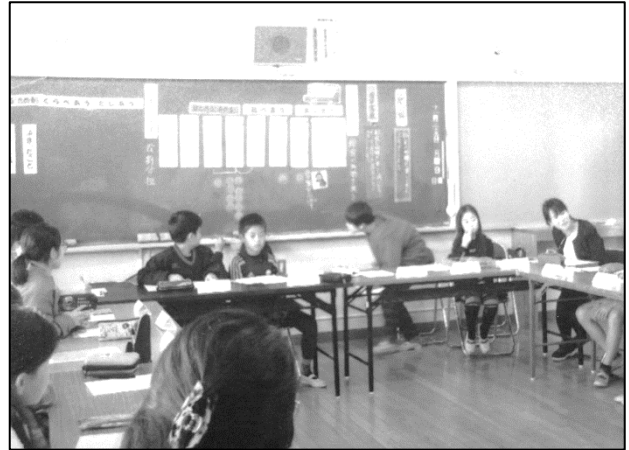
イ 教師の指導計画

児童の活動	教師の指導 (○) と評価 (★)
1 始めの言葉	○活動計画に沿って話し合わせ、活動の見通しをもたせる。
2 計画委員会の紹介	
3 議題の確認	
4 提案理由の確認	
5 話合いのめあての確認	
6 話合い (1) 給食の時間を楽しく過ごす工夫について (2) 実践の役割分担について	○児童の話合いをできる限り見守る。 ○児童の自治的範囲を超えた場合、人権上問題のある場合、また、活動が混乱した場合は、その場で指導する。 ★学校全体のことを考えて意見を伝えている。 (人間関係を形成する力) ★学校全体のことを考えて実践の見通しをもって話し合っている。(自主的・実践的に活動する力) ★提案理由を生かして発想を広げようとしている。 (社会に参画する力)
7 決まったことの確認	○提案理由に沿った発言をした児童を具体的に取り上げ、称賛したり価値付けをしたりする。 ○実践への意欲付けをする。
8 先生の話	
9 振り返り	
10 終わりの言葉	

佐野先生の講評

- ・活動の広がりによって自治的活動の範囲があいまいになる危険性がある。事前に自治的範囲を明確に提示しておくとうい。
- ・「楽しさ」の意味する活動内容の共通理解が難しい。異年齢の活動である委員会活動の特質を理解し、計画を立てる必要がある。
- ・特別活動の様々な活動の中で広がった知識や能力が他の教科の理解の深化にもつながる。
- ・本時の話合いでは、音楽を流すことが提案されていたが、活動によっては他の委員会活動の内容でもある。日常的に連携を図り、相互交流しておくことが大切である。

7 話し合い活動の様子



委員長、副委員長、黒板記録、ノート記録からなる司会グループが進行を行い、「給食の時間を楽しく過ごせるような工夫をして、五小のみんなを元気にしたい」という話し合いが行われた。

第 8 回 給食委員会 活動計画書 11月 25 日(月)		
議題	給食の時間を楽しく過ごす工夫をしよう	
提案者・提案理由	給食の時間を楽しく過ごせるような工夫をして、五小のみんなを元気にしたいから。	
決まっていること		
話し合いの順序	気をつけること	準備
1. 初めの言葉 2. 計画委員の紹介 3. 議題の確認 4. 提案理由の確認 5. 話し合い 話し合い① 給食の時間が楽しくなる工夫。 6. 決まった事の発表 7. (ほりかえり) 8. 先生の話し 9. 終わりの言葉	提案理由から具体的なようにする。 ・良いとこどりや合体で多くの意見を取り入れる。 ・時間によろすがあれば。 話し合い①と②を話し合う(役割分担)	

「給食の時間を楽しく過ごしておいしく食べてほしい」という給食委員の思いや願いを意識しながら話し合いを進めた。

「給食クイズを出すことで、全校が楽しく食事ができるのではないか。」といった意見や、「給食レンジャーを結成してクラスを回ってはどうか。」といった意見が出された。「給食準備時間を短くすることでゆっくり食べられるから、BGMを準備時間に流したい。」という意見もあがり、これらを実践することに決まった。

全員で、事前に話し合いの内容を共通理解し、一人一人が考えをもつことで「スムーズに話し合いができた。」という意見も事後の振り返りで出された。今回決まった活動内容は児童にとって初めての取組となるので、細かな点を確認しながら実践につなげ、児童の自己実現を図っていききたい。

8 事後の活動



〈活動の様子〉

給食レンジャーの活動初日、レンジャーたちは恥ずかしそうな表情も見せたが、下級生の喜ぶ顔を見て役になりきって取り組んでいた。「野菜なんて食べなくていいよ！」と悪役が登場したのに対し、「野菜にはこんな栄養があるんだよ！」と野菜レンジャーが反撃した。見ていた下級生たちは、楽しみながら野菜の栄養について知ることができた。いつもはサラダ等の野菜のおかずが中々減らない学級もあったが、その日は、「苦手けどもう少し食べようかな。」と挑戦する下級生の姿も見られた。後にその反応を伝えると、レンジャー達も嬉しそうな表情を浮かべていた。

まっしぐらレンジャーさんへ
 げきがいすごく面白かった
 し、えいようの大切さがよく
 分かりました。

○ ○ ○ より

きょう食れんじやーさんへ
 おかがいミストローナーが
 食べれるようになりました。
 わたしたちが5年生になったら、
 やってみたいですよ。

△ △ △ より



〈活動を終えて〉

レンジャーが参上した学級では、「レンジャーたちにまた来て欲しい」「来てくれたおかげで楽しい給食の時間になった」「今までよりもおいしく食べられた」などの反応があり、レンジャーたちにその思いを伝えたいと、メッセージカードが届いた。これらを見た、給食委員会の児童は自分たちの活動を通して思いが伝わったことを喜んでいました。

今後も、実践を振り返ることで新たな課題を見だし、次の活動につなげられるようにしていきたい。より一層、児童の発意・発想を生かした計画や実践ができるよう、児童の委員会活動への意欲を高めていく。

また異年齢交流活動を通して、下級生からの親しみやあこがれの思いを知り、自分たちの活動がみんなのためになっているということを実感することで、児童の自己実現への思いを育てていきたい。

Ⅲ 成果と今後の課題

今年度は研究主題「関わりの中で『自己実現』を図る児童会活動」に迫るために、2回の検証授業を通して、異年齢の関わりの中で『自己実現』につながる活動と児童の様相を探ってきた。その結果、次のような成果が得られ、課題が残った。

1 研究の成果

- ・年度当初の委員会活動でオリエンテーションを行うことや、計画から振り返りまでの一連の活動を継続すること、発意・発想を生かした活動の場を保障することで、「全校のみんなのために」という目的や意義を達成する活動につながった。
- ・視点を明確にしたメッセージボードを活用し、自己実現のベースとなる「あこがれ」と「思いやり」を可視化することを通して、相手意識が育ち、自己有用感の高まりやさらなる活動への意欲につながる事が再確認された。

2 今後の課題

- ・あこがれの気持ちや自己有用感をベースとして、次の自分の姿（なりたい姿）に近付こうとしている児童の様相をどのように見取っていくか、また、あこがれや自己有用感以外の自己実現のベースとなる意欲とは何かを探っていく。
- ・基本的な代表委員会や委員会活動の在り方（「児童の発意・発想を生かした活動」の場を保障すること、「計画」から「振り返り」までの活動を一連の活動としてとらえること）についてさらに見直し、より多くの学校に広めていく。

研究にたずさわった人

部 長	大藏 久美	小平・小平第六小	関田 裕子	世田谷・松原小
副部長	星野 良明	江戸川・下鎌田東小	西澤 絢子	世田谷・松原小
〃	渋井 洋子	東久留米・南町小	浅井 圭介	世田谷・松原小
〃	宮内 有加	中央・明石小	塚田 雅子	国分寺・第五小
〃	鶴岡 明子	府中・南白糸台小	岡本 治美	国分寺・第五小
〃	千田 高志	あきる野・西秋留小	西山 亜矢	世田谷・経堂小
〃	根本 成明	府中・府中第三小	中嶋 規子	世田谷・経堂小
〃	畑 理恵	葛飾・南奥戸小	田中 依子	世田谷・経堂小
会 計	山野奈央子	世田谷・玉川小	仲田 綾香	世田谷・烏山北小
〃	佐藤 真美	小平・小平第十二小	塩川 恵	世田谷・砧南小
〃	高宮 良子		矢部 聡	世田谷・尾山台小
	矢野 雅子	杉並・高井戸東小	東 奈奈子	国分寺・第二小
	尾形 俊亮	調布・石原小	松田めぐみ	武蔵野・第四小
	川崎 真琴	国分寺・第五小	赤松 栄介	武蔵野・第五小
	島田 和崇	三鷹・南浦小	植田千成美	多摩・南鶴牧小
	吉井 貴彦	世田谷・松沢小	棚田 真希	奥多摩・古里小
	菊池 友也	新宿・四谷小	増尾 優希	目黒・東山小
	丹治 良太	葛飾・南奥戸小	佐藤 麻美	豊島・高松小
	星野 哲朗	八王子・みなみ野小	鬼木 雅人	東久留米・第二小
	吉沢 美和	町田・南第二小	久良木優有	国分寺・第七小
	菊地 佑太	多摩・第二小	丸山 浩昭	国分寺・第八小
	満山 寿子	北・としま若葉小	五十嵐由希	品川・小山小
	満枝 由佳	小平・小平第八小	小倉さえ子	東村山・南台小
	餘目 智美	東久留米・南町小	堀上 理央	東村山・南台小
	片桐多香子	国分寺・第四小	長谷川 結	墨田・梅若小
	阿部久仁子	羽村・松林小	本田 宏	川崎・西梶ヶ谷小
	佐藤 絢香		味村美恵子	元部長

Ⅲ クラブ活動

クラブ活動部 研究主題

「共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動」

I 本年度の研究について

- 1 研究主題設定の理由 50
- 2 研究の視点 50
- 3 研究構想図 51

II 実践事例

- 〈実践事例1〉 パソコンクラブ 世田谷区立尾山台小学校 52
- 〈実践事例2〉 和風カード研究クラブ 江戸川区立第四葛西小学校 56

III 研究資料

- 1 指導の手だてと育つ力 60
- 2 クラブ計画カード 62
- 3 クラブ活動レター 63
- 4 クラブ活動一年間の指導のポイント 64
- 5 クラブ設立から所属決定までの指導のポイント 66

IV 研究の成果と今後の課題 68

研究の経過

令和元年	4月18日(木)	研究内容の検討	葛飾区立本田小
	5月16日(木)	定期総会	北区立西浮間小
	6月24日(月)	授業参観・研究部会①	世田谷区立尾山台小
	7月8日(月)	授業参観・研究部会②	江戸川区立第四葛西小
	8月2日(金)	拡大研究会	新宿区立落合第三小
	8月6日(火)	全国特別活動研究会函館大会	
	8月7日(水)	同上	
	9月9日(月)	授業参観・研究部会③	世田谷区立尾山台小
	10月7日(月)	授業研究	世田谷区立尾山台小「パソコンクラブ」
			講師 元東京都小学校特別活動研究会副会長 松崎 勝先生
	10月28日(月)	授業参観・研究部会④	江戸川区立第四葛西小
	11月18日(月)	授業研究	江戸川区立第四葛西小「和風カードクラブ」
			講師 元東京都小学校特別活動研究会会長 長田 信彦先生
令和2年		研究紀要の検討	
	1月8日(水)	拡大研究会	新宿区立落合第三小
	1月～2月	研究発表大会準備	
	2月14日(金)	研究発表大会	北区立西浮間小

I 本年度の研究について

クラブ活動部 研究主題

「共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動」

クラブ活動部における『自己実現』の捉え

共通の興味・関心を追求する活動を、楽しく豊かにするための課題を発見し、自分のよさや可能性を生かそうとすること。

1 研究主題設定の理由

クラブ活動は、異年齢集団活動の楽しさを味わいながら自分たちの手で活動を作り出すための方法の理解や力の習得、人間関係をよりよく構築していくための相手を意識した思考力、多様な仲間の個性を受け入れ助け合ったり協力し合ったりしてよりよい人間関係を築こうとする態度といった資質・能力を育てる。また、上記に併せて学習指導要領のクラブ活動の目標には「個性の伸長」が示されている。本研究部では、クラブ活動における「個性」について、集団の中でよりよく発揮され、他者と協調できる個人における特性やよさであると考え。例えば、「運動が得意」「司会が上手」といった秀でた技能や得意なこと、「思いやりがある」「縁の下でみんなを支えられる」「粘り強い」といった性格や態度などを個性として捉えている。

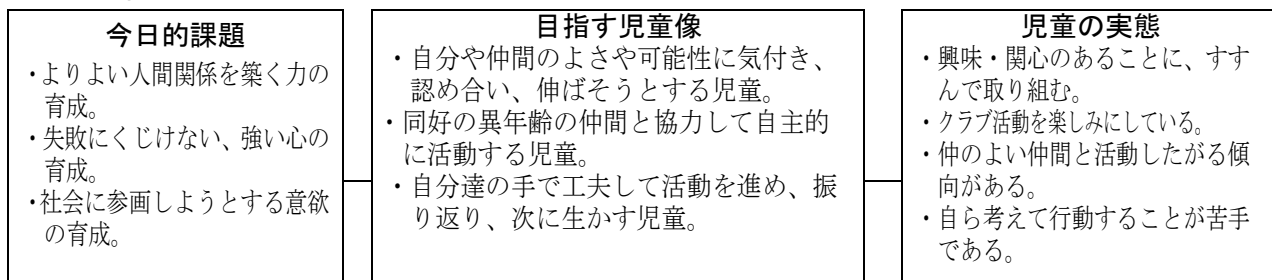
3年間の研究では、多様な「仲間のよいところ見付け」の方法で、クラブの仲間のよさに気付くことができるよう手だてを講じ、児童の人間関係に深まりが見られた。手だての有効性の検証では、クラブカードや作文等の個々の記録を、経過を追って比較したり他の児童と見比べたりしながら分析することで、児童の変容を捉え、指導の充実へとつなげた。また、「同好の仲間が集まる集団活動」というクラブ活動の基本的な特質に立ち返り、児童が興味・関心を追求することができるようにするための手だてを、実践を通して検証した。

新主題となる今年度は、クラブ活動における自己実現を「共通の興味・関心を追求する活動を、楽しく豊かにするための課題を発見し、自分のよさや可能性を生かそうとすること」とした。これまでの研究で積み重ねてきた、共通の興味・関心を追求する活動の中で、学習過程の充実を図ることで、自分のよさや可能性に気づき、伸ばそうとする児童の育成を目指す。

2 研究の視点

- (1) 一人一人の思いを大切にした指導の工夫
- (2) 自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

3 研究構想図



研究主題 「共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動」

研究仮説 共通の興味・関心を追求する活動の中で、学習過程の充実を図れば、自分のよさや可能性に気付き、伸ばそうとする児童が育つだろう。

研究の視点と指導の手だて

視点1 一人一人の思いを大切にした指導の工夫	視点2 自他のよさや可能性に気付くことのできる指導の工夫
<p>【児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り児童の発意発想を生かしたクラブ設立ができるよう、教師間の共通理解を図る。 ・児童が納得して設立や所属決定ができるよう適宜助言する。 <p>【児童理解を深めるための資料や記録の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の活動では、一人一人の活動の様子を観察し記録を取る。 ・児童の思いや活動への期待などを把握できるように、記録物や短作文などを一覧にまとめる。 ・記録などから児童の実態を把握し、児童の思いが生かされるよう適切に指導・助言を行う。 <p>【目標の決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同好の仲間と活動を作り上げていくために、一人一人の思いを生かした目標を決める。 ・毎回その目標を意識して活動できるようにするために、掲示し、目標が達成できているかどうかを適宜問い掛ける。 <p>【めあての決定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画委員会で決まった毎時間のめあてを達成するために、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。 <p>【活動の展開への見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当クラブの活動の特質について、教師が理解を深める。 ・活動が盛り上がるためにはどのように活動が展開されていくとよいか、過去の実践例や他クラブの活動例などを参考に、教師が見通しをもつ。 <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の見通しのもと、活動が広がるように情報提供したり助言したりする。 	<p>【クラブカードの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブカードの振り返りの記述から、自他の成長に気付いていることを取り上げ、個々に認め称賛したり、全体に紹介したりすることを積み重ねる。 <p>【めあての決定と可視化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人のめあてをグループで1枚の紙に書き、活動の中でめあてを伝えたり意識したりできるようにする。 <p>【自己評価・相互評価の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさや頑張りをカードに記入し、振り返りの場面で伝え合う。 <p>【クラブ通信の発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が見取った活動のよさ、児童が見付けた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に配布する。 <p>【終末の助言の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標やめあてを意識して活動できたこと、自他のよさに気付いたり認めたりできたことを取り上げ称賛する。また、クラブ全体の課題について伝え、よりよい活動にしていけるようにする。 <p>【自分の成長を振り返る時間の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に、それまでの活動や自分の成長について、短作文を書く時間を設定する。 ・短作文やクラブカードの内容の変容に着目するよう助言し、児童が自分のよさや可能性に気付けるようにする。

よりよいクラブ活動を展開していくための手だて

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| (1) 児童の発意発想を生かしたクラブの設立と所属決定を行う。 | (5) 異年齢小グループで活動するよう指導する。 |
| (2) オリエンテーションを行う。 | (6) 振り返りカードを活用する。 |
| (3) 自分たちのクラブの目標を作るよう指導する。 | (7) 終末の助言を工夫する。 |
| (4) 計画委員会を開く。 | (8) 成果の発表の場を設ける。 |

II 実践事例

<実践事例1> 世田谷区立尾山台小学校「パソコンクラブ」指導者：矢部聡 遠藤裕美子

1 パソコンクラブについて

パソコンクラブの児童は、6年生6名、5年生3名、4年生5名の計14名である。第1回のクラブ活動の前にアンケート調査をしたところ、「頑張ることで、上手くなることや、できたことをいろいろなことに生かしたい。」「みんなでいろいろなゲームを作って、作ったゲームでみんなと遊びたい。」「プログラミングで楽しみ、みんなに役立つことを考え喜ばせたい。」といった回答が見られた。一人一人がクラブ活動に対して、前向きな気持ちをもっていることが分かった。

2 本実践の学習過程

計画や役割についての話し合い

活動内容や活動計画について話し合ったり、役割分担したりする。

前時の活動での一人一人の児童のよさや頑張り、全体の成果と課題を、児童の振り返りの発言やクラブカードをもとに見取り、担当教師がクラブ通信を発行した。クラブ通信を活用して、司会グループが本時のめあてを考えられるようにした。

手だて 司会グループの引き継ぎ会をする。

全体の成果と課題、司会グループの成果と課題、次回頑張ることを確認する。

手だて クラブ通信を発行する。

全体の振り返りでは紹介できなかった一人一人のよさや頑張り、メッセージカードに書かれた内容を紹介する。また、次回の活動への意欲が高められるような全体へのメッセージを載せて配布する。

手だて 計画委員会を開く。

司会グループの引継の後に行う。前回の成果と課題を基に、本時の活動をどのようにしていきたいのかを話し合い、全体のめあてを決める。



振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

自他のよさや頑張りを伝え合ったり認め合ったりすることで、自分のよさや頑張ったことを次回の活動に生かそうとする児童が多く見られるようになった。

手だて 自己評価・相互評価を工夫する。

振り返りの場面で伝え合ったり、メッセージカードを渡し合ったりする。メッセージカードを書いたりもらったりすることを継続していく中で、自分のよさや頑張りに対してもメッセージカードや振り返りカードに書けるようにする。

手だて 終末の助言を工夫する。

児童の振り返りカードやめあての書かれた画用紙の中から、目標を意識して活動できたこと、自他のよさに気付いたり認めたりできたことを取り上げ紹介する。また、クラブ全体で価値を共有したり、児童の言動のよかったところを具体的に価値付けて称賛したり、課題を伝えたりする。

計画や役割の決定

合意形成を図り、活動内容や活動計画、役割を決める。

全体の目標を達成するために、司会グループが役割を分担し、運営を自分たちの力で行えるように計画を立てた。また、個人のめあてを決めたり、活動日の休み時間に、クラブに所属する児童同士の仲を深めるために、みんなで遊べるスクラッチのゲームを楽しんだ。

手だて 計画委員会の指導を丁寧に行う。

- ① 4・5・6年生が協力して、自分たちで活動計画を立てるよう指導する。
- ② 多くの児童が責任をもって活動できるよう役割分担を明確にする。
- ③ 活動計画カードを基に、活動のポイントを一緒に考える。
- ④ 活動が司会グループ児童によって円滑に進められるようにする。

手だて 毎時間の個人のめあてを決める。

計画委員会で決まった全体のめあての達成に向けて、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。

手だて 仲良しゲーム交流会を開く。

プログラミングの得意な児童が作成したスクラッチのゲームをみんなで楽しみ、同好の仲間との仲を深める。



活動

分担された役割を果たしたり、活動を楽しんだりする。

同じ班の異年齢の友達同士で教え合ったり励まし合ったりしながらスクラッチでゲームを作った。作ったゲームで交流することで、互いの仲が深まっていった。グループを越えて教え合う姿も見られるようになった。また、得意な児童が教えることで、初めはやり方が分からなかった児童も、自分の力でプログラミングができるようになってきた。技能の向上に連れて、互いを認め合うことが自然とできるようになってきた。

手だて 個人の毎時間のめあてを可視化し、交流する。

全体のめあてを受けて決めた一人一人のめあてをグループで画用紙に書き、活動の中で一人一人が決めためあてを伝え合うように指導をする。めあてに向かって努力しようと感じたり、友達の頑張りをすすんで見付けようとしたりできるようにする。

手だて メッセージカードを活用する。

活動中に見られた互いの頑張りをメッセージカードに記入する。ペアやトリオには必ず書き、認め合うことができるようにする。



3 本時の活動と手だて

<視点1>一人一人の思いを大切にした指導の工夫

◎毎時間の個人のめあてを決める。

- ・計画委員会で決まった全体のめあての達成に向けて、一人一人が何を頑張るのかを考え、めあてを決められるようにする。
- ・それぞれの学年に合っためあてを決めることができるように、「発達段階に応じた評価規準」を作成し、指導に役立てる。
- ・めあてが全体のめあての達成につながるように、個別の指導をする。

【成果】 一人一人が自分のめあてを決めて活動することで、めあてを達成するために一人一人が何を頑張るのかを明確にして活動することができた。また、一人一人のめあての達成が、全体のめあてにつながっていることを実感することができた。

【課題】 「発達段階に応じた評価規準」を子供達に示し、めあてを決められるようにし、より明確で具体的なめあてを決めることができるようにする必要がある。また、学期毎の個人目標についても目指す自分の姿を捉えられるようにしていく必要がある。



<視点1>一人一人の思いを大切にした指導の工夫

◎計画委員会の指導を丁寧に行う。

- ・司会グループの児童がそれぞれの役割を果たし、自分たちの力で活動を運営していくことができるようにする。
- ・活動のポイントを児童と一緒に考え、全体のめあての達成につながる活動になるようにする。

【成果】 活動を自分たちの力で作り上げようとする児童が増えた。また、役割を果たすことで、自分のできたことや頑張りを実感することにつながった。6年生児童を中心に異学年で協力することができた。

【課題】 計画を立てる際に要する時間が多くかかってしまったため、司会グループの経験を積み重ねていき、計画委員会にかかる時間を減らしていけるようにする必要がある。



<視点1>一人一人の思いを大切にした指導の工夫

◎クラブカード（振り返りカード）を活用する。

- ・児童の振り返りから、自分や友達の成長に気付いている言葉を取り上げ、個々に認め、称賛したり全体で紹介したりすることを積み重ねる。
- ・児童一人一人が書いた振り返りに対して、教師が価値付けや意欲付けをしたり、次回の課題を書いたりする。
- ・児童がクラブカードを定期的に振り返り、自分の頑張りの成長した点に気付くことができるようにする。

【成果】 活動を積み重ねていくことで、自分のできたことや頑張ったことを具体的に振り返ることができるようになった。また、できたことと併せて、次回の活動で頑張ることや解決していくことについても考えることができるようになった。

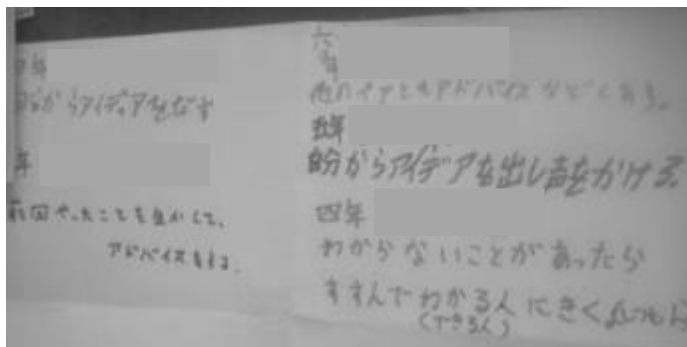
【課題】 定期的にクラブの目標や個人の学期の目標に立ち返りながら、自分の頑張ったことの振り返りができるようにし、更に自分の成長を実感できるようにする必要がある。

<視点2> 自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

◎自己評価・相互評価を工夫する。

- ・各自が決めた毎時間のめあてをクラブに来た児童から画用紙に書く。
- ・画用紙に書いためあてを互いに確認し合う時間を設定する。
- ・活動中や振り返りの時間に、自他のよさや頑張りをメッセージカードに記入する。
- ・振り返りの始めに、グループで自分の頑張りができたことを伝え合いながら交流し、メッセージカードを渡し合う。
- ・誰に対してよさや頑張りを伝えることができたのかを名簿に記録する。
- ・全体で友達のよかったところやすごかったところを伝え合う。

【成果】 画用紙に書いためあてを互いに見合い、伝え合うことで、めあてに向かって活動する友達のよさや頑張りに気付くことができた。友達のめあてに対するよさや頑張りを伝え合ったり、自分の頑張りに気付いたりすることで、めあてを達成しようとする意欲が高まり、温かな雰囲気のもと、すすんで活動に取り組むことにつながった。



【課題】 クラブ活動の45分の時間の中で、書く時間を設定することが難しいため、活動中に書くことを促したが、活動に一生懸命になってしまい、教師の働きかけがないとメッセージを書くことができなかった。メッセージを書いて互いを認め合うことのよさをより実感できるようにし、活動中に書くことができるようにしていく必要がある。



<視点2> 自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

◎クラブ通信を発行する。

- ・全体の振り返りでは紹介できなかった一人一人のよさや頑張りを、メッセージカードに書かれた内容を紹介します。また、次回の活動への意欲が高められるような教師からのメッセージを載せる。
- ・めあてに対して何ができたのかを紹介し、次回のめあてを決める際の参考になるようにする。
- ・次回全員で解決すべき課題を記載する。

【成果】 一人一人のよさや頑張りを紹介することで、自分のめあてに生かそうとしたり、次回の活動のめあてを達成しようとしたりする意欲の高まりにつながった。自分の頑張りに気付くことや互いのよさを認め合っていこうとする態度が育まれた。また、活動計画カードと通信を貼り貯めていくことで、定期的に自分の成長を振り返ることにつながった。



【課題】 次回の活動までに期間が空いてしまう場合にはクラブ通信を配布するタイミングが難しい。早く出しすぎても、次回の活動まで意識を持続させられない。また、活動の直前に配ると児童のよさや頑張りを記載しても伝わりづらくなってしまふ。したがって、活動に期間が生じる際には、直後と直前に一枚ずつ配布していくようにし、活動のつながりをもたせる必要がある。



<実践事例2>江戸川区立第四葛西小「和風カードクラブ」指導者：中本健太郎 香取浩子

1 和風カードクラブについて

昨年度、和風カードクラブに所属していた児童数名が、「去年も百人一首がやりたかったが、カルタばかり行っていた。今年は、百人一首を覚え、強くなれるよう活動がしたい。」という思いで、百人一首を追求する本クラブを設立した。4年生の9名、5年生の7名、6年生の男子10名の計26名が所属している。

2 和風カードクラブの学習過程

計画や役割についての話し合い

活動内容や活動計画について話し合ったり、役割分担したりする。

第1回のクラブ活動でオリエンテーションを行い本校のクラブ活動のねらいを確認した。クラブ長1名、副クラブ長1名、記録2名を決めた。その後、一人一人の願いを出し合い、「①男女異年齢で協力して楽しく仲よく活動する。②真剣に、全員ですすんで取り組み、百人一首が強くなるクラブ。③競技を行うときに安全に気を付けて取り組むクラブ。」という本クラブの目標を決めた。

手だて 全員の思いを大切にクラブの目標を決める。

児童一人一人の願いを大切にクラブの目標を決め、その目標に向かって活動できるようにする。

手だて 情報提供をする。

教師の見通しのもと、活動が広がるよう情報提供をしたり助言したりする。児童の思いを大切に、児童が意思決定できるよう配慮する。

振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

毎回の活動の前に計画委員会で話し合っただけで決めた「今日の活動のめあて」を達成できるように、各自が「個人のめあて」を決め、クラブカードに記入した。振り返りでは、その各自のめあてについて振り返り、自己の成長や活動の取り組みのよさ、今後に生かすことをクラブカードに書けるようにした。回数を重ねるごとに、クラブ活動の特質やねらいに迫るようなめあてを考える児童の姿も見られた。

手だて 終末の助言を工夫する。

活動中の観察や記録を基に、児童の活動のよかったところを具体的に称賛して価値付けたり、課題を伝えたりする。

手だて クラブ通信を発行する。

教師が見取った活動のよさ、児童が見つけた互いのよさや可能性、終末の助言で取り上げた成果や課題などをクラブ通信にまとめ、児童に配布する。

計画や役割の決定

合意形成を図り、活動内容や活動計画、役割を決める。

活動計画を立てる際には、百人一首の経験が少ない児童が大半を占めていることを考慮して、少しずつ百人一首を覚えられるようにクラブ長や6年生が中心となって計画を立てた。

毎回の活動では、異年齢小グループ（A～D班）が輪番で司会グループを担当した。司会グループの中で、「あいさつ」「出席確認」など役割を分担した。

手だて 計画委員会の指導を行う。

4、5、6年生が協力しながら活動計画を立てられるようにする。児童が責任をもって活動できるよう役割を明確にできるようにする。

手だて 異年齢小グループの活動を工夫する。

異年齢小グループで活動することで、教え合ったり励まし合ったりしながら、人間関係を深め、互いのよさに気付けるようにする。



活動

分担された役割を果たしたり、活動を楽しんだりする。

班の異年齢の仲間で教え合ったり励まし合ったりしながら百人一首を練習することで、次第に互いの仲が深まっていった。また、班の仲間と協力しながら班対抗戦を行ううちに、百人一首を覚えたいという気持ちや活動への意欲が高まっていった。2学期の終わりには、半分以上の札を覚えた児童もいた。また、試合に勝つために、クラブの活動時間以外にも自主的に練習する児童の姿も見られた。

手だて 自分のめあてを決め、振り返る時間を設定する。

毎時のめあてと、めあてに対する振り返りを書く欄を設ける。各自が決めた毎時間のめあてを画用紙に書き、異年齢小グループで互いに見合えるようにする。

手だて 「よいところ見付け」を工夫する。

「誰の」「どんなところ」がよかったのかを具体的に書けるように「よいところ見付けカード」に記入する。



3 本時の活動と手だて

<視点1>一人一人の思いを大切にした指導の工夫

◎児童理解を深められるよう資料や記録を活用する。

- ・年度の初めに、「①このクラブを選んだ理由」「②活動したいこと」「③1年間の活動を通してどのようになりたいか」について、短作文を書く時間を設定する。
- ・児童の思いや活動への期待などを把握できるように、短作文などを一覧にまとめる。
- ・毎時間の活動では、一人一人の活動の様子を観察し記録を取る。
- ・記録などから児童の実態を把握し、児童の思いが生かされるよう適切に指導・助言を行う。

【成果】 一人一人の思いを把握したり活動の様子を観察したりすることで、児童理解が深まった。児童の成長や課題などが明確になり、より実態に即して適切に指導・助言を行うことができた。

【課題】 毎時間、全ての児童の活動を把握することは難しい。クラブの担当教員と観察する児童を分担したり、その日に重点的に観察する児童を事前に決めておいたりするなど、計画的に児童を見取れるようにする必要がある。



<視点1>一人一人の思いを大切にした指導の工夫

◎活動の展開の仕方について教師が見通しをもち、情報提供をする。

- ・担当したクラブの活動の特質について教師が理解を深める。
- ・活動が盛り上がるためにはどのような活動が展開されていくとよいか、過去の実践例や他のクラブの活動例などを参考に、教師が見通しをもつ。
- ・教師の見通しのもと、活動が盛り上がるように情報提供をしたり助言したりする。
- ・児童の思いを大切に、児童が意思決定できるよう配慮する。過度な干渉や、児童の思考を妨げるような情報提供にならないよう留意する。

【成果】 本クラブは百人一首の経験のない児童が多数を占める一方で、ほぼ全ての句を暗記している児童もいるなど、活動の当初は児童の経験の差が大きかった。本クラブの活動が盛り上がるためには「①百人一首を覚えること」「②実力が近い友達と競い合うこと」「③源平戦など班で協力し合うこと」が大切であるという見通しをもった。児童が活動内容や計画を立てる際には児童の発意発想を大切にしながらも、上記の①～③のポイントに児童が気付けるよう効果的に助言することができた。ゲーム性の高い活動を友達と楽しく交流しながら百人一首を行うことで、「もっと百人一首を覚えて試合をしたい」など児童の活動への意欲を高めることができた。

【課題】 「為すことによって学ぶ」という指導の原理を大切にし、情報提供する時期や情報量については、児童の思考を妨げないよう十分配慮する。



<視点2>自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

◎自分のめあてを決め、振り返る時間を設定する。(自己評価)

- ・毎時のめあてと、めあてに対する振り返りを書く欄を設ける。
- ・各自が決めた毎時間のめあてを画用紙に書き、互いに見合う時間を設定する。
- ・自分の成長や課題を踏まえ、時事のめあてを決められるようにする。

【成果】 めあてを決め、そのめあてに対する振り返りを行うことで、目標に向かって意識して活動しようとする児童の姿が見られた。各自が決めためあてを画用紙に書き互いに見合うことで、めあての決め方を参考にしたり、めあてに向かって活動する友達のよさに気付く機会を増やしたりすることができた。

【課題】 教師は児童のめあてや振り返りが段階的に深まっていくよう全体で共有したり、個別に助言したりする必要がある。



<視点2>自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

◎「よいところ見付け」を工夫する。(相互評価)

- ・「誰の」「どんなところ」がよかったのかを具体的に書けるように「よいところ見付けカード」を作成する。
- ・「よいところ見付け」の内容を伝え合う時間を設定する。
- ・多様なよさや可能性に気付けるように助言する。

【成果】 異年齢を超えて様々な友達の「よいところを見付け」伝え合うことで、互いのよさを認め合おうとする雰囲気が広がり、更に活発に関わり合おうとする姿が見られた。

【課題】 よいところ見付けを伝える活動は、効果的に行われるよう教師が意図的・計画的に行う必要がある。



<視点2>自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

◎終末の助言を工夫する。(教師による評価)

- ・活動中の観察や記録を基に、児童の活動のよかったところを具体的に称賛して価値付けたり、課題を伝えたりする。
- ・児童の振り返りカードの中から、目標を意識して活動できたこと、互いのよさや可能性に気付いていたことなどを取り上げ称賛し価値付ける。

【成果】 毎回の活動の最後に、教師がクラブ活動の目標に沿って児童の活動のよさや課題を共有したことで、クラブ活動の目標に迫る活動が展開されるようになった。また、クラブ通信を発行することで、終末の助言で伝えきれなかった成果や課題についても伝えることができた。

【課題】 より効果的な指導・助言となるよう、児童の名前を挙げ活動の場面やそのよさについて具体的に称賛できるようにする必要がある。



Ⅲ 研究資料

1 指導の手だてと育つ力（平成22年度～令和元年度の研究成果より）

指導の場面	指導の手だて	育つ力
		A 人間関係を形成する力
1 自己決定する 所属クラブを	(1) オリエンテーションを行い、クラブ活動の目標や特質を明確に示す。 (2) 児童の希望が生かされる設立、所属決定の方法をとる。 (3) 前年度の経験を生かすよう助言する。 (4) 迷っている児童、所属を決められない児童に個別助言する。	(1) クラブを設立するために、同好の異年齢の仲間を集めるために声をかけたり誘ったりする。
2 組織を作る	(5) 組織作りのための時間を設定する。 (6) クラブ活動の目標や特質について指導する。 (7) 自分のクラブに必要な役割を考えることができるよう助言する。 (8) 6年生や前年度所属していた児童を中心に話し合うよう指導する。 (9) 異年齢でグループを作るよう指導する。	(2) 4・5・6年生と一緒に活動できるようなグループを作る。 (3) 6年生が中心になり異年齢グループを作る。
3 目標をもつ	(10) 作文などを書かせ、児童の思いや願いを把握する。 (11) クラブ活動の目標や特質に合ったクラブ全体の目標が決められるよう指導する。 (12) 一人一人の思いを大切にクラブ全体の目標作りの方法を指導する。 (13) クラブ全体の目標を受けて、具体的な個人の目標を決められるよう指導する。	(4) 全員の願いを生かしたクラブ全体の目標を決める。 (5) 「他の学年の友達と仲良く活動する」などの異年齢集団を意識した個人の目標を決める。
4 活動計画作り	(14) クラブ長を中心に全員の希望を生かして年間計画を立てるよう指導する。 (15) 活動の特質を理解し、教師が見通しをもつ。 (16) 年間計画に基いて、計画委員会で毎時間の計画を立てられるよう指導、助言する。 (17) 計画を全員に知らせることができるような場を設置したり、方法を指導したりする。（掲示板の設置計画の配布）	(6) みんなが活躍できるような活動計画を考える。 (7) みんなで役割を分担する。 (8) 一人で活動するのではなく、グループの友達と一緒に活動できる内容を決める。 (9) 次の活動内容を知り、協力して準備をする。
5 毎時間の活動と振り返り	(18) クラブ全体の目標を掲示し、意識付ける。 (19) 活動計画（流れ）を掲示して確認し、見通しをもつことができるようにする。 (20) 一人一人の役割を確認できるようにする。 (21) 毎時間の個人のめあてを決め、めあてに向かって活動できるようにする。 (22) 教師の見通しのもと情報提供や助言をする。 (23) 教師は児童の気付きや経験に合わせて段階的に指導助言する。 (24) クラブ通信等を発行し、興味関心の追求を深化させたり、活動を充実させたりすることができるようにする。 (25) 友達のよいところを見付け、発表する時間を設ける。 (26) 終末の助言で、活動のよさを価値付ける。	(10) 異年齢の仲間と仲良く楽しく活動する。 (11) 互いに助け合って活動する。 (12) 異年齢の仲間と一緒に興味・関心を実態に即した多様な方法で追求する。 (13) 高学年の児童が下学年の児童の思いや願いを生かして活動する。 (14) 下学年の児童が高学年の児童に憧れをもち、高学年のよさを自分の活動に生かす。 (15) 互いのよさに気付き、伝え合う。 (16) みんなと協力するよさに気付く。
6 学期末・学年末の振り返り	(27) クラブ全体の目標や個人の目標について、短作文やクラブカードを使って振り返るよう時間を設定する。 (28) 成長を認め励ます。（個人・グループ・全体） (29) 課題に気付けるよう助言する。 (30) 必要に応じてクラブ全体の目標や個人の目標を見直す場を設定する。	(17) 異年齢の仲間との活動における、よかったことや課題に気付く。 (18) クラブ活動で身に付けた人間関係を築く力を学級で学校の生活に生かす。
7 発表	(31) 児童の活動の成果を発表する場を設ける。（集会・展示・実演・映像など） (32) クラブ全体の成長を認め、励ます。 (33) 次年度のクラブを選択する際の参考にできるような発表になるように助言する。	(19) 発表の準備や発表を通して、自分たちの成長に気付く。 (20) 発表を見合うことで、互いのよさに気付く。

※クラブ活動の目標：学習指導要領解説内に明記されている目標。クラブの目標：それぞれのクラブで決めた目標。

育つ力	
B 個性を発揮する力	C 自主的・実践的に活動する力
(1) ポスターを作ったり、宣伝方法を考えたりするなど、自分のできることを考えて、発足するために活動する。 (2) 自分の興味、関心を追求できるクラブを選ぶ。 (3) 前年度の経験を生かして、所属するクラブを選ぶ。	(1) 友達と声をかけ合って、自分たちで新しいクラブを作ろうとする。 (2) 設立の条件に合うように、友達を誘ったり他のクラブを選んだりする。
(4) 自分の活躍できる役割を選ぶ。	(3) 必要な役割を考え、提案する。 (4) 前年度の経験を生かして組織作りを行う。 (5) 異年齢の新たな仲間づくりをするためにすすんで声をかける。
(5) クラブの目標達成に向けて、具体的な個人の目標を決める。	(6) 全員で話し合い、クラブの目標を決める。 (7) 個人の目標を達成するために、毎時間のめあてを具体的に決める。
(6) アイディアを出し合って、活動計画を作る。 (7) 自分の思いを大切に、考えを伝える。 (8) より楽しく豊かになる方法を考える。	(8) みんなで話し合ってすべての希望が入るような計画を立てる。 (9) 計画委員会をすすんで行き、次の活動の見通しをもつ。 (10) 計画したことを、みんなに知らせる。
(9) 自分の役割を果たす。 (10) 自分のよさや得意なことを生かして活動する。 (11) 学級では見られない個性を発揮する。	(11) 一時間の流れを理解し、すすんで活動する。 (12) 個人の目標に向かってすすんで活動する。
(12) 活動を振り返り、自分のよさや可能性に気付く。	(13) 次の活動への期待をもつ。 (14) よかったことと課題に気付く。 (15) 課題の解決方法について話し合い、解決(16)
(13) 自分の成長に気付く。 (14) 活動を振り返り、個人の目標を見直す。	(16) クラブ全体の成長と課題に気付く。 (17) 次の学期、次年度への期待をもつ。 (18) 自分たちでクラブを運営する方法が分かる。
(15) アイディアを出し合って発表方法や発表内容を考える。 (16) 他のクラブの発表を見て、次の活動への期待をもつ。 (17) 発表を通して自分の成長に気付く。	(19) 自分たちの発表を多くの人に見てもらうために、すすんで活動する。 (20) 他のクラブの発表を見ることで、自分たちのクラブの活動に生かそうとする。 (21) 自分たちの成果を発表することで、クラブ全体の成長に気付く。

2 クラブ活動計画カード

和風カードクラブの目標や今日のめあてを記入する欄を設け毎時間の活動で意識できるようにした。

【資料③】 活動計画カード

和風カードクラブ 活動計画カード 11回 11月18日(月)③

- ①男女異学年で協力して楽しく仲よく活動するクラブ
- ②真剣に、全員ですすんで取り組み、百人一首が強くなるクラブ
- ③(競技を行う際に)安全に気を付けて取り組むクラブ

今日の活動 穴うめプリント、班で練習、班対こう戦

今日のめあて 他の班の友達と交流を深め、1/9の団体戦に向けて

持ち物 のり、クラブファイル 練習しよう。

時間	活動内容 全員	担当	ポイント (伝えること、気を付けること)
授業前	振り返りカード配り 来た人から出欠確認		来た人からめあてを書いて、班でかくにんする。
14:35	あいさつ 先生から		大きい声で元気よく言う。
5分	今日のめあての確認 自分のめあてを書く		団体戦に向けて最後の練習に 取り組む。
14:40	今日の活動の確認		①穴うめプリント ②読む練習() 5分 ③百人一首練習(班ごと) 10分 ④百人一首班対こう戦 10分 ⑤結果確認 5分
15:10	次回の活動の確認 振り返りカードと よいところ見付け		自分のめあての振り返りを書く。
5分	よいところ見付け発表		4年生を中心に発表する。
5分	先生から		
15:20	あいさつ		大きい声で元気よく言う。

今日のよかったところ

活動内容と役割分担だけでなく、「ポイント」を考えられるよう助言した。ポイントは「今日のめあて」を達成するために意識することなどを、司会グループの児童が計画委員会で話し合った。

パソコンクラブ通信 Vol. 6

令和元年9月18日（水）パソコンクラブ担当

名前	めあて	振り返り
	協力してゲームを作る。	無事ゲームを完成させて、楽しく遊ぶことができました。
	みんなと協力して自分のできることをやり遂げる。	協力して楽しくできた。
	下学年のペアにアドバイスをする。	前よりもアドバイスをできたのでよかったです。
	下学年に「こうすると盛り上がるよ」と声掛けをする。	加藤さんが楽しくぼくたちに教えてくれた。
	グループの友達と教え合い、楽しいゲームを作り上げよう	少しだけ教え合うことができたので、次はもっと教え合いをできるようにしたいです。
	協力して積極的に進めよう	もう少し交流を深めたいと思いました。
	分からない人に教えながらゲームを作る	自分でも分からないところはあったが、いいゲームを作ることができた。
	楽しいゲームを作るように頑張る	楽しいゲームを作ることができた。

みんなの振り返りを見ると、

「ゲームを完成できた喜び」「教えてもらった喜び」「楽しく協力できた」こと等のがんばりが伝わってきます。そして、もっと仲良く活動したいという気持ちや、もっとすごいゲームを作りたいという気持ちも感じます。

特に、すばらしかったのは司会グループの4人！！

さん 3班のリーダーでしたね。めあてのとおり、困っている人がいないかを見て回っていましたね。何回も集まって計画を立て、みんなのことを考えて取り組むことができた成果です。あなたの自信に、これからの力に、意欲に変えていってくださいね。

さん 「こうやって進めたい」という思いをもって取り組むことができましたね。あなたの考えていた活動計画カードの内容はとても素晴らしかったです。次回は、自信をもって堂々と頑張ろう！！

さん 誰よりも、クラブのみんなのことを考え、メッセージカードを交流しようと何度も伝えてくれました。みんながみんなのよさに気付き、伝え合うことができればクラブはもっと楽しくなりますね！！これからも期待しています！！

さん 計画の大変さ、6年生の努力のすごさを感じ取ることができましたね。そして、今回、めあてを決めたり、振り返りを書いたりすることを時間の中で行うことができましたね。

クラブ活動一年間の指導のポイント

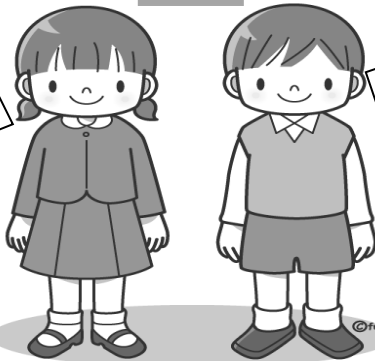
設立

- 友達と協力してクラブを設立しようとする。
- ★クラブ活動の目標や特質をはっきり示す。
- ★児童の希望が活かされる設立、集団決定の方法をとる。
- ★前年度の経験を生かすよう指導する。

発足・所属決定

- 入りたいクラブを、意欲をもって主体的に選ぶとする。
- 自分の興味・関心、特性を考えて所属を決定する。
- ★クラブ活動の目標や特質をはっきり示す。
- ★迷っている児童、所属希望のかなわない児童へ、個別指導をする。
- ★児童の希望をできる限り優先する。

新しいクラブを、
作ってみたいな。



どのクラブに入ろうかな。



クラブ設立に向けて

体験(3年生)



クラブ発表コーナー

発表

- 成果を発表し、自信をもつ。
- 互いの努力・成長を認め合う。
- 次年度への期待をもつ。
- ★児童の活動の成果を発表する場を設定する。
- ★クラブ全体の成長を認め、励ます。



クラブ発表会

毎時間の活動(前半)

○児童の活動
★指導のポイント

<活動>

- 同好の仲間と仲よく活動できる。
- 全体やグループの目標をもとに、協力して活動する。
- ★みんなで作った目標が意識できるようにする。
- ★個人の役割を明確にする。
- ★異年齢小グループでの活動を促す。

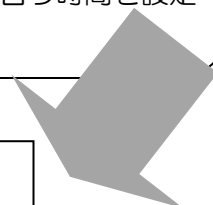
<振り返り>

- 活動を振り返り、成果や課題に気付く。
- ★終末の助言を具体的にする。
- ★クラブの目標や個人のめあてについて振り返るよう指導する。
- ★互いのよさに気付くことができるようにする。



活動の見直し

- 成果や課題を次の活動に生かそうとする。
- ★成果や課題に気付くことができるようにする。
- ★目標を見直したり、新たな目標や活動を考えることができるようにする。
- ★活動内容やグループ編成について話し合う時間を設定する。



振り返り

- 活動を振り返り、成果や課題に気付く。
- 単元終了時や学期の終わりに自分の成長や仲間の成長に気付く。
- ★クラブ全体の目標や個人のめあてを意識できるようにする。
- ★自分のよさや可能性に気付くことができるようにする。
- ★課題を解決しながら、活動が積み重なるようにする。

活動(後半)

- 計画委員会で決めた本時のめあてを意識して自分のめあてを決める。
- 活動計画に沿って自分にできることを考えながら活動する。
- 上級生をサポートし下級生を助けながら活動する。
- ★児童が目標やめあてを意識して活動しているかどうか見取る。
- ★自分のよさを生かしながら活動できるよう助言する。

5 クラブ設立から所属決定までの指導のポイント

クラブ設立から所属決定 までの指導のポイント

この指と～まれ！

設立説明集会

3・4・5年生を集め、クラブ活動の目的、クラブ設立の条件を伝え、所属決定までの日程を示す。

条件例

- ・3つの学年が必ずそろそろ
- ・各学年3名以上になる
- ・全体の児童数が10名以上になる

★学校の実態に合わせて条件を設定する。

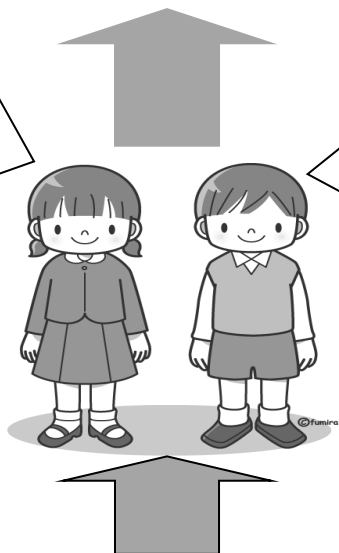
設立まで

- ① 発起人届け出
3学年がそろって発起人になり届け出を出す。
- ② 宣伝活動
ポスター、給食・休み時間での声かけなどの宣伝をする。
- ③ 所属希望調査
所属したいクラブの希望をとり、一覧表に記入し、全校児童が見られる場所に掲示する。
- ④ 結果の掲示

前年度までに

毎時間の

新しいクラブを、
作ってみたいな。



どのクラブに入ろうかな。



クラブ見学・発表

各クラブの活動を見学することによって、次年度の所属の参考にする。

★児童の活動の成果を発表する場を設定する。

★指導のポイント

発起人が書いたポスターを見て、所属したいクラブを考えている様子

調整・所属決定まで

- 再度、3・4・5年生を集め、調整集会を開く。人数調整を行い、来年度のクラブの所属を決定する。
- ★クラブ活動の目標や特質をはっきり示す。
- ★迷っている児童、所属希望のかなわない児童へ、個別指導をする。
- ★児童の希望をできる限り優先させながら人数調整を行い、所属決定をする。
- ★来年度に向けたクラブへの期待をもつことができるようにする。



発起人が調整集会で仲間を募っている様子

行うこと

新年度

実践



教員へのオリエンテーション

全教員が共通理解のもとクラブ活動を行えるよう目標や特質を伝え、クラブ担当教員を決める。

- ★第1回のクラブ活動では、組織づくり、目標づくり、活動計画づくりを行うことを共通理解する。
- ★活動計画表を作成することで、児童が見通しをもった活動ができるようにする。
- ★個人カードを活用するなど、教員間で情報を共有するなど、児童理解を深める方法を共通理解する。



第1回の活動

毎時間の 実践

- 組織づくり
- クラブの目標づくり
- 活動計画づくり

IV 成果と課題

本研究部では、全体主題「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」を受け、主題を「共通の興味・関心を追求し、自分のよさや可能性を伸ばすクラブ活動」と設定し、研究の視点を「(1) 一人一人の思いを大切にした指導の工夫」「(2) 自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫」と設定し、研究を進めてきた。

1 成果

(1) 一人一人の思いを大切にした指導の工夫

- ・児童が納得して設立や所属決定ができるよう教師間の共通理解を図り、適宜助言した。児童は、自分の思いや願いが生かされたクラブに所属することで、年間を通して意欲を高め、積極的に活動する姿が見られた。
- ・年度当初の実態把握に加え、児童の変容を見取る手だてとして、短作文、毎回の振り返り、学期ごとのアンケート等を分析した。1年間の活動の流れの中で、その資料をもとに指導・助言することで、児童が自分達の思いを生かしながら生き生きと活動する姿が見られた。

(2) 自他のよさや可能性に気付くことができる指導の工夫

- ・クラブ全体の目標や計画委員会で決まった全体のめあてを達成するために、一人一人がより具体的な毎時間のめあてを決められるよう指導した。また、めあてを可視化して共有できるようにすることで、自他のめあてを意識して活動し振り返るようになり、自分の努力やよさに気付き、次の活動に自分の力を発揮していくようになった。
- ・クラブ活動通信を発行したり、活動の振り返りが充実したりすることで、活動内で気付くことのできた仲間のよさを共有することができ、自他のよさや可能性に気付くことができた。

2 課題

- ・異年齢集団活動を通してよりよい人間関係を更に深めながら、クラブ活動における『自己実現』のあり方を追究し、研究を深めていくこと。
- ・学習指導要領の「目指す資質・能力」に沿って、指導の手だてや評価規準を見直し、指導の充実や、指導と評価の一体化を図っていくこと。

研究に携わった人			
部長	高橋 信行	足立 千寿第八小	遠藤 裕美子 世田谷 尾山台小
副部長	中本 健太郎	江戸川 第四葛西小	香取 浩子 江戸川 第四葛西小
〃	加藤 葉子	江戸川 上小岩小	濱淵 雅子 目黒 鷹番小
〃	島田 泰子	墨田 曳舟小	秋元 麻美 葛飾 金町小
会計	山口 哲郎	葛飾 本田小	高良 朝佳 荒川 第六日暮里小
	矢部 聡	世田谷 尾山台小	中嶋 里子 江戸川 上小岩小
	梶井 綾	目黒 八雲小	関田 裕子 世田谷 松原小
	大月 香織	足立 古千谷小	岡田 盛雄 江戸川 平井南小
	山下 映実	墨田 両国小	木崎 清子 江戸川 本一色小
			松尾 大介 江戸川 南葛西第二小

IV 学 校 行 事

学校行事部 研究主題

「仲間と共に自己のよさや可能性を広げ生かす学校行事」

I 本年度の研究について

- 1 学校行事における自己実現について・・・70
- 2 研究主題設定の理由・・・71
- 3 研究仮説・・・71
- 4 研究の視点・・・71
- 5 研究構想図・・・72

II 実践事例

- 〈実践事例1〉「学習発表会 事前指導」(1年生)・・・73
研究授業 学級活動 (3) ア
「みんなで かがやけ！一，二，三！」
多摩市立多摩第二小学校 榎本 誠太 教諭
- 〈実践事例2〉「連合音楽会 事前指導」(5年生)・・・76
研究授業 学級活動 (3) ア
「1，2，3 GO！目指せ 最光学年！」
江東区立有明西学園 山内 佳奈 主任教諭
- 〈実践事例3〉「学習発表会 事後指導」(4年生)・・・79
研究授業 学級活動 (3) ア
「ぼうけんの旅を続けよう」
板橋区立北前野小学校 久原 千恵 教諭

III 学校行事における自己実現につながる指導過程の実際 ～実践事例を通して～

- 1 活動の一連の流れについて・・・82
- 2 事前指導の流れ・・・83
- 3 活動中の流れ・・・84
- 4 事後指導の流れ・・・86
- 5 カードの活用の仕方・・・87

IV 研究の成果と今後の課題・・・88

研究の経過

令和元年	5月16日(木)	定期総会 分科会 本年度の研究方針の決定
	8月2日(金)	拡大研究会
	10月25日(木)	研究授業(実践事例1)「学習発表会 事前指導」 授業者：多摩市立多摩第二小学校 榎本 誠太 教諭 講師 元都小特活学校行事部長 齋藤 厚代 先生
	11月1日(金)	研究授業(実践事例2)「連合音楽会 事前指導」 授業者：江東区立有明西学園 山内 佳奈 主任教諭 講師 元都小特活会長 棚田 政治 先生
	11月21日(木)	研究授業(実践事例3)「学習発表会 事後指導」 授業者：板橋区立北前野小学校 久原 千恵 教諭 講師 元都小特活研究部長 佐野 匡 先生
令和元年12月～令和2年2月		研究のまとめ 研究発表大会準備
令和2年	2月14日(金)	研究発表大会

このほか、学校行事部会、事前研究会、原稿検討会を随時開催した。

I 本年度の研究について

1 学校行事における自己実現について

『なりたい自分になる』ために「がんばる力」

自分を知る → なりたい自分を見つける → なり方を知り取り組む
 (自己の理解を深め) (自己のよさや可能性を生かし) (自己の在り方や生き方を考え設計し実践)

	学校行事における「自己実現」 「自己実現」の具体的な児童の姿	「自己実現」に必要な資質・能力 (学校行事で育つ20の力を参考に)	学校行事を通して、 どのように課題を 解決させるか
事前	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさと課題に気付く。 自分のよさを実感する。 なりたい自分になるための方法を知る。 自分のよさを集団に生かそうとする。 自分や友達のよさに気付く。 行事成功に向け、自分のがんばることが具体的に分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさに気付く力 自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさに気付かせる手立て (写真・振り返り) やってみたいと思わせる導入 行事のイメージをもたせる手立て
活動中	<ul style="list-style-type: none"> 自らのめあてを決め仲間と共に取り組んでいる。 所属感や連帯感をもちながら、1つの目標に向かって取り組んでいる。 同じ役割の友達とよりよくするために話し合ったり助け合ったりする。 友達を助けることに喜びを感じている。 自分にできること(役割)を通して、集団に貢献している。 やりたいことをできる場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力 認め合う力 見通しをもつ力 役割を遂行する力 	<ul style="list-style-type: none"> 可視化 (掲示など) 行事の中で自分にできることが分かり、行動することができる。
事後	<p>【自分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の高まり めあてを達成できた。 今までの自分とちがう、変わったことが分かる。 自分が頑張れたことや成長をよるこぶすることができる。 <p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事前よりも自分のことが好きになっている。 友達との関わりが深まっている。 努力したことをみとめてもらえる。 学校行事の達成感を味わうことができる。 <p>【次に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のめあて等について達成感をもち、さらに次のめあてについて考えている。 将来の自分につなげる。 新たな課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 充実感、達成感を味わう力 次に生かそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> 成長を感じさせる手立て

めあてをもつ

実践する

振り返る

学校行事の一連の活動を通して、自己実現を目指していく！

2 研究主題設定の理由

学校行事において自己実現を目指すためには、まず、今の自分を理解することが大切である。そして学級や学年、学校という集団の中で、今の自分にできることを考え、めあてをもち行事に取り組んでいく。活動の中で、自分の役割を果たしたり、よさを見つけ合ったりする中で、新たな自分に気づき、それにより新たな可能性を見出すことができる。また、やってよかったという達成感や充実感を味わうことで、またやってみたい、次の新しいことにも挑戦したいという自信や希望がもてるようになる。

学校行事は、みんなで力を合わせ、個人の力も集団の力もより高め、自分の成長を実感できる場が多くある。これまでの研究で取り組んできた、行事と行事をつなぎ、身につけた力を次の活動へとつなげていく過程を生かし、経験を積み重ねていくことで、さらに自己実現という将来にわたっての生き方につなげていくことができると考えた。

3 研究仮説

児童が学級、学年、学校といった集団の中で、自分のできることを考え、めあてをもち、仲間と共に行事に取り組んでいくことで、自分のよさや役割の意義に気づき、さらに自分の可能性を広げ生かそうとするようになるだろう。

4 研究の視点

研究主題に迫るために、以下のような3つの視点を設定し、研究を進めていくこととした。

視点① 行事のつながりの中で、自分のよさや可能性を広げる指導の工夫

- ・ 児童の活動意欲を高める事前指導
- ・ メッセージビデオの活用
- ・ 自己のよさを生かそうとする事後指導

視点② 自己理解を通して、自己実現につながる活動の工夫

- ・ 振り返りカードの活用
- ・ 練習を振り返るスライドショーの作成

視点③ 仲間とともに、行事を創り上げる環境づくり

- ・ 友達のよさを伝え、アドバイスし合う
- ・ 意欲が高まる掲示の工夫

5 研究構想図

<p>今日的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測困難な時代となる未来の社会を切り拓くための資質・能力の育成 ・将来に向けて希望や目標をもち、自分らしい生き方を実現していく力の育成 ・集団や社会の形成者としての見方・考え方の育成 	<p>目指す児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達のよさを認め合える児童（人間関係形成） ・自分の役割の意義に気付き、仲間と共に活動する児童（社会参画） ・自分のよさに気付き、さらに自分の可能性を広げ生かそうとする児童（自己実現） 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番活動では役に立つ喜びを感じている。一方で自発的・自主的な活動には教師の働きかけが必要な場合が多い。 ・学校行事を楽しみにしている児童が多い。 ・少子化、SNSの普及などで、直接的なコミュニケーションが不足しがちである。 ・将来の夢や希望が描けない児童が見られる。
<p>研究主題 「仲間と共に、自己のよさや可能性を広げ生かす学校行事」</p>		
<p>研究仮説 児童が学級、学年、学校といった集団の中で、自分のできることを考え、めあてをもち、仲間と共に行事に取り組んでいくことで、自分のよさや役割の意義に気付き、さらに自分の可能性を広げ生かそうとするようになるだろう。</p>		
<p>研究の視点と指導の手立て</p>		
<p>視点1 行事のつながりの中で、自分のよさや可能性を広げる指導の工夫</p>	<p>視点2 自己理解を通して、自己実現につなげる活動の工夫</p>	
<p>【児童の意欲を高める事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を発足する。 ・これまでに経験した行事を振り返る。 ・日程や目的を確認し見通しをもつようにする。 ・スローガンを作る。 ・係活動ができるようにする。 ・個人目標を立てる <p>【スライドショーなどの資料提示の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオで、かかわりの深い学年の児童や先生から応援メッセージをもらう。 ・活動の様子を振り返ったり、共有したりできるように、スライドショーを作成する。 <p>【自己のよさを生かそうとする事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長を振り返りカードに書き、掲示する。 ・他の学年からの評価を知らせる。 ・自分たちや仲間のよさを共有する。 ・次の行事の見通しと個人目標を立てる。 	<p>【めあてカード・振り返りカードの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の活動（練習や準備）は、毎時間めあてを設定し、事後に振り返り、カードに記録する。（低学年は、選ぶ・色を塗る、など） <p>【振り返りの場の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を記録したスライドショーを見合い、成長や課題に気付けるようにする。 ・他の学年とメッセージ交換を行い、互いのよさを実感できるようにする。 <p>視点3 仲間とともに、行事を創り上げる環境づくり</p> <p>【友達のよさを伝える時間の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の活動（練習や準備）の初めや終わりに、互いのよさを認め伝え合う時間を設定する。 <p>【教室掲示・学年掲示板の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年のめあてやスローガン、カレンダー、実行委員や係の連絡掲示板、個人のめあて・振り返りカードなどを掲示できるコーナーを作り、見通しをもたせながら、意欲を高められるようにする。 	
<p>よりよい学校行事を展開していくための手立て</p>		
<p>(1) 年度初めに年間の学校行事の見通しをもち、学年の方針（目標）と実行委員を決める。</p> <p>(2) 学年・学級の掲示コーナーをつくる。</p> <p>(3) 行事の実行委員と計画委員会を。</p> <p>(4) 行事のスローガンを作る。</p> <p>(5) 行事の事前指導を行う。（意欲を高め、見通しをもち、個人の目標を立てる。）</p>	<p>(6) 活動ごとにめあてを立て、振り返りを行う。</p> <p>(7) 活動の様子を映像や写真で提示し、そのときのことを思いだしながら振り返りができるようにする。</p> <p>(8) 児童の願いが達成できるように行事を実施する。</p> <p>(9) 行事の事後指導を行う。（成長や課題を振り返り、次の行事への期待と見通しをもつ。）</p> <p>(10) カードを掲示し、自他の成長やよさを認め合う。</p>	

II 実践事例

〈実践事例1〉「学習発表会 事前指導」(第1学年)

学級活動(3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成
多摩市立多摩第二小学校 榎本誠太

1 題材名 「みんなで かがやけ! 一、二、三!」

2 題材設定の理由

(1)児童の実態から

本学級は、明るく、何事にも意欲的に取り組む児童が多い。入学後から学校生活におけるルールはしっかりと守り、逸脱した行動をとることも少ない。また、給食や掃除、その他の当番活動においても、責任をもち、一生懸命に取り組むほか、教室内が汚れていると進んで掃除をしたり、整理整頓をしたりする児童もあり、学級の中でみんなのために行動をし、役に立つ喜びを感じている児童が多い。しかし、その一方で、教師からの称賛を喜んではいるものの、子ども同士でよさや頑張りを見つけられる児童は少ない。帰りの会では、「今日よかったこと」と題し、1日を振り返りよかったことを発表する場を設けていた。1学期の前半は自己の思い出を発表していたが、1学期の後半になると、友達の頑張りを見つけた発表がたまにあがるようになってきた。初めの頃は自分にしか目を向けられなかったものの、少しずつ友達へ意識を向けられるようになってきた。

そこで、2学期からは隣の人の健康観察をしたり、今日の頑張りを見つけたりし、交流を図るようにし、隣に座っている友達について関心をがもてるようにした。帰りの会では「今日よかったこと」を「ほめほめタイム」に切り替え、隣に座っている友達を褒める時間を設定した。褒める相手を狭めることで、よさや頑なりに気付きやすくした。また、「お隣さん以外で輝いていた人」を発表する場も設定した。

このように、日常的に友達のよさを見つけていくことで、友達同士で認め合い、望ましい人間関係を築き、集団生活をより豊かにしていけるよう、本題材を設定した。

(2)学習発表会の特質から

本校の学習発表会は、日々の学習の成果を発表する場であり、群読劇や音楽発表、調べ学習の発表等、発表の形態は様々である。本学年では、「くじらぐも(光村図書_下)」を題材とした音楽劇に取り組んでいる。児童は一人一言のセリフと、鍵盤ハーモニカを中心とした合奏を行う。また、それ以外にも効果音やダンス隊などの役を一人ずつ担っている。

運動会とは異なり、個々人に役割が明確に分けられている。めあてをもって練習に取り組み、練習を重ねる中で自己の役割に責任をもち、本番に臨めるようにしていきたい。また、それらを頑張っている友達の存在に気付き、友達のよさを見つけ、友だちを応援しようとする気持ちを高めていきたい。

3 指導計画

日程	活動内容
10月1日(火)	学習発表会について知ろう(オリエンテーション)
10月7日(月)~15日(火)	役決め、担当楽器決め
10月15日(火)~31日(金)	学習発表会時程、体育館練習開始


10月25日(金)	学級活動(3)「みんなでかがやけ、一、二、三！」(事前指導)(本時)
11月1日(金)	学習発表会本番(児童鑑賞日)
11月2日(土)	学習発表会本番(保護者鑑賞日)
11月5日(火)	学習発表会を振り返ろう(事後指導)


4 本時の活動と実際

(1) ねらい

- ・これまでの練習を振り返り、できるようになった事を実感するとともに、本番までの個人目標を意思決定することができる。
- ・自分や友達のおよさや可能性に気づき、本番までの意欲を高めることができる。

(2) 本時の展開


	学習活動	○指導上の留意点 ★評価
つかむ	<p>1 学習発表会までの残り日数を知る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>みんなが かがやくはっぴょうをするために、のこりの1しゅうかんの もくひょうを かんがえよう。</p> </div>	<p>○視覚的にイメージしやすいように本番までの日程を棒状の図に表す。大型テレビで確認した後は、いつでも確認できるように、同様の内容を黒板に掲示しておく。</p>
さぐる	<p>3 これまでの活動をビデオで振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で内容を決めている場面 ・朝の会の練習タイム ・場面練習 ・学年練習 </div>	<p>○全体の写真のみではなく、かかわり合っている場面をなるべく抜き出し、この行事は「友達と(みんなと)創ってきた」と感じられるようにする。</p>
見つける	<p>4 これまでの練習を通して隣の席に座っている友達が輝いていたこと(頑張ってきたこと、上手にできていること)を伝え合い、ほめられたことを忘れないようにカードに記入する。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>〇〇君、ピンと立っていて姿勢がいいね。</p> </div>  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>〇〇ちゃんは、気持ちよこめて言えて、上手だね。</p> </div> </div>	<p>○伝える内容を考える時間を十分に与える。</p> <p>○アドバイスが難しい児童には、アドバイスの視点を話型で例示しておく。(「～を頑張っていて練習していたね。」「～がとってもじょうずだね。」)</p>
決める	<p>5 自分にあった本番までの個人目標の意思決定をし、カードに記入する。</p>	<p>○なりたい自分になるために、自分にあった具体的な個人目標を決め、実行への強い決意をもてるようにする。</p> <p>○特別な支援を要する児童には、話型を提示し、</p>

<p>決める</p>	 <p>木琴をリズムよく演奏する。</p> <p>視線を上げて、もっと姿勢よくする。</p>	<p>目標を定めやすくする。</p> <p>★自分のよさや可能性を生かしながら、自分に合った行動目標を立てている。</p> <p>【思考・判断・表現】(ワークシート)</p> <p>○入学してからお世話になっている大好きな6年生から応援をしてもらい、期待を感じるとともに、励みとなるようにする。</p> <p>○本番までの期待を高め、残り1週間の意欲を高められるようにする。</p>
	<p>6 6年生からの応援メッセージビデオを見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に期待する姿 ・「くじらぐも」で好きな場面 	
	<p>7 「青い空にえをかこう」を歌う。</p>	

5 児童の変容

(1) 本学校行事を通しての児童の変容

自分事ばかりで、友達の頑張りにあまり興味を示せなかったり、進んでかかわり合うことが少なかったりした。



一緒に練習しようよ。

友達同士で声をかけ合って練習し合ったり、アドバイスを送り合ったりするようになった。



まっすぐ立っててかっこよかったよ。

声が遠くまでよく聞こえていたよ。

友達の頑張りに目を向け、見付け、伝えられるようになった。

(2) その後の学校生活の様子

進んで友達のよさを見付けるようになった。

図工の鑑賞の際は、作品を細かく見るようになっただけでなく、「もっと多くの友達のよさを書きたい!」と、ワークシートの2枚目を希望する児童が多くいた。また、道徳「みんなじょうず(光村図書)」では、日常的に見られる友達のよさをたくさん見付け、積極的に伝え合う姿が見られた。

また、教室内で困っている友達を見付けたり、人手が必要な場面では誰とでも協力し合ったりする姿が頻繁に見られるようになった。



〈実践事例2〉「連合音楽会 事前指導」(第5学年)

学級活動(3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成

江東区立有明西学園 山内 佳奈

1 題材名「1, 2, 3 GO!! 目指せ 最光学年!」

2 題材設定の理由

(1) 児童の様子

本校は昨年度新設された小中一貫校であり、小学生と中学生が同じ校舎で学校生活を送っている。行事や縦割り班活動も一緒に活動している。

本学年は、積極的に様々な学習や活動に取り組む児童が多い。昨年度から行事ごとにプロジェクトチームを作り活動してきたことで、今年度になってから学級や学年だけでなく、委員会活動や縦割り班活動などでも主体的に取り組む姿やより良くしようと工夫する姿が多くの子に見られるようになった。その一方で、企画したことを計画的に進ませることができなかつたり、人任せにしたりするといった課題があった。プロジェクトチームという形を生かしきれなかつたことで、活動が一部の児童に偏ってしまい、児童の行事に対する気持ちにも温度差も感じた。そこで、林間学校では、プロジェクトチームで話し合い、決定した係活動を全員で分担することで、役割が明確になり責任をもってそれぞれの活動に取り組む姿が見られた。また、各学級において帰りの会でやっている「グッドさん」では、今まで以上にお互いの頑張りを認められるようになってきた。学級の中で見つけられるようになってきた友達のよさを学年全体で見つけ、お互いを認め合いながら、友達とのつながりの中で活動を成功させてきたという気持ちを更にもたせたいと考えた。

(2) 連合音楽会の特質から

江東区で行われている行事であり、地区ごとに隔年で行われ、2年に1度各校一学年が参加することになっている。特に決まりはないが、ほとんどの学校は5学年が参加しており、昨年度開校した本校は、今年度が初めての参加となる。

連合音楽会の二週間前には、全校児童・生徒が日々の学習の成果を発表したFestival(文化的行事)があり、5年生は連合音楽会で発表する合唱曲「小さな勇気」と合奏曲「剣の舞」をメインとした舞台発表を行った。学年で決めた舞台のテーマをもとに、係を分担し、一人一人が演者、脚本、照明などの役を担って行ったことで多くの児童が自分たちの力でやり遂げたという達成感を得ることができた。Festivalやそれまでの練習を振り返り、互いの成長を認め合うことで、新たな自分を発見できるようにしたい。また、学校の代表として校外に出て活動する行事に向けて、協力して成功させようとする意欲を高めながら、個人のめあてをもてるよう指導していきたい。

3 指導計画

日程	活動内容
9月中	合唱・合奏曲 伴奏 楽器オーディション決定
9月30日(月)	学年集会 Festivalについて知ろう(事前指導)
10月2日(水)～4日(金)	係決め
10月7日(月)	係活動①
10月8日(火)～24日(木)	Festival時程、体育館練習開始
10月16日(水)	係活動②

10月18日（金）	学年集会 ラストスパート1週間（事前指導）
10月25日（金）	Festival 本番（児童鑑賞日）
10月26日（土）	Festival 本番（保護者鑑賞日）
10月29日（火）	Festival 個人の振り返り・連合音楽会事前アンケート
11月1日（金）	Festival を振り返り・事後指導（本時）
11月5日（火）～11月12日（木）	各パートの練習・個人の振り返り
11月13日（金）午前	連合音楽会
11月13日（金）午後	学年の振り返り・事後指導

4 本時の活動と実際

(1)ねらい

- ・Festival やそれまでの練習を振り返り、互いの成長を認め合い、新たな自分を発見する。
- ・連合音楽会に向け、協力して成功させようとする意欲を高め、自分のめあてをもつ。

(2)本時の展開

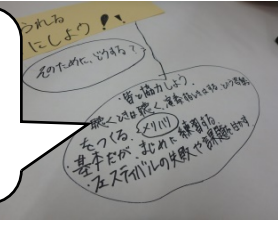
学習活動	○指導上の留意点 ★評価
<p>1 これまでの活動をスライドショーで振り返る。</p> <p>・Festival でもらった6年生・4年生からメッセージや練習や準備の場面</p>	<p>○5年生の活躍の場面を集めたスライドショーにする。</p>
<p>2 ペアで互いの頑張りを伝え合う。</p> <p>Festival での自分たちの頑張りを振り返り、連合音楽会に向けて自分の力を高めよう！</p>	<p>○昨年発表した6年生と来年発表する4年生からのメッセージを伝えることで、他の学年が認めてくれていることがわかるようにする。</p> <p>○互いの成長や頑張りを伝え合う。</p> <p>★新しい自分のよさに気がついたか。</p>
<p>3 5年生として取り組んできた行事について振り返る。</p>	<p>○〇〇さんに見つけてもらって、今まで知らなかった自分の良いところを知ることができたよ。</p> <p>○掲示してある1人1人の目標を見せることで視覚的に確認できるようにする。</p> <p>○グループの人数は、A・B組を混ぜたメンバーで、5人一組とする。</p> <p>○個人の振り返りをもとに交流できるようにする。</p>



他の学年から褒めてもらえるってうれしいね。



〇〇さんに見つけてもらって、今まで知らなかった自分の良いところを知ることができたよ。

<p>聴くときと演奏するときの姿勢、どちらも大切にしたいね。</p>  <p>4 振り返りに書いてあったことから、思いが一緒のグループごとに集まり交流する。</p> <p>5 友達と交流したことを踏まえ、連合音楽会までの具体的な行動目標をめあてカードに書く。</p>	<p>○模造紙は授業後、学年の掲示板に貼り、可視化をはかる。</p> <p>★連合音楽会に向けて、自分のめあてを具体的に考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】(カード)</p>
--	--

5 児童の変容

(1) 本学校行事を通しての児童の変容

活動が一部の児童に偏ってしまい、行事に対する思いに温度差があった。

友達のよさに目を向けたり、一緒に活動に取り組んだりする意識が少ない児童が多かった。



○日までに終わらせるために、明日も休み時間集まろうね。

一人一人の役割が明確になり、自主的に活動できるようになった。



昨日より声そろっていたよね。

今日は友達の頑張りたくさん見つけたよ!

学年全体で友達の頑張りを見付け、認め合いながら協力して活動に取り組めるようになった。

(2) その後の学校生活での様子

学年全員が同じ目標に向かって取り組むことで、全体の力を高めていきたいと考える児童が増えた。

ひとりひとりの意識が変化し、集会や朝会、また普段の授業でも話を聞く姿勢や自分事として参加する態度が育ってきた。

子どもからの提案で「学年の仲をさらに深める」ことを目的とした学年集会を行った。クラスごとに学級会で決めた内容で、全員が役割をもち、準備して行った。振り返りでは、それぞれの係の頑張りや互いに労い、自分たちの学年としての今の課題を見つけたり、「遊ぶ」こと以外で仲を深める内容を模索したりと、次につなげていこうとする姿が見られ



〈実践事例3〉「学習発表会 事後指導」(第3学年)

学級活動(3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成 板橋区立北前野小学校 久原 千恵

1 題材名「ぼうけんの旅を続けよう」

2 題材設定の理由

(1) 児童の様子から

本学年は個性豊かで素直な児童が多い。年度当初は消極的だった児童も、当番・係活動や学級会やクラス集会などの活動を通して活発になってきている。また、学年全体として、授業に集中し、自分の意見や考え・思いを発表する児童が多くなってきている。しかし、課題に対して前向きに取り組もうとする児童が増えてきている一方、依然として学習用具や宿題を忘れる児童も少なくない。また、学習の定着が一斉指導では難しく、個別に支援を要する児童も数名いる。

今年度は年度始めに4年生で行事の実行委員会を作り、一人一役の体制で活躍してきた。また、本校では3、4学年で遠足や運動会などの行事を行うため、4年生と3年生は一年間を通しての二人一組のペアとなり、共に活動してきた。4年生はペアの児童に教えたり、リードしてあげたりすることで、上級生としての自覚と責任感も生まれた。また、実行委員を中心に計画を立て、司会を務めることで、自分たちの力が行事の成功につながっているという気持ちももてるようになってきた。

(2) 学習発表会の特質から

文化的行事は、友達と協力してひとつの作品を創り上げることの喜びや楽しさを味わい、学校生活をより豊かにできる行事である。

3 指導計画

日程	活動内容
10月中旬	北前野発表会について知ろう(事前指導) 役決め、スローガン決め、北前野発表会がんばりカードに記入 台本読み合わせ
10月下旬	各チームで衣装打ち合わせ 各チームで立ち位置、セリフ打ち合わせ
10月28日(月)～	各チーム、または全体で練習開始
11月5日(火)～8日(金)	衣装、大道具作り(実行委員、係)
11月11日(月)～13日(水)	全通し
11月14日(木)	北前野発表会(リハーサル)
11月15日(金)	北前野発表会本番(児童鑑賞日)
11月16日(土)	北前野発表会本番(保護者鑑賞日)
11月21日(木)	北前野原発表会を振り返ろう(事後指導)【本時】
11月25日(月)～11月29日(金)	ガンバチャレンジ週間

4 本時の活動と実際

(1) ねらい

- ・一人一人が自分や仲間の良さを知る。
- ・仲間と共に作品を作り上げることで協力することの大切さに気づき、互いに認め合うことのすばらしさを感じる。

(2) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ★評価
	1 これまでの活動を振り返る。 ・スライドショー ・3年生からのメッセージ 2 北前野発表会を通して自分の目標がどのように達成できたのかを隣同士で伝え合う。 3 北前野発表会でついた力を確認する。 『協力』『責任』『思いやり』 4 本時のめあてを確認する。	○これまでの取り組みを振り返ったり、メッセージをもらうことで充実感を味わったりする。 ○相手の頑張りを聞いたら、認め合えるような言葉をかけるよう促す。 ○終わった後に、実行委員のかけ声で、認め合えるような言葉をかけるよう促す。 ○キーワードにつながるような具体的な姿を映像や振り返りカードとともに伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ◎ぼうけんの旅を続けよう。 </div>		
	5 北前野発表会でついた自分の良さを活用し、これからの学校生活に生かしていきたいことを付箋に書き、グループで出し合う。 6 交流したことを踏まえ、日々の具体的なめあてを決める。【ガンバチャレンジ】	○グループは1, 2組を混ぜたメンバーで5人一組とする。 ○グループ活動の様子を見守りながら、共有させたい意見を選ぶ。 ★自分や友達のよさを見付け、認め合おうとしている。 【関心・意欲・態度】(観察) ★自分のよさや可能性を生かし、自分に合った個人目標を立てている。 【思考・判断・表現】(ワークシート)

5 児童の変容

(1) 本学校行事を通しての児童の変容

行事に対する気持ちが個々に終わってしまっていて、仲間と共に協力して作り上げようとする気持ちが薄かった。また、子どもたちの中でリーダーを作り、自分たちが中心となって進めていくことが難しかった。

今日の歌は今までの練習の中で一番、みんなで声が出せていました。



実行委員を中心として、計画を立てたり、振り返りをしたりして、次の練習ではどんなことを目標にして取り組んでいけばいいのかを全員で考えることができるようになった。



友達の振り返りカードに、「良かったところや頑張っているところをコメントで書いてあげてもいいですか。」など、進んで友達のよさを見つけようとする姿が見られるようになった。

(2) その後の学校生活での様子

協力することや友達を思いやる力が身についた。

日々の学校生活の中でも、「北前野発表会で『協力』って言っていたから、みんなで少しずつ食べて給食を完成させよう。」という声が上がった。また、給食の牛乳をこぼしたときには手伝ってあげるなど、困っている友達がいるとすぐに助けてあげようとする思いやりの気持ちが育っている。

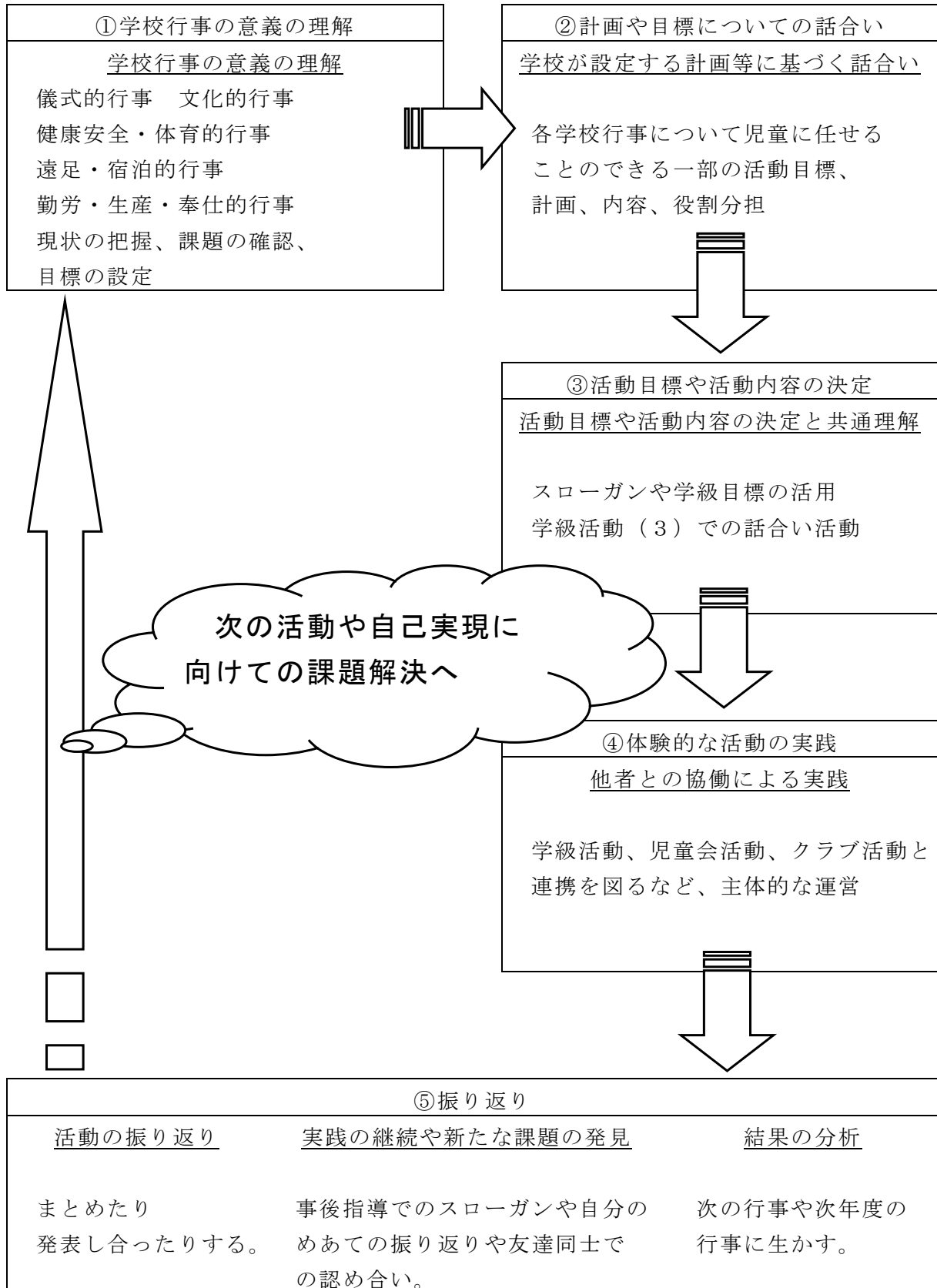
北前野発表会后に6日間の『ガンバチャレンジ』を行うために目標を書いたが多くの子どもたちが、『助けてあげたい。』『教えてあげたい。』など友達を思いやる行動目標を決めていた。



Ⅲ 学校行事における自己実現につながる指導過程の実際

～実践事例を通して～

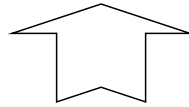
1 活動の一連の流れについて（「小学校学習指導要領解説」参照）



2 事前指導の流れ（3年生展覧会での実践より）

学校行事における「自己実現」の具体的な児童の姿

- ・自分のよさと課題に気付く。
- ・自分のよさを実感する。
- ・なりたい自分になるための方法を知る。
- ・自分のよさを集団に生かそうとする。
- ・自分や友達のよさに気付く。
- ・行事成功に向けて、自分のがんばることが具体的に分かる。



① 学校行事の意義と理解



展覧会に向けて今まで頑張ってきた自分たちの活動や他学年の作品を見ながら、展覧会成功への意欲を高める。

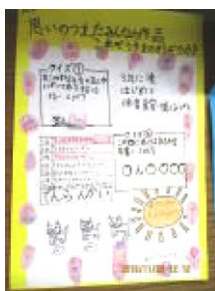
他学年からのメッセージから、3年生への期待や学校全体で頑張っていることを確認する。



6年生より

事前指導の導入では、学校行事の意義を理解し、自己理解を深め、自己のよさや可能性を伸ばそうとする意欲を高められるような手立てをとることが大切である。スライドショーや他学年からのメッセージ、アンケート結果の活用などが有効である。

② 計画や目標についての話し合い



自分たちが

てんらん会第2会場
を作ろうよ！

てんらん会ぽっかぽか大作せん！

手作り招待状を
作ろう！

たくさん感想を
伝えよう！

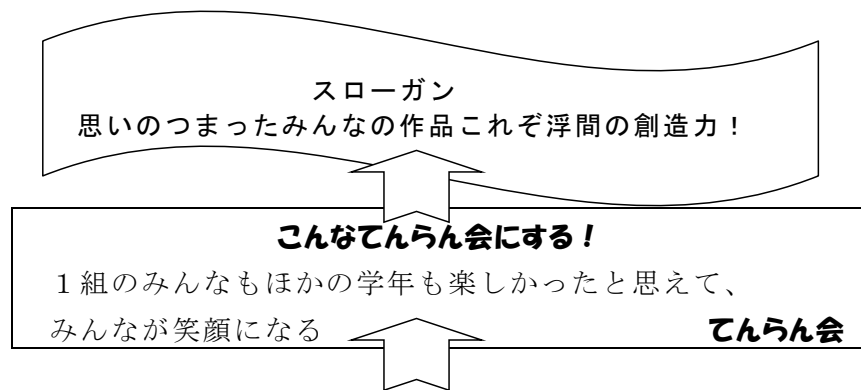
お家の方が

ほかの学年が



スローガンや学級目標をもとに、学校行事を盛り上げ成功させるため、自分たちの力でできることは何かを考え、実施できることを話し合う。実行委員での活動を取り入れることも有効である。自分たちで行事を創り上げるんだという思いをもたせることが大切である。

③ 活動目標や活動内容の決定



そのために・・・

学校のスローガンや学年スローガンを達成するための自分のめあてや自分の思いをもち、自分の役割を意識しながら活動できるようにする。めあてカードに書き、掲示するなど常に意識できるようにすることが大切である。

3 活動中の指導の流れ（3年生展覧会、2年生学芸会での実践より）

学校行事における「自己実現」の具体的な児童の姿

- ・自らのめあてを決め、仲間と共に取り組んでいる。
- ・所属感や連帯感をもちながら、一つの目標に向かって取り組んでいる。
- ・同じ役割の友達とよりよくするために話し合ったり助け合ったりする。
- ・友達を助けることに喜びを感じている。
- ・自分にできること（役割）を通して、集団に貢献している。
- ・やりたいことをできる場がある。

④ 体験的な活動の実践

共同作品作り。
ぼくたちのテーマは宇宙。
体育館のギャラリーを飾ろう！



大切な作品。
協力して運ぼう！



活動ごとに振り返りの時間を設定し、頑張ったことや友達のよさを伝え合う。協力して活動している場面を見つけ、児童同士での認め合いや、教師からの称賛の場を大切にする。

4 事後指導の流れ（3年生展覧会、運動会での実践より）

学校行事における「自己実現」の具体的な児童の姿

【自分】

- ・自己肯定感の高まり。
- ・めあてを達成できた。
- ・今までの自分と違う、成長を実感できる。
- ・自分が頑張れたことや、成長を喜ぶことができる。

【他者との関わり】

- ・行事前よりも自分のことが好きになっている。
- ・友達との関わりが深まっている。
- ・努力したことを認めてもらえる。
- ・学校行事の達成感を味わうことができる。

【次に向けて】


- ・自分のめあてについて達成感をもち、さらに次のめあてについて考えている。
- ・将来の自分につなげる。
- ・新たな課題を見つける。

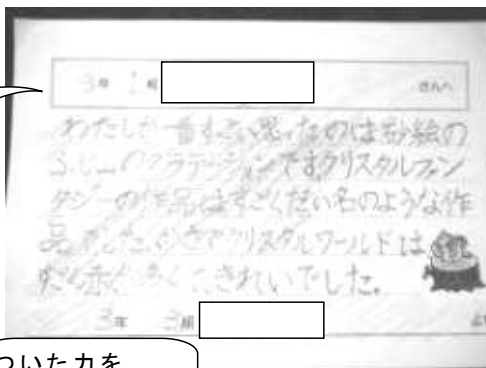
⑤ 振り返り

メッセージ交換


自分の作品をじっくり見てもらえて嬉しかった！

自己肯定感の高まり




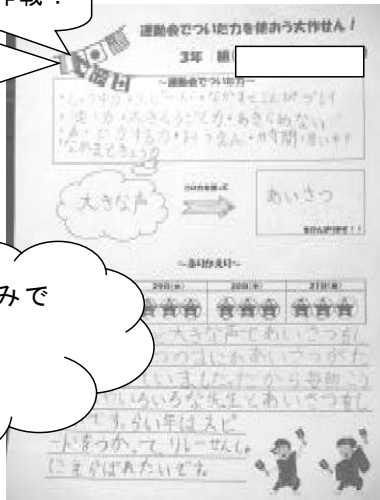


ついた力の明確化と活用



ついた力を使おう大作戦！





運動会の取り組みでたくさんの力がついたよ！

事後指導では、行事を振り返ると共に、毎日の生活の向上や次の行事につなげていける取り組みを行うことが大切である。

5 カードの活用の仕方（3年展覧会、子どもまつりでの実践より）

【3年生展覧会めあてカード】

学校のスローガン

行事を盛り上げるための作戦

自分のめあて

学級目標を意識した作戦名

明日は展覧会！

振り返り

メッセージ交換コーナー

【全校共通子どもまつりめあてカード】

代表委員会で提案されたスローガン

負担にならないものから全クラスに紹介し、印刷して配布し広めていく。

自分のめあて
スローガンのようにみんなで「みんな店を行きたいです。」

振り返り
スローガンや自分のめあて、☆3つの自己評価から振り返ってみよう。

観点は、発達段階に応じたものにする。今回は、「進んで活動」、「工夫して活動」、「協力して活動」の3観点を☆3つで自己評価。

学校行事のめあてカードは、行事の内容、発達段階において様々な工夫ができるものであり、記録を積み重ねていくことが自己実現を目指していく上で大切なものになる。

IV 研究の成果と今後の課題

1 成果

☆自己実現につながる児童の姿を明確にすることで、具体的な手立てを検証することができた。また、児童自身が成果と課題を知り、次の行事につなげることができる事前・事後指導の在り方を明確にすることができた。

☆学年間や異学年間の情報共有の場として、掲示板を活用したことで、互いのよさを伝える機会を増えるとともに、児童がこれまでの成長の過程やこれからの見通しを共有しながら、行事に取り組めるようになった。

☆事前事後指導や掲示物の工夫をしたことで、行事で自分たちに付いた力を実感でき、各自が自信や次の行事への意欲をもてるようになった。また、学年全体で成果を共有することで、互いのがんばりやよさを認め合い、自己実現につながるめあてを立てる意識が芽生えた。

音楽会では、もっと自分のできることを増やせたよ。



みんなで取り組んだことで、チームワークもよくなったね。



友達にほめてもらってとてもうれしかった。

2 課題

★事後指導の振り返りを、日常の学校生活や次の行事へのめあてにつなげていく手立てを検証していく。

★個人のためを決めていくために小集団での話し合いをどのように生かしていくか、またそのためにどのような話し合いの方法が有効であるか方法や形態についても考えていく。

★学校行事の事前・事後指導の流れや、ワークシート、掲示板の活用方法など、どの学校でも実践でき活用できる実践事例を作成し、東京都全体に広めていく。

学校行事は、学校みんなのものです。教師も子どもたちのために協力して取り組みましょう！



今年度の研究にたずさわった人

部長	原田 恵子	中央・有馬小	部員	竹田 桃子	練馬・上石神井北小
副部長	中西くみ子	北・田端小	部員	本橋 治	練馬・大泉学園小
副部長	田所貴美子	中野・南台小	部員	新井 宏恵	中野・南台小
副部長	松本 明子	北・浮間小	部員	白波瀬奈那子	千代田・昌平小
副部長	四本 真美	大田・嶺町小	部員	兼古 勇祐	江東・有明西学園
会計	檜山真理子	足立・舎人第一小	部員	高橋 創	清瀬・清瀬第三小
授業者	榎本 誠太	多摩・多摩第二小	部員	上野 純	中央・有馬小
授業者	山内 佳奈	江東・有明西学園	部員	三浦 晴代	大田・蒲田小
授業者	久原 千恵	板橋・北前野小	部員	宮口 大介	中野・新井小
部員	平山かおり	目黒・鷹番小	研究部副部長	吉田 有子	清瀬・清瀬第三小
部員	矢幡 衣身	西東京・向台小	アドバイザー	齋藤 厚代	元学校行事部長

研究の成果と今後の課題

研究部長 氣田 眞由美

研究主題「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」のもとに、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4活動部が実践的な研究活動を行った。

本研究主題での研究1年目となる今年度は、各活動及び学校行事のそれぞれにおける「自己実現」の捉え方を明確にし共通理解を図った。また、具体的な子供の姿を明らかにし共有した。さらに、話し合い・実践・振り返り・次の課題解決という一連の学習活動過程を大事にした授業実践に取り組んだ。

新たな研究主題での初年度に当たり、まずは本研究会として「自己実現」をどう捉えるかについて、夏の拡大研究会及び冬の宿泊研究会等を通じて熟議を行い、共通理解を図った。そして、各研究部・学校行事部においてその具現化のための授業実践に試行錯誤しながら取り組んだ1年目であった。

具体的な研究の成果というところでは、まだ不十分ではあるが、新学習指導要領が目指す資質・能力の育成の特別活動における重要な3つの要素の一つである「自己実現」について、議論をし、まさに合意形成を図ったことは大変意義なことであったと考える。

また、各活動及び学校行事の研究が「自己実現」という一つの核を共有して進められたことも、今後、これらを一層関連させながら指導を行うことの重要性を再認識することができ、成果の一つである。

スタートを切ったばかりの研究ではあるが、さらに実践を裏付ける理論・仮説の検証に取り組み、汎用性・再現性のある提案を行っていきたいと考える。

2030年の社会を見据え、そこで生きて働く力を育成するために示された新学習指導要領の実現を目指し、特別活動で育成する資質・能力を子供たちに身に付けられるよう、東京都の特別活動を推進するという気概と責任をもって、さらに次年度の研究に取り組んでいきたい。

東京都小学校特別活動研究会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都小学校特別活動研究会といい、事務局を会長校に置く。

第2条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょにおける小学校特別活動研究団体の連絡機関とし特別活動の振興を図ることを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために、次のことを行う。

- ① 東京都23区、市、郡、島しょ研究会との連絡提携に関すること。
- ② 特別活動の研究、及びその助成に関すること。
- ③ 研究物・機関紙の発行に関すること。
- ④ この会と同じくする研究団体との連絡提携に関すること。
- ⑤ その他、この会の目的を達成するために必要なこと。

第2章 役 員

第4条 この会は、東京都23区、市、郡、島しょを単位とする研究会・学校及び特別活動に関心をもつ個人をもって組織する。

第5条 この会に次の役員をおく。

- ①会長1名、副会長若干名
- ②庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長
- ③学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の各部長
- ④会計若干名
- ⑤参与
- ⑥相談役

第6条 会長・副会長及び会計監査は理事会において選出する。理事は23区、市、郡、島しょから選出する。庶務・会計・研究・事業・編集の各正副部長は会長が委嘱する。各部長は各活動部において選出する。

第7条 会長は、会務を総理し、この会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その会務を代理する。理事は、重要事項の審議をする。

第8条 役員任期は2年とする。ただし、重任することができる。役員に欠員が生じた場合、補欠役員任期はその残任期間とする。

第9条 (1) この会に、顧問をおく。顧問は歴代の会長とし、現職にある間は参与とする。

(2) この会に、相談役をおく。相談役は、会長が役員経験者の中から委任する。

第3章 会 議

第10条 この会の会議は、次の通りとする。①総会 ②理事会 ③役員会

第11条 総会は会長が招集し、毎年1回開催する。ただし、必要に応じて臨時に開くことができる。総会の議長は会員から選出する。

第12条 総会に付議する事項は、次の通りとする。

- ①予算の決議及び決算案の承認
- ②会則の変更
- ③その他重要な事項

第13条 理事会・役員会は会長が招集し、会議の議長は会長が当たる。

第4章 会 計

第14条 この会の経費は、加盟研究会の負担金とその他の収入で支弁する。負担金は、年間1校当たり

1000円を基準とする。

第15条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- <付則> 1. この会則は、平成2年5月より実施する。(平成5, 8, 11, 23年一部改正)
 2. この会の運営に関する細則は、必要に応じて定めることができる。

各業務分担

庶務部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間業務計画の作成と推進 ・顧問、参与、相談役、役員、理事、部員名簿の作成 ・役員会、理事会、総会、研究発表会等の案内状の作成と発送 ・上記諸会合の進行と運営
会計部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予算計画の立案と予算執行 ・都助成金申請及び決算報告提出 ・帳簿管理 ・決算事務（会計監査との連絡）
研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・研究基調提案の策定と提案（研究主題の基本的な方向性について） ・年間研究計画の立案と推進 ・4活動部による研究推進 <ul style="list-style-type: none"> （1）学級活動部 （2）児童会活動部 （3）クラブ活動部 （4）学校行事部 （5）新教育課程プロジェクトチーム ・4活動部との連絡、調整（研究部会・拡大研究部会の開催） ・関係研究団体との連携、協力の窓口 ・一日研修会の研究推進業務 ・研究出版等に関わる内容の業務 ・各地区の研究活動の把握
事業部	<ul style="list-style-type: none"> ・一日研修会の立案と運営 ・各種懇談会、懇談会の企画と運営（総会・研究発表後の懇談会等） ・研究紀要の発送業務 ・研究出版物の頒布に関する業務
編集部	<ul style="list-style-type: none"> ・会報の編集、発送業務 ・総会、研究発表会の記録・編集 ・一日研修会の記録、編集

令和元年度 東京都小学校特別活動研究会
顧問・役員・本部幹事・理事・副理事名簿

1 顧 問 (歴代会長)

	代	氏 名
顧 問	1	高杉 新作
”	2	斉藤 敏夫
”	3	保科 明敏
”	4	山田 明
”	5	白井 健二
”	6	小谷 威
”	7	久納 六郎
”	8	小島 明
”	9	中田 英義
”	10	広瀬 英二
”	11	外村 近
”	12	小河 一久
”	13	古橋 宏
”	14	岩園 敏明
”	15	佐藤 弘
”	16	小川 國壽
”	17	小野 眞澄
”	18	松野 彰夫
”	19	小池 宏
”	20	沖山 重次
顧 問	21	大谷 徹夫

	代	氏 名
顧 問	22	星野 隆治
”	23	米本 滋雄
”	24	小川 進一
”	25	高松 和彦
”	26	中川 健二
”	27	森山 裕夫
”	28	川嶋 武司
”	29	小野 莞一
”	30	藤縄 清
”	31	鹿海 治
”	32	井上 和芳
”	33	棚田 政治
”	34	藤本 仁
”	35	長田 信彦
”	36	若林 彰
”	37	(参与欄)
”	38	上野 研二
”	39	石井 友行
”	40	山口 祐一
”	41	(参与欄)
”	42	(参与欄)

2 参 与 (歴代会長) ◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

代	氏 名	地区・校名	学校電話	F a x 番号
37	◎ 関 幸 治	港 ・ 青 南 小	03-3404-8605	03-3404-8600
41	◎ 清 水 晶 子	中 央 ・ 有 馬 小	03-3666-5702	03-3668-2364
42	◎ 赤 羽 根 智	東久留米・第二小	042-471-0134	042-472-7981

3 役 員

役 職 名	氏 名	地区・校名	学校電話	Fax番号
会 長	◎ 小 島 み つ る	北 ・ 西 浮 間 小	03-5915-0133	03-3967-1135
副 会 長	◎ 木 田 明 男	小 平 ・ 小 平 第 三 小	042-321-0189	042-321-0164
”	◎ 新 井 正 一	新 宿 ・ 落 合 第 三 小	03-3565-0941	03-3565-0976
”	◎ 伊 藤 幸 一	東久留米・南町小	042-461-2662	042-463-4927
”	◎ 岡 野 範 嗣	大 田 ・ 東 六 郷 小	03-3732-9311	03-3732-9312

役職名	氏名	地区・校名	学校電話	Fax番号
庶務部長	◎ 今田 喜紀	板橋・志村第三小	03-3961-1562	03-5375-5781
庶務副部長	◎ 中村 和弘	江東・毛利小	03-3631-1647	03-3631-3458
庶務部員	□ 吉田 和子	江東・毛利小	03-3631-1647	03-5690-4020
〃	□ 鬼木 雅人	東久留米・第二小	042-471-0134	042-472-7981
〃	□ 三浦 聡子	東久留米・第二小	042-471-0134	042-472-7981
会計部長	◎ 橋本 弥記	国分寺・第八小	042-573-2241	042-571-3343
会計副部長	○ 吉田 有子	清瀬・清瀬第三小	042-493-4313	042-495-6033
〃	○ 小山 晴美	練馬・石神井台小	03-3928-7124	03-3929-9051
会計(学級活動)	□ 奥山 優子	江戸川・第六葛西	03-3688-0485	03-3688-0510
会計(児童会)	□ 畑 理恵	葛飾・南奥戸小	03-3692-8877	03-5698-1741
会計(クラブ)	山口 哲郎	葛飾・本田小	03-3694-1362	03-5698-1739
会計(学校行事)	□ 檜山 真理子	足立・舎人第一	03-3897-9917	03-3897-9918
研究部長	◎ 氣田 眞由美	板橋・上板橋第四小	03-3932-6317	03-3931-2144
研究副部長	◎ 篠遠 信行	文京・根津小	03-3822-4731	03-5685-4925
〃	◎ 福山 広伸	中野・北原小	03-3330-2411	03-3330-2412
〃	○ 神谷 なおみ	江戸川・南小岩小	03-3657-1565	03-3658-5833
〃	○ 平松 隆行	東村山・南台小	042-391-8117	042-397-5406
〃	○ 佐藤 美德	多摩・貝取小	042-376-0234	042-337-7637
〃	◆ 大藏 久美	小平・小平六小	042-341-0356	042-341-7467
〃	◆ 渋井 洋子	東久留米・南町小	042-461-2662	042-463-4927
〃	◆ 大野 和代	足立・千寿第八小	042-461-2662	042-463-4927
〃	◆ 宮内 有加	中央・明石小	042-461-2662	042-463-4927
研究部員	□ 佐藤 真美	小平・小平第十二小	042-342-1761	042-342-1760
事業部長	◎ 田村 亜紀子	練馬・北町小	03-3932-3296	03-5920-0333
事業副部長	○ 佐藤 千晴	国分寺・第二	042-572-8192	042-571-3318
〃	◇ 齋藤 光代	足立・東綾瀬小	03-3620-7141	03-3620-7142
事業部員	□ 兼古 勇介	江東・有明西学園	03-3527-6401	03-3527-6407
〃	高野 慶文	多摩・東落合	042-376-6214	042-337-7639
〃	佐藤 麻美	豊島・高松小	03-3956-8157	03-3959-9607
〃	□ 梶井 綾	目黒・八雲小	03-3718-6306	03-3718-5752
〃				
編集部長	◎ 石田 孝士	世田谷・塚戸小	03-3300-5166	03-3300-5174
編集副部長	○ 大野 正人	練馬・大泉北小	03-3925-5912	03-5387-2192
編集部員	□ 藤井 美貴子	世田谷・中町小	03-3703-0651	03-3703-0691
〃	酒井 博子	東久留米・第六小	042-471-5370	042-472-7984
〃	仕道 祐紀	世田谷・塚戸小	03-3300-5166	03-3300-5174
〃	梶原 真唯	東久留米・第二小	042-471-0134	042-472-7981
学級活動部長	◇ 藤田 寛樹	文京・湯島小	03-3813-6061	03-5689-4550
児童会活動部長	◆ 大藏 久美	小平・小平六小	042-341-0356	042-341-7467
クラブ活動部長	□ 高橋 信行	足立・千寿第八小	03-3888-7826	03-3888-7827
学校行事部長	□ 原田 恵子	中央・有馬小	03-3666-5702	03-3668-2364
会計監査	◎ 梶 千枝子	品川・旗台小	03-3785-1729	03-3785-1753
〃	◎ 澤井 康郎	東久留米・第七小	042-471-7548	042-477-5677

4 理事・副理事（上段が理事、下段が副理事）

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
1	千代田	富士見	◎霜田 浩明	03-3263-1006
		翹町	◇寺田 美弥	03-3263-7337
2	中央	月島第二	◎鈴木 政博	03-3531-7268
		明石	◆宮内 有加	03-3541-8335
3	港	赤坂	◎齋藤 恵	03-3404-8602
4	新宿	落合第三	◎新井 正一	03-3565-0941
		淀橋第四	◆日高 千晶	03-3227-2105
5	文京	誠之	◇森 直美	03-3811-7171
		湯島	◇藤田 寛樹	
6	台東	谷中	◎園部 謙一	03-3828-92-18
7	墨田	第一寺島	◎近藤 幸弘	03-3614-0103
		隅田	木戸田正大	03-3614-0203
8	江東	砂町	◎市川 修	03-3644-0703
		毛利	◎中村 和弘	03-3631-1647
9	品川	旗台	◎梶 千枝子	03-3785-1729
		第二延山	◎滝淵 正史	03-3781-1348
10	目黒	鷹番	□平山かおり	03-3714-2594
		東根	□網田 宜朗	03-3424-4511
11	大田	北糀谷	◎細井 鏡子	03-3742-5371
		東六郷	◎岡野 範嗣	03-3732-9311
12	世田谷	塚戸	◎石田 孝士	03-3300-5166
		京西	◎菅谷万里子	03-3700-1128
13	渋谷	長谷戸	◎佐藤 公信	03-3464-1349
		富谷	◇原口 直巳	03-3467-7892
14	中野	平和の森	□宮口 大介	03-3389-1451
		本郷	□古川 初音	03-3381-7255
15	杉並	三谷	◎加納 直樹	03-3390-0164
		東田	其田 晶子	03-3313-1464
16	豊島	巣鴨	◎伊東 弘志	03-3946-9551
17	北	西浮間	◎小島みつる	03-5915-0133
		浮間	□松本 明子	03-3969-0491
18	荒川	第六日暮里	◎島埜 秀男	03-3800-3474
		峡田	◎津田 利枝	03-3801-0708
19	板橋	上板橋第四	◎氣田眞由美	03-3932-6317
		志村第三	◎今田 喜紀	03-3961-1562
20	練馬	北町	◎田村亜紀子	03-3932-3298
		北町	□神山 卓也	03-3932-3296
21	足立	東栗原	◎伊地知広竹	03-3883-4215
		千寿第	□高橋 信行	03-3888-7826
22	葛飾	亀青	◎佐久間貴広	03-3601-8255
		東柴又	◎島野 浩之	03-3658-5191
23	江戸川	平井南	◎岡田 盛雄	03-3681-4532
		平井西	◎春日 静子	03-3612-9498

No.	区市町村	校名	氏名	学校電話番号
24	八王子	みなみ野	□星野 哲朗	042-637-1151
		愛宕	田村 優樹	042-678-2566
25	立川	第九	竹谷 走	042-536-2231
		第十	□伊藤 宏章	042-536-2711
26	武蔵野	第五	□赤松 栄介	0422-51-2196
		境南	□横山 由希	0422-32-3400
27	三鷹	北野	□佐藤 友是	0422-47-0551
28	青梅	第四	◎岡田信一郎	0428-22-7268
		第三	中村 恭大	0428-31-7266
29	府中	南白糸台	◎森嶋 正行	042-365-5381
		府中第二	◎柏原 学	042-361-9002
30	昭島	武蔵野	◎岡部 操	042-543-8666
		武蔵野	◇佐藤真由美	042-543-8666
31	調布	北ノ台	□関 聡司	042-485-1291
32	町田	三輪	◎高澤 善幸	044-988-5214
		七国山	□坂本 理恵	052-791-2171
33	小金井	小金井第二	◎諏訪伊都子	042-383-1142
		南	海野 太亮	042-383-1149
34	小平	小平第三	◎木田 明男	042-321-0189
		小平第	◆大藏 久美	042-341-0356
35	日野	東光寺	◎高橋 大造	042-584-6200
		夢が丘	◎植田 卓	042-591-7011
36	東村山	南台	◎平松 隆行	042-391-8117
		南台	□小倉さえ子	042-391-8117
37	国分寺	第八	◎橋本 弥記	042-573-2241
		第七	◎藤原 栄子	042-322-0047
38	国立	国立第七	◎清原 周栄	042-575-8425
39	狛江	狛江第一	◎森永ひさぎ	03-3480-0241
40	東大和	第九	◎小須田哲史	042-564-3251
		第九	◎富田 和巳	042-564-3251
41	清瀬	清瀬第三	◎吉田 有子	042-493-4313
42	東久留米	南町	◎伊藤 幸一	042-461-2662
		第二	◎赤羽根 智	042-471-5370
43	武蔵村山	第三	◎前川 潤	042-561-1753
		第三	◎毛塚 洋一	042-561-1753
44	多摩	東落合	◎鈴木純一郎	042-376-6214
		聖ヶ丘	◎高寄 浩三	042-374-0647
45	稲城	長峰	◎古門 雅司	042-331-3111
46	羽村	羽村西	◎町田 恵美	042-554-2034
47	あきる野	五日市	◎遠藤 裕孝	042-596-0017
		多西	□乙津 優子	042-558-1128
48	西東京	東	◎三澤 亘潤	042-421-6009
		東	□宮腰 幸子	042-421-6009

※ 47は、あきる野市のみです。

（福生市・日の出・瑞穂・檜原は理事不在のため別送）

◎校長 ○副校長 ◇主幹教諭 ◆指導教諭 □主任教諭

あ と が き

副 会 長 木 田 明 男
(小平市立小平第三小学校長)

従来の学習指導要領には、共通理解事項として「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」「イ 基本的な生活習慣の形成」「ウ 望ましい人間関係の形成」「エ 清掃活動などの当番活動等の役割と働くことへの意義の理解」「オ 学校図書館の利用」「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」「キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」(ア～キ)がありました。

新学習指導要領の「2 内容」部分(2)には、現行の共通理解事項の文章が追加され、新設された(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」に移行された事項が示されています。特に、学級活動(2)は、「関係する教科等における学習や、個々の生徒指導との関連を図りつつ、」教師が意図的・計画的に指導する」と明記されています。

また、文科省の国立教育政策研究所「指導資料」には、「一人一人の児童が、個々に応じて目標を決め、その実現に向けて取り組む活動」であると明記されています。

そのような中、本研究会では研究主題を「集団や自己の生活上の課題を解決し、『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」として、研究部と連携をとりながら学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4つの活動部が授業研究を中心に実践的な研究活動を行ってきました。特に本研究主題での研究1年目となる今年度は、東京都小学校特別活動研究会として「自己実現」をどう捉えるかについて共通理解を図ることを目指してきました。研究の経緯などについては、研究の成果と課題を参照していただきたいと思います。

結びに、本研究を進めるに当たりご支援ご助力を賜りました東京都教育委員会、各地区の教育委員会及び理事の皆様、快く会場をご提供いただきました各校の校長先生、教職員の皆様方、関係各位に感謝申し上げます。また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・安部恭子先生をはじめ講師の先生方には、懇切丁寧なご指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

東京都小学校特別活動研究会 研究紀要第56号

**「集団や自己の生活上の課題を解決し、
『自己実現』を目指す力を育てる特別活動」**

印 刷 令和2年2月14日

発 行 令和2年2月14日

編 集 東京都小学校特別活動研究会

発行者 会長 小島 みつる

北区立西浮間小学校校長

印刷所 (有)二葉謄社

電話 042-479-4360